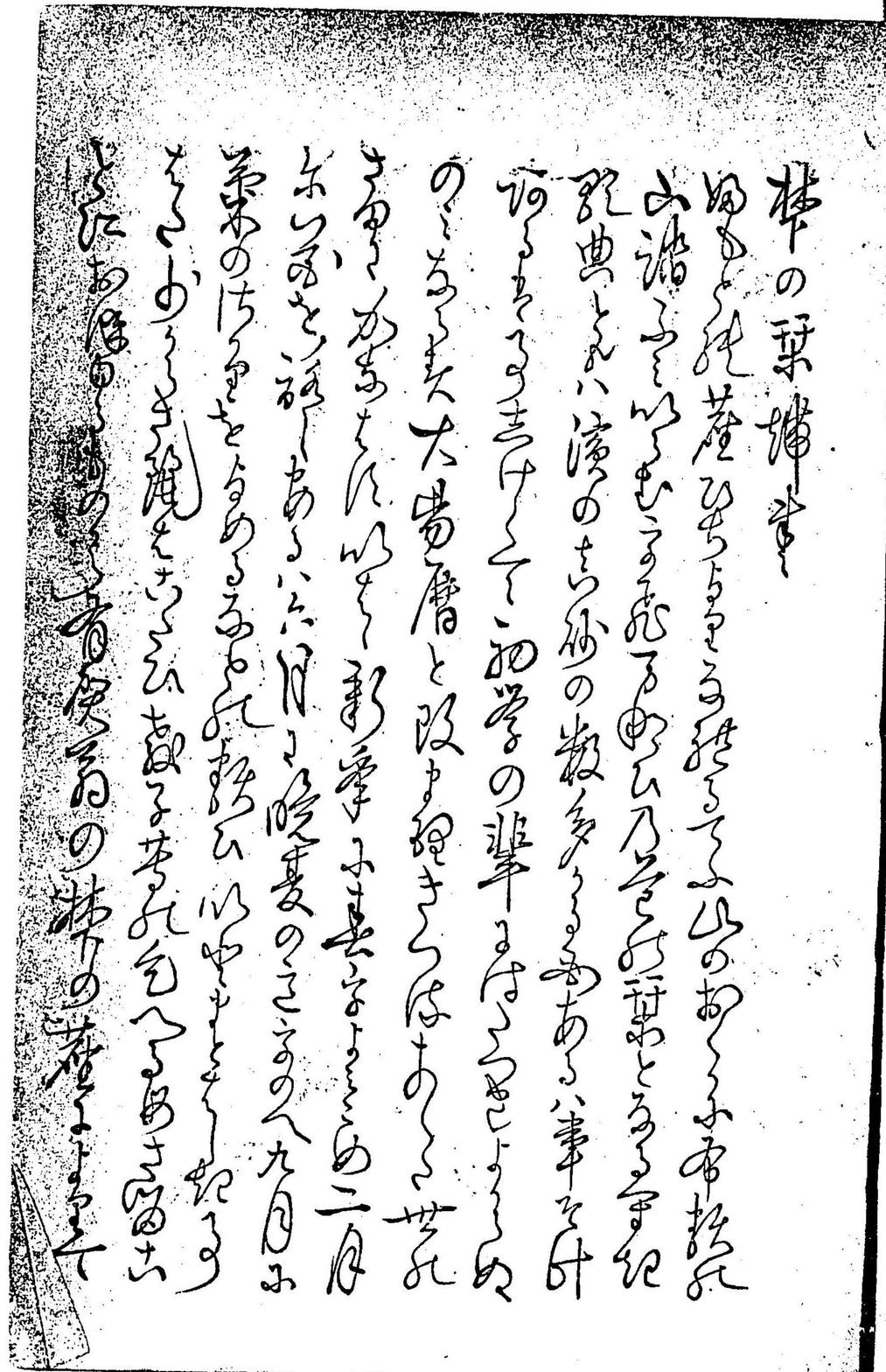
和歌禁止柴折

完

此は柿本人麿朝臣の眞影なり小野篁の筆跡其他の古圖を參考して此圖を造をり朝臣は聖武天皇の神龜元年に卒せられ其齢四十七八歳なりしといへり今の世に傳はれる人丸老翁の畫像は白川院れ御時藤原兼房といふ人歌道に志深くゐねて人丸を仰き慕はれしに或夜夢の感得によりて寫しとゞめられしを白河院に献せられゝれゝ寶藏に納めさせ給ひしを顯季卿强て彼畫像をまをしこひ繪師信茂に寫させて盛に影の式供など行ゝれしとゐされは此道に志あらん人ゝ此朝臣を仰きたふとみて其恩賴をこひのみ奉るべきてとにてろ



このみちのかたり暖屋のあるじ古の物語り
なりひとし題ごとにかゝりし四季は氣候によりたるを
あまき新手部をこの外歌詞釋なるものゝつぎを
しりまて多くの今の世に行はれさるあ
る日彼鶴とのみやひとには古さま隱れ皇國の
まことに文伝へよ上巳七夕なるとの歌字のえ記
書新題をつけてまた更にあらずみのね
ふるきなくく まことに思ふ書の志
をさむもとこのくは

明治丙申二月　編者誌

和歌麓の栞上巻目次

○新年部
○新年　一
○四方拜　三
○元始祭　同
○新年宴會　四
○朝賀　同
○若水　五
○試筆　同
○春部
○春　七
○立春　同
○春氷　八
○霞　九
○鶯　一〇
○若菜　一二
○子日　一三
○殘雪　同
○餘寒　一四
○梅　同
○柳　一六
○若草　一七
○蕨　一八
○春曙　同
○春月　一九
○春雨　二〇
○歸雁　同
○春駒　二一
○雉子　二二
○雲雀　二三
○呼子鳥　二四
○櫻（花題數種）　同
○野遊　三四
○遊糸　同
○遲日　三五
○曲水宴　同
○桃花　三六
○燕　同
○菫　三七
○蛙　三八
○苗代　三九
○躑躅　四〇
○馬酔木　四一
○梨花　同
○牡丹　四二
○杜若　同
○山吹　四三
○藤　四四
○暮春　四五
○夏部
○夏　四七
○首夏　同
○更衣　四八
○餘花　同
○新樹　四九
○新竹　五〇
○卯花　同
○葵　五一
○郭公　五二
○早苗　五四
○菖蒲　五五
○橘　五六
○樗　五七

○梅雨　五八
○水雞　五九
○夏月　六〇
○鬨菱　同
○夏草　六二
○鵲河　同
○照射　六三
○螢　六四
○夕顔　六六
○蚊遣火　六七
○遵　同
○氷室　六八
○百合　六九
○夕立　同
○蟬　七〇
○扇　七一
○泉　同
○納涼　七二
○夏祓　七三

○秋部

○秋　七五
○立秋　七五
○殘暑　七六
○七夕　七七
○萩　七八
○蒜　同
○女郎花　八〇
○湯　八一
○刈萱　八二
○蘭　同
○草花　八三
○朝顔　八四
○葛　同
○露　八五
○小鴈狩　八六
○虫　同
○松虫　八八
○鈴虫　同
○促織　八九
○鬱虫　同
○蟋蟀　同
○鹿　八九
○秋夕　九〇
○稻妻　九二
○雁　同
○霧　九四
○月（月題數種）　九五
○駒迎　一〇五
○野分　一〇六
○擣衣　同
○鳴　一〇七
○鶉　一〇八
○菊　一〇九
○紅葉　一一〇
○秋田　一一三
○暮秋　一一四

○冬部

○冬　一一五
○初冬　同
○時雨　一一六
○落葉　一一七
○木枯　一一八
○殘菊　同

○霜　一一九
○枯野　一二〇
○寒草　一二一
○寒蘆　一二二
○氷　一二三
○冬月　一二四
○衾　同
○椎柴　一二五
○薪　一二六
○千鳥　同
○水鳥　一二七
○殘雁　一二九
○網代　一三〇
○霰　一三一
○雪　一三二
○雪（雪題數種）　同
○鷹狩　一四二
○炭竈　一四五
○埋火　一四六
○神樂　一四七
○歲暮　一四八

和歌麓の志乎理下卷目次

○戀部

○戀　一五一
○初てひ　一五四
○忍戀　一五五
○思不言戀　一五六
○初言てひ　仝
○顯戀　一五七
○聞てひ　一五八
○見てむ　一五九
○祈てひ　仝
○尋てひ　一六〇
○久てひ　仝
○不逢てむ　一六一
○逢てむ　一六二
○逢不遇てむ　仝
○契てひ　一六三
○誓てひ　仝
○憑てひ　仝
○疑てひ　一六四
○待てひ　一六五
○不堪待てひ　一六四
○稀てむ　一六五
○別てむ　仝
○後朝てひ　一六六
○增てひ　仝
○切てむ　一六七
○思出切てひ　仝
○思　一五七
○片思　一五七
○厭てひ　一五八
○絕てひ　一五九
○絕後驚てひ　仝
○恨てむ　一六〇
○老てひ　一七〇
○初てひ　一七〇
○遠てひ　一七一
○近てひ　一六二
○旅てむ　仝
○夢てむ　仝
○通書てひ　一七二
○戀命　一七三

○雜部

○天　一七五
○日　仝
○星　一七六
○風　仝
○雲　一七八
○雨　一七九
○火　一八〇
○烟　一八二
○塵　仝
○曉　一八三
○朝　一八四
○晝　仝
○夕　一八五
○夜　仝
○山　一八六
○嶺　一八八
○杣　一八九
○谷　一九〇
○洞　一九〇
○坂　一九一
○岡　一九二
○路　一九三
○關　一九四
○驛　一九五
○林　仝
○森　一九六
○橋　一九七
○野　一九九
○原　一九八
○田　仝
○石　二〇〇
○海　二〇一
○湖　二〇二
○濱　二〇三
○島　二〇四
○浦　仝
○潟　二〇五
○濱　仝
○崎　二〇六
○湊　二〇七
○灘　二〇八
○迫門　仝
○泊　仝
○津　二〇九
○洲　仝
○瀧　二一〇
○河　二一一
○淀　二一二
○渡　二一三
○沖　仝
○磯　二一四
○淵　二一五
○瀬　仝
○岸　二一六
○澤　二一七
○池　二一八
○江　仝
○沼　仝
○井　二一九
○堤　二二〇
○水　仝
○浪　二二一
○潮　二二二

○國　二二二
○都　二二三
○禁中　二二四
○舊都　仝
○故郷　二二五
○水郷　二二六
○郡　二二八
○里　仝
○山家　二二九
○田家　二三一
○寺　二三二
○市　二三三
○閑居　仝
○屋（家宿庵）　二三四
○閨　二三七
○軒　仝
○庭　二三八
○垣　二三九
○籬　二四〇
○門　仝
○窟　二四一
○戸　二四一
○窓　二四二
○隣　二四三
○草　仝
○芝　二四五
○萍　二四六
○蘊　仝
○蔦　二四七
○菅　仝
○蔦　二四八
○淺茅　二四九
○蓬　仝
○葎　二五〇
○苔　二五一
○忍草　仝
○忘草　二五二
○思草　仝
○鴨頭草　二五三
○かや　仝
○沼繩　二五三
○莫鳴草　仝
○莎草　二五三
○和布　二五四
○海松　仝
○うつら　仝
○鞭草　二五五
○濱木綿　二五六
○藍　仝
○紅　仝
○紫　二五七
○つはな　仝
○花かつみ　二五八
○こなき　仝
○澤瀉（水草類數種）　仝
○青蓼（草類數種）　二五九
○芭蕉　二六一
○篠　仝
○竹　二六二
○木　二六四
○枝　二六五
○梢　仝
○葉　仝

○榑　二六五
○松　二六六
○杉　二六八
○榊　二六九
○椿　二七〇
○柏　二七一
○楢　二七二
○桂　二七三
○槙　仝
○檜　二七四
○栗　仝
○桐　二七五
○梅　仝
○李　仝
○杏　仝
○柿　仝
○桑　二七六
○櫸　仝
○榎　仝
○檀　二七七
○木兎　仝
○梟　仝
○のもめ　仝
○ひえ鳥　二七八
○さゝなき　仝
○ぬえ　仝
○しとゝ　二八一
○いろるか　仝
○山雀　二八二
○小陵鳥　仝
○四十唐　二八四
○かやくき　仝
○鶺鴒（鳥類數種）　二八五
○龍　仝
○虎　二八六
○熊　仝
○猪　仝
○牛　二八七
○馬　仝
○猿　二八八
○犬　仝
○むろ　二八九
○合法　仝
○楪　仝
○つま、　仝
○合歡木　二九〇
○樫　仝
○逸師　仝
○櫪（木類數種）　仝
○鳥　二九一
○鷹　仝
○鶴　仝
○鷲　二九二
○鷄　仝
○烏　仝
○雀　二九三
○鴉　仝
○鳩　仝
○山鳥　二九四
○都鳥　仝
○鷲　二九五
○鵜　二九六
○あふ鵜　仝

○狐　二九七
○兎　仝
○猫　仝
○たぬき　二九八
○鼠　仝
○貉　仝
○象　仝
○龜　二九九
○貝　仝
○虫　三〇〇
○我柄　三〇一
○あきつ　仝
○くも　仝
○蘭　三〇二
○蟻　仝
○玉虫　仝
○蟻　仝
○蓑虫　三〇三
○ゐたつふり　仝
○魚　仝
○鯉　三〇四
○鮒　仝
○鮎　仝
○す、き　仝
○蟹　仝
○御調　仝
○酒　仝
○藥　二九九
○文　仝
○書　三〇〇
○硯　三〇一
○筆　仝
○玉　仝
○金　三〇二
○銃　仝
○釼　仝
○弓　仝
○箭　三〇三
○杖　仝
○蹴鞠　仝
○蓑　三〇四
○笠　三〇四
○衣　仝
○裳　三〇五
○布　仝
○錦　仝
○帶　三〇六
○紐　仝
○緒　三〇七
○糸　仝
○綿　三〇八
○髮　仝
○櫛　仝
○枕　三〇九
○筵　仝
○床　三一〇
○簾　仝
○琴　三一一
○笛　三一二
○鐘　三一三
○車　仝
○筏　仝

○船　三二七
○楫　三二九
○帆　三三〇
○碇　仝
○苫　仝
○網　三三一
○繩　三三二
○綱　仝
○注連　仝
○幣　仝
○木綿　仝
○祓麻　三三三
○海人　仝
○遊女　三三四
○傀くつ、　仝
○樵夫　三三五
○老　三三六
○匠　仝
○商人　三三七
○隱士　仝
○仙人　仝
○漁父　三三七
○僧侶　三三八
○縉紳家　仝
○父母　三三九
○子　仝
○夫婦　三三九
○眺望　三三一
○述懷　三三二
○懷舊　仝
○離別　仝
○哀傷　三三三
○旅　仝
○旅汨　三三四
○海路　仝
○夢　三三五
○無常　三三六
○神祇　三三七
○釋教　仝
○祝　三三七
○薄暮　仝
○深夜　仝
○到曉　三三七
○風前　三三八
○寄月　仝
○群山　仝
○谷そこ　三三九
○淵底　仝
○遠路　三四〇
○居所　仝
○幽栖　三四二
○水卿　三四三
○城外　仝
○窓中　三四四
○水路　三四七
○古渡　三四八
○孤島　仝
○植物　三四九
○動物　三五〇
○留人　三五七
○幽情　三五九
○感思　三六一
○驛中　三六二
○蝙蝠傘　三六三
○寫眞　仝
○望遠鏡　三六九
○茶　三六八
○煙草　仝
○鐵砲　三六七
○皇居　仝
○君臣　三六五
○內閣　仝
○練兵　仝
○憲法發布　三六六
○國會　仝
○萬國交際　三六六
○皇軍遠征　仝
○勳章　仝

○遐年　仝
○社頭　三七〇
○何在　仝
○言志　仝
○未遍　三七一
○積年　仝
○映日　三七二
○馬上　仝
○高低　三七二
○非一　三七三
○遠近　仝
○天象　仝
○地儀　三七四

○新題部

○天長節　三七五
○紀元節　三七六
○新嘗祭　三七七
○皇靈祭　仝
○招魂祭　三七八
○國躰　仝
○國敎　三七九
○國族　三七九
○文明開化　三八〇
○復古維新　仝
○開拓　三八一
○學校　仝
○幼稚園　三八二
○公園　仝
○病院　三八四
○博覽會　三八五
○新聞紙　仝
○郵便　三八六
○電信機　仝
○電氣燈　三八七
○時計　仝
○寒暖計　三八八
○滊車　三八九
○鐵橋　三九〇
○馬車　仝
○人力車　三九二
○滊船　仝
○輕氣球　三九四

目次了

和歌麓の栞上卷

岡 楢翁撰述

新年部

新年

としのたしめ　元日　一月一日　あらたまの年　ふひとし　あたらしき年

太陽暦と改まりてゝよろつ其さだめよ従ふへきなれゝ歌題のことき也是までのまゝよりてゝこのゐひ難きこと多し昔しと立春のさはをいへと新年よりもゝのゐひしを今ゝ冬季なれゝ其こゝろえなくてゐゐさるあり新年ゝ元日と同しなれともまゝ大らかよ六日七日ころまてをもいへりのとゝとゝへる言春ゐらねともよをゝるうゝ多し

○年さつ○年あけて○年立のへる○荒玉のとし○初日ゝけ○あさ日のゐまひ○むかふ日かけ○春ゆゝ紀○日ゝけのとゝよ○初日の匂ふ○豊さゝのほる○天の戸の○あくるけしきの初日のひかり○天つそら○まゝ春ゐらて○心のとけし○月日のたしめ○鳥の初こゑ○ゝ玉め引○ゝりくめ縄○千ひろの玉め○門の松竹○門こゝゝ玉め引ゝゝし○松さてゝゝし○若水くむ○きのふをこそ○一夜のへゝて○四方のそら○あしゝの空○年を待えて○年をむゝへて○年をむゝふる○年のほゝこと○立替る年○千代のたしめ○千里をゝけて○やゝくいたふ○玉のゝめの空○天の戸の明るあし

さ○めてさき○うれしき○年のほきてと○御酒くまられし○さらほうひ○日うけのまたさ○またさろ、けて○さて豆さほ○大路のむさて○御たたのあひき○新らしき年の光り○年の初風○餅のか、み○くすり酒○々ふくみそむる○いくめくり○くまかむす○々さい鳥さへ○あふくまたら○君の代の○八千代をこめて○神代より○御代をことほき○親をいたひ○をさな子も○鞠をつき○羽根をうち○人こ、ろ○老をヨすれて○都もひなも○祝ふ諸人○年ある御代の○日の本の○之ぬちてと〳〵○豐年の貢○々さの御雪○雪ふりか、る○とつ國かけて○恵まあまねき○々ふといへい○千里をかけて○々さまれは○千年のかけ○きのふにまぬ○朝戸出に○朝戸あけて○朝日さす○神かきに○祝むをろかま○朝きよめ○朝日をろかま○日の出待えて○朝日のとけき○宿のあそひ○ひなもにきたふ○さかゆ之御代に○千代のたしめ○道ある御代○御稜威か、や之○のら國も○ちたのひなひ之○朝風に○年立々さの○大御代を○いは、ぬ、なし○たつもことほ之○雲井にまふ○鶴の聲○あしたつの聲○梅もにほへり○雪の中に○梅さきいて、○春をもまたぬ○鶯の聲

雪氷松竹梅鶴鶯山河海（よゝ合）

雪玉　あらたしき年をむかへて鏡山世よくもりなきひかりそふらむ

月　ひろといへい久しくなれるて、ちして思へいよいのべさて之々り

千代田　明らけき年のたしめろ今日とてや民の心ものとけのるらむ

○四方拜

一月一日乃曉よ天皇御親ら屬星を唱へて皇祖皇宗を始め天地四方乃諸神を拜し給へる御式なり

○そへらき○そめらまこと○年のたしめ○朝まさき○四方のそら○星をとなふる○天津神○國津神○皇御おや○雲の上○雲井の庭○光のとけき○ろけたらむ

家集　となへまほ星も志らまて初日影のとろよ勾ふ四方の空ろあ

○元始祭

年のたしめの御祭

一月三日の朝宮中よ於て天皇御親ら賢所並よ八柱の大神天神地祇歷朝の皇靈をも祭らせ給ひて實祚無窮國家安穩を祈らせ給ふ歳首の御祭祀あるよりて元始祭と稱ス

天つ御祖の神○皇神さち○天つ神國つ神○神の御心○神の御稜威○神のちたひ○神のまさ波○のして所○神なら○神の御前○神の御末○年の始め○神まつり○皇ら き○そめらまこと○御親ら○神を祭らそ○天つ日繼○國中おさひよ○をさまる御代○いたひそめけん○國もも之ろよ○仕へまつらそ○ろけまくもろしてき神○々ふの御祭○神の御前○いのき○玉のき○御代安のれと○祈らぬ、あし

風雅　天つ神國つ社をいたひてそよろ蘆原のくよ、をさまる

桂園集　神ゐおほ神代あめつちの天の戸をおしひらきてや見そなはしそらん

○新年宴會　としの始めのそうさけ々ふのうたけ

一月五日宮中ゑ於て親王大臣及ひ華族勅任の諸臣ゑ宴を給へるあり

○宮人○雲の上人○ゐしの位○うさけそる○々ふのうさけ○雲井の庭○あらきさの

しむ○百敷の○大宮人○千代萬代○千代のとしめ○豐さき○御酒くさ〻りし○めく

る盃○あのゑのほゑ○光りも玄るし○々ふのまとね○都もひあも○うたけたのしみ

○たあつものやち、にうちて○いはひそめゑき

万　新ちしき年のとしめゑ思ふとちいむをてをれゐ嬉しくをあるら

井上家集　御酒さはふ年の始めのとつうさけひあも暦のうへゑとてそをれ

未詳　々ふてとわあまてる御酒やいつくしき八州ゑあまる始めなるらん

○朝賀　さらとをろき

一月一日の朝昔しゐ大極殿ゑて此式行ゐれ其後清涼殿ゑて小朝拜行ゐれしを今ゐ

宮中ゑ於て親王大臣以下勅奏任以上朝賀の式行とる、なり

まねのゐる○まうつる○朝まさき○朝日ら、やく○馬車をろとをろうき○雲の上ゐ

九重の庭○大内山○いさましく○まねうてをとる○御としのそと○雲井みのゐる○

つのさ人○尤宮人○年のとつ空○打つらありて○打つ、く○寶田の○千代田の御城

に○櫻田の○車のひ、き

勢海　つのさ人打つらありて馬々るまのゐる雲井のとしのとつ空

同　宮人らきろとをろきゑ行こはのよほろも年のとつよそひせり

○若水　ゑらきつ

元日の朝くきそめさる水をいへり君ら八千代のらけをうつし或ゐゑろえもくさま

ゑよせていとひのて、ろをよめり

くきあくる○うらゑろ水○むすふも清き○ゑこのえて○千年のこけ○板井の水○千代

のらけそふ○きさらし川○御もひ○玉まり○いく井のきつ○さ久井○打むらふ○心

も清さ○むそふ手ゑ○口そ、く○心もすか〳〵し

鶴山殿七百首　年てとゑ々ふ結ふてふ若水ゐ老せぬきき〻ゑ為めしなるらむ

千　君らさめきさらし河を若水ゑ結ふや千代の始めなるらむ

勢海　若水を々さくきあけてむそふ手ゑあまるや千代の雫なるらむ

○試筆

一月一日二日ゑ筆をとりてものを書ろむるあり硯ゑむらひて筆をとるさま或ゐ世

を祝ひてめてさきてとをのへあるゐ志をいひ身のさちを孫のふなとくさ〳〵ある

へし

硯の海○筆の林○水莖のあと○こゝろの花○ことの葉の匂ひ○玉やひろとん○濱邊よ
あさりて○ことしてそ○梅の香匂ふ○千代のさめし○君の八千代○ことほき
家集　おくさりし去年のすゝりを洗ふよも今年ハ塵をすゝしとそ思ふ
勢海　筆とりてむつのふも嬉し今年こそすゝりの海のさきもひろとめ

春部

梓弓春　ころも春　このめ春

○春

春ハ草木發生の時にて人の心もあらたまり梅の花鶯の聲もいとゆゑのしゑ打のすむ野山をミれハそゝろうき立櫻の花のうちく〳〵とよほひ出たるなと總て春の歌ハいとのどのあるのたよあはれふのゑよみ出へきことそのし

昔し太陰暦の時ハ年の始めなりしを今ハ去のらを立春の節をもて春を去るへしそへて春ハのとのあるをむとゝもへし

○春されは○はるにあふ○はるかけて○はるめく○はるの色○春のかけ○のとけし○春日うら、に○花鳥の春○道ある春○はるのひかり○世は春なれや○ころもはる風○はるのこゝろ○はるのあらし○このめけふる○春もいく世○はるの山ふみ○はる立しより○さほ姫（春を司る神なり）　さをはる　はるたち

○立春

立春は春さちける日をいひて一日ゐかきれり初春早春ハたしめの比なり

○春の來る○はるきぬと○立そむる○はるに今○けふの春○よもの春○春くらし○春きては○はるといへは○春さつ〻ふ○春ろ去らる、○心のとけし○春きにけらし

○花の春たつ○はる來る道○春といふより○春に逢ぬる○波に立そふ○春たつ色○鳥のはつ聲○はしめのはる○春きてみゆる○初はるかせ○春待えたる○春の初花○今朝の初春○はるとはしるき○立そむるかすみ○はなとりの春○詞の花のはる○人の心のはる○吹かはるかせ○山松のみどりにかへる○氷る春しる〳〵霞む○まゝ深からぬ春の色○もろこしかけて○おとつれ初るうくひす○三冬つき春くる

立春

後　春さつと聞つるゝらに春日山きえあへぬ雪の花とぞもらん

寛永九　ひとよねて霞てめたる天の戸や春たつとをよもにみそらん

初春

新千　あしひきの山はかそめと出る日の影もくもらてはるはきにけり

仝　うちなひき春のみどりも青柳のかつらき山や先かすむらん

早春

新拾　春はまたはつせのひはら霞めとものこる雪けにさゆる山風

家集　降つみし雪もけなくに春きぬと霞むはかりの天のかく山

○春ノ氷

うそこほり　あつこほり　うそらひ　さるひ

冬の氷のとくるよしをも又消え殘るよしをも又さえかへりて春の氷の又結ふよしをもよむなり

○またむそふ○かせわたる○うちとくる○あとみゆる○下とくる○ひまみゆる○こほり氷らぬ○つれなくのこる○氷あかる、○こほりにかへる○うち出る波○池のこゝろ○春のうそらひ○とけてぬるめる○むほほ、れ○むら〳〵にのこる○春のくるあと○さえかへるゐみ○こち風にとくる○さゐかへるこほり○うち出ぬ波の花○きはの波にうく○春風もまた吹とかす○日影さをかたへはとけて

後　水の面ゐあやおりそさる春風や池の氷をゝふいとくらん

六　春風の吹そめしより瀧つせの氷もとけて花そちりける

○霞

はる霞　八重霞　朝霞　夕霞　薄霞　一むら霞

霞ハ春三月よりたりてよめるなれと霞と出たる題には初春の霞をよむへし

○山かくす○たゝひとへ○峯いくへ○けさいくへ○ぬきうすき○むらかすみ○横かすみ○うはかすみ○殘みとり○かすみあふ○くれなゐ○かそみゆく○行手にかそむ○霞にたとる○かそみを分る○霞にとさそ○かてふかすみ○かそみのまかき○かすみのまと○霞にしつむ○かそみのみたれ○霞にまかふ○霞にくもる○かすみにけらし○霞のそこ○峯にも尾にも○かすみのふく○かすみたゆたふ○霞のひかり○かすみのたちと○かすみあまきる○かすゝなかる、○かすみの水尾○霞にむせふ○老のかすみ○かすみの波○かすみの沖○八重たちこむる○霞もしけし○霞かくれ○かすみをくゝる○霞をよする○天のはころも○かすゝのそて○霞をつたふ○かすみのほ

ら(仙洞)○よものかすみ○かすみいろてき○日をへて霞む○かすみにつゝく○霞のうみ○かすみそわたる○くもるかすみ○霞にとほき○なひくかすみ○たちもさためぬ○春のころも○遠山もと○ほの〳〵霞む○かすみにゐひく○をちかた霞む○松風かすむ○花のおもかけ立そむる○世におほふろて○春の光に、ほふ○はるの光になひく○遠近かけて霞む○見る〳〵もいや重りて○立なひく霞やいくへ○霞うきたつかすみきらへり○山のはにほふ○山もと深くかすむ○さは姫のゆたかにたつ

延文百首　草も木もまた見えわかぬ春の色のあらはれ初て霞む空のを

仝　立なひく霞まいくへふことに又とはさかるよもの山のゝ

○鶯

春の鶯　谷鶯　初鶯　友鶯

谷より出て梅また竹をとにやとりてさへつるさまのいとのとかなるをよむへし

○きゐく○さへつる○しはなく○霞にむせふ○そてもれる○うちはふく(羽風なり)○人くやと○はやきなけ○籠のうち○春つけて○雪にゐく○なれつゝきあけ○花になく聲○軒のうくひす○聲めつらしき○よふかきまと○こほるなみた○ひなのうくひす○聲ろ春ある○ひとり春しる○あにはつの春○はつね春めく○聲の匂ひ○とふへき梅○うつるうくひす○雪のふるそ○また里馴ぬ○ひなのうくひす○春の色しる聲の色香○ねくらさためよ○春の里とふ○花をもさそへ○雪につゝめる○春しり初る○人待かは○匂ひ出たる○ふるす戀しき○花まつころ○花のねくら○よはのうくひす○さへつり初る○人くといとふ○ちよのはつね○ちよの聲ある○こそのふる聲としのはつね○聲うちいつる○うちとくる聲○時ある聲○聲のあやおる○おりはへて鳴○よをこめて鳴○はつかにゐく○をちかへり鳴○霞にまよふ○高木にうつる○花にうつろふ○南にうつる○ふるすのやま○谷にもこもれる○ねくらの梅○雪の花かさ○妻をもとむる○こはれる涙○なみたとけ行○また春なれぬ○花をはくゝむ○花をともなふ○はるのつかひ○春をあらろふ○聲はしはれぬ(雨によせて)○こゑあらはし(さへぎりならふなり)○身をうくひす(述懷なり)○きなきをよも冴○百よろこひのはつね○梅か香のしるへ○呉竹にねくらしめたる○おのの名の百よろこひ咲やらぬ花をもさそへ○かたことのはつね○ふるすのはつね○匂ひ出たる聲○うくひすと鳴つる鳥○南さす枝にゐく○もとのすの契り○宿かれ〳〵にゐく○尾羽打ふれて鳴○鶯の笠にぬふてふ梅

○名所　○常磐山山城　○小倉山同　○吉野大和　峰の花園　青根瀧　水分山　御垣か原　○葛城山大和　とよらの寺　○老曾　杜近江　か、ゝ山　○白川、關陸奥　○春日野大和　山邊の道　○飛火野同　○難波潟摂津　○布引、瀧同　○音羽川山城　○深草、里同

新續古家集　のとかなる日影と、もに軒ちかき梢にうつるうくひすの聲

呉竹のよふかき聲にやとりつるねくらしらる、春の鶯

○若菜

初ものかな　朝ものかな　濱若菜　磯若菜

古しへ正月七日野邊に出て若菜をつみて食すれは万の病また邪氣をのろくどいへりまた七日にかゝらす七種の若菜をつみて賞翫したりとそ

○な、くさ○若なつむ○小萩つむ○年をつむ○つみたむる○もえろむる○つみはやす○なつな草○磯菜○深せり○賤の女○うらわかき（葉末なり）○野さは○深田○ろは田○二葉なる○野つかさ○下もえそむる○袖にすゝなき○打むれてつむ○すゝなす、しろ○ねせりもとむる○すろの、わかな○雪消のもかな○鴨の羽色○若菜つむ籠○かきねの小菜○あらふねせり○芹つむ小田○水田の小せり○ゑゝろわかな（ゑゝはせりなりゑことも云り）○袖振はへて○神に手向る○もゆるわかな○雪間ろわかな○心をもろへれもかな○里人れつみあらふ○はつ〳〵れもかな○水田れあせに引せり○七ゝされおもれ

◎名所　◎飛火野大和　◎布留野同　淺野淡路　◎みゝを野山城　◎小鹽同
大原や　◎さか野同　◎小倉山　◎三笠野大和　◎生田摂津　◎淺澤小野同
◎あには同　◎鳥羽田山城　◎深草同　◎竹田同　せり川　◎布留中道大和

新古　ゝふとてや磯菜をむらんいせしまやいちしろ浦れ蜑を少女子

同　もえ初るわかなも雪もむら〳〵れ野へろ遠近々ふ分てみん

○子日

初子れ日　おとゝ子日

一月初子日野へに出て小松を引て世を祝ひ人をも身をも祝ふあり今ハたえたり

○野邊に出て○引れて○二葉ある○小松原○子ろ日する○引かゝる○むめ小松○ろへろ諸人○はゝ子を祝ふ○思ふとち○よハむをろへに○松ことにこもる千年○代々かけてゝく

◎名所　◎亀尾山山城　◎男山同　◎千代古道同　◎さかれ山同　◎春日野大和
◎吉野同　◎小松原近江　◎志賀濱同　◎二見濱伊勢　◎子日ろ崎丹後

千首　春ことゝ子日にあかぬまとゐして引や小松ろかけろはるけさ

拾　行末も子日れ松れためしゝハ君か千とせをむかんとそおもふ

○殘雪

ろこれる雪

春來ても消ろこりたる雪をいふ又春雪をもよめり

○氷りて殘る○あほ雪さゆる○春來る跡○むらきえろこる○むら〳〵れこる○猶さえ殘る○春ともしらぬ○れこりすゝあき○谷れ下かけ○若草かゝれ○はるかけて殘れる○た、一重れこる○山れはとほを殘る殘る

古　心さし深ゝそめてしをりゝれハ消あへぬ雪れ花とみやらん

家集　さえかへる外山れ松れ下かけに消あて殘るこそれ白雪

春雪

はるれゆき　あゐ雪

春は來りてふれる雪ありされと殘雪とかよはしてもよめり

○たもらぬ○降もたまらて○たもらもりもやらぬ○雪は春風○消るをいそ〻○たもるあゐ雪○はるれあゐ雪○はるふる雪○袖よたまらぬ○春とをゐかぬ○櫻か枝にちる雪○霞をわけてふる○春は名たてれ淡雪

新拾

春風に野澤は氷かたさえてふれとたまらぬ水乃あゐ雪

○餘寒

れてるさむさ

春よりてさえかへり寒さ乃冬にかそらぬをよめり

○春さえて○うたみ火○春しらぬ○猶さはかへる○春としをなき○雪けにれてる○さゆる朝風○かすみをやらす○霞をさゆる○雪けにかへる○猶春さむし○春さむきよ○日影もさむし○まさ肌さむし○猶しミのてる○さむさのそらぬ○春をよそなる○猶風さむし○雪けの風○春しらぬ○春をよそなる○空に雪けの色みせて○山風のさえのこる○ゝすみなゝらにさゆる○氷まさむすふ

新古

空ゝ猶かすみもやらそ風さえて雪々にくもる春の夜の月

新拾

春のきる霞の衣なほさむみもとの雪けの雲に立そふ

○梅

若木の梅　老木の梅　一木の梅　千もとの梅　百木の梅

春の花のはしめにて香をもそらとよめり月雪鶯霞なとよみ合せたり

この花○一花○さたかに○うつり香○ふる枝○折えたしつえ○ほゝえむ○まとの梅○さし梅○梅さく○袖の香○香に、ほふ○梅の初はな○先さくうめ○都のうめ○ねくらの梅○根こしの梅○花の下ふし○梅さく山○梅をはしめ○うすくれなゐ○にほひの淵○梅かをる夜○山下かをる○香をたつぬる○匂ひに霞む○香をなつかしミ○花の香うゝふ○まつ人の香○まとに入來る○立枝かち○冬かけてさく○あるしゆかしき○わかうゑし○老かくるや○袖にてき入る○八重さく梅○枕に、ほふ○梅の花かさ○ほつえの風○匂ひやいつて○雪より匂ふ○花に先立○花の追風○梅か、ふかき○まとの朝風○よそのかきね○おくる匂ひ○かきほの梅○梅か、霞む○梅さくて乃○こすの朝風○袖の梅か、○八重もひとへも○ことはの花○梅かえうたふ○梅の木のもと○梅てそ匂へ○梅のくれなゐ○ゆるし色(紅なり)○梅の一枝○花のさきかけ○たくひなき色香○あにはつの春しる○こすの外にかをる○軒の玉たれまく袖○行てみぬかきね○ありとやて、に匂ふ○おそくもとくもさく○たか袖わかを匂ふ○紅のころめの梅○月の南のうめ○垣ねあまたの梅○南や北のうめ○さかつきにうくる○梅の下行やり水○のきねつ、きのうめ○末つむ花の色○風にあまる匂ひ○万代のかさし○鶯さそふ花○まくらとふ匂ひ○雪の下より咲○よふかきまとにほふ○ときもてか引庭に匂ふ○てそめの色のちくさ　(紅白也)

◎名所　◎くらふ山山城　◎梅原同　◎梅津川同　◎かつら川同　◎伏見ノ里同　◎初瀬山大和　◎佐保山同　◎春日野同　◎飛鳥川同　◎かつらき山同　◎梅原山近江　◎水茎ノ岡同　◎歸る山越前　◎曙山未詳　◎布引川摂津　◎霞の里常陸　◎ねさめの里同

拾新後拾　朝またきおきてそ見つる梅花よのまの風のうしろめたさに

梢をはよそにへたて、梅花かすむかゐより匂ふ春風

○柳

やなぎ　青柳　糸柳　さし柳　小柳

みとりの色の風にゐひきゝるさまを糸によせてよめり

かたいと○露みえて○花田○くり出す○ふし柳○岩やなき○朝ねかみ○もえ出る○下もえ○色つく○あをやなき(猿澤)○したりを柳○やなきの糸○井抗の柳○釣をたる、○手染の糸○初花かつら○柳のけふり○かさしにさす○ろともの柳○門もるやなき○まもかきたる、○夕日をそむる○みとりのかけ○風によらる、○霞になひく○冬木の柳○ひまゐくなひく○柳のかみ○なひくすかた○風の青柳○みとりになひく○風のすかた○糸のみとり○枝の朝風○波にひかる、○春いくかへり○かきねの柳○そのふの柳○なひく柳○はいりの柳○にひ桑まゆの糸○青柳のかけふむ道○田中の道のふる柳○さほ姫の春のかつら○をちかた野への柳原○かけを流れて行水○露の玉かつら

◎名所　◎青柳の杜近江　◎逢阪關同　◎關の小川同　◎布留野大和　◎春日野同　◎浮島原駿河　◎加茂川山城　鴨の羽川とも　◎音羽川同　◎宇治川同　◎佐保川大和　大和の邊　みよしの、　◎廣澤池山城　◎猿澤池大和　◎住の江摂津　細江とも　◎籬島陸奥　◎八橋參河　◎西大寺大和　◎飛鳥寺同

後新續古　鶯の糸よるてふ玉柳ふきゐたりろもるのやまらせ

はる風のふかぬたえ間もしら露のむそへはなひく青柳の糸

○若草

わかくさ　春草

二題ともにかよはしいへり野へ岡へ水邊垣根なとにもえ出る小草をよめり

春草○わかはさす○いやおひ○下めくむ○芝生○はつ蝶○きさす○青む○生いつる○おひさき○つのくむ(芦荻)○雉子○はるのみとり○もゆるみとり○野への芝生○おのかさま〳〵○霞をそむる○またはつかなる○波の下草○草のはる風○野への小草○ねよけにみもる○生さきゝゆる○春のかきね○いその若草○古葉にましる○にひわかくさ○ふるねの荻○ひとつ二葉○こその草葉○こそのかれは○また草た、ぬ○おひもなつまぬ○葛の下もえ○雪間待出る○雪の下もえ○荻のやけ原○けふりみしかき(もえ出るをいふ)○若菜さを葛○わかくさの花さく○もえ出る小くさ○若草のにひ手枕

◎名所　◎小鹽山山城　老曾ノ杜近江　かゝみ山　◎嵯峨野山城　◎春日野大和

◎吉野同　◎三笠野同　◎なには摂津　◎那古ノ海同　◎水無瀬川同　◎深草ノ里山城
◎布留ノ中道大和　わすれ水

拾　野へみれゝ若菜つみけりうへしてそ垣ねの草も春めきにけれ
新後拾　雪きゆるかれの、下の淺ゝとりてその草葉や根にかへるらん

○蕨　早蕨　さつわらひ　かきわらひ　下わらひ

二題とも同し大かた折を節にかよとし又蕨火にかよはしてもよめり

うちわらひ○家つと○き、す○岡邊○柴人○里人○手こゝに折○春のさわらひ○岡こえの道○峯のさわらひ○谷のさわらひ○折しる色○折もたかへぬ○春の折しる○むらさきのちり○あさるわらひ○かた山はた○ゆき、の道○行手のわらひ○下もゑいそく○陰野のわらひ○山のさわらひ○松の下わらひ○袖の下わらひ○つま木にをりそふる○道のたよりにをる○散しく花の下蕨○苔の上なるさわらひ○青柳のかけふむ道○道のかへるさ家つとに手折

◎名所　◎けしきの杜大隅　◎しめちか原下野　◎あつまの小野大和　◎しのふの岡陸奥　◎小野山山城　◎春日野大和　神山　◎富士の裾野駿河　◎片岡山大和

新續古　山かつの時そともなきすさひにもをりは忘れぬ春のさわらひ

○春ノ曙　はるのあけぬの

夜の明んとして物の色なとみえそめ横雲の棚引て有明の月もやう〳〵うすれ行をいふ

月の名殘○しの、めの空○明ほの、山○霞むあけほの○花よりしらむ○むかしに霞む○花の横雲○花に明ゆく○あけほの霞む○山もとかすむ○横雲かそむ○山櫻戸のあゝほの○かすみに殘る月○霞める空のあけほの○しらみ行○明かたちかし○曉月夜の明ほの○さく花のおもかけ匂ふ○花鳥の色ねをこむる

風雅　見ぬよまて思ひ殘さぬなかめよりむかしに霞む春のあけぬ乃
千　春ゝ猶花の白ひもさもあらはれた、身よしむゝあけほの、空

○春月　春のよの月

打霞ミて影のおほろなるさま又さえのへりてかすみあへぬよしにもよめり

月かすむ○霞まてのこれ○かすむならひ○月の匂ひ○かすみのおく○霞にのこる○かすみに、ほふ○霞にふくる○霞むよの月○猶かけさむし○かすゝも馴ぬ○春の時しる○花しく底○かをみはうとき○かすみてそめる○霞をいてぬ○花のかけもる○春やむかし○れほろに霞む○かをみにしつむ(憂沈む心なり)○霞を出て匂ふ○おほつかなくも出る○おほろゝに霞む○霞の淵にしつむ○梅かをる軒はの月○霞の袖につゝむ○霞のそてにのこる○老の涙にくもる○雲なき空に霞む

新古　照もせすくもりもたてぬ春のよのおほろ月夜にしくものそなき

家集　ことはりの春のものとは霞むとも雲をかくしそよはの月かけ

○春雨　そるさめ　小さめ

音なくしつかに降るものあれはをのめかちにさひしとも又木の芽もえまさり花を催し草葉をめくむよしあとよめり

かすむあめ○雨かすむ○こさめふる○にはたつみ○ほそくふる○みとりそふ○けふいくか○つく〳〵と○つれ〳〵○降ともわかて○霞にしめる○春にうるほふ○梅かゝしめり○降も音せぬ○かすむ春雨○くるゝもわかぬ○かすゝ立そふ○雨になる夜○ゆふへ淋しも○春雨の庭○時しる雨○なゝ雨のろら○糸くり出す○ふるとしもなき○しつけき雨○雨に春しる○雨の數みる○もゆるこのめ○山のは消る○花のしつく雨にうるほふ○いとよりかくる○軒の糸水○雫もかをむ○春の村雨○春雨のやと○霞にそゝく○めくみにもれぬ○霞よりふる○霞む夕の軒は○降とたにしらぬ○草も木も緑にかへる○春雨染る草○花のしへもふ糸○風たえてかすむ○松のみとりをそふる○老のなみにあらろふ

後　春雨のふらゝ野山にまさりなん梅の花かさありといふなり

續後拾　春雨は軒のいと水つく〳〵と心ほろくて日をもふる哉

○歸雁　かへる雁　春の雁

秋こし雁の春のなかはにかへる也御國の花にそむきてとこよにゝへるともこしちにかへるともよめりかりかねは雁の鳴音なるを今ゝ雁のことにもいへと雁のねの聲なとはよむへからす

今はとて○かへりゆく○羽のはす○よるの峯ゆく○聲さへ霞む○春行のり○なのりて過る○見おくる月○春のかよひち○雪ふるさと○旅に年ふる○のへらはいろけ○のすみゝくれに○歸るならひ○あとさきに行○ゝへりわつらふ○有明の聲○つらみたれゆく○雲ねに消る○ゝすまてのへれ○とひ分いぬる○いろく行へ○霞めはのへる○名殘のすめる○霞むのりのね○霞む雲路○つはさ消行○ふるさといろく○のへる雲路○のへるさの聲○見えのくれして○雲の通路○春のゆこれ路○ひとつらの行へ○雲に入霞に消る○月になく〳〵のへる○同し道にとゆく○なきのへるなみた○霞のそてにつゝむ○都のなてり○霞の北になく○玉つさのはし書○花待山にのへる○墨染の夕にのへる○聲吹送る春風○霞の波をたつ○誰にならひてのへる○春のしらへのことち○あひも思ひてのへる○秋の涙をはしてのへる○つはめ來る時（舊二月中に來る）

拾　見れとあらぬ花の盛よりへる雁猶ふる里の春やこひしき

家集　立とのれ行のたとほく雲に入のすみにぎゆる春の雁のね

○春駒　若駒　はるのこま　荒駒

こまは子馬なれとのる駒なと常の馬よりもいへり春野の若草もゆる比はちらふもの
なり
はなちらふ○聲いさむ○立めくる○あれゆく○はなれ駒○なつくる○ひく○ある、
○あつむ○いはふ○黒こま○あしけ○月毛○つるふちの駒○風にいはゐる○友よふ
駒○草はむこま○關の春駒○尾花あし毛○青さきこま○と、めもあへぬ○妻あらそ
ふ○むら友こま○のひの黒駒○尾ふちの駒○みきははなれぬ○たなれの駒○野への
春駒○いさめるこま○春のあらこま○いはふ春駒○見えみ見えすみ

●名所 ◎穂坂牧甲斐 ◎小笠原同 ◎鳥養牧(カヒ)山城 ◎淀野同 ◎美豆御牧同
◎小野の御牧常陸 ◎望月の牧信濃 ◎逢坂關近江 瀬田橋 ◎いはれ野大和
◎玉野の原同 玉の横野河内 ◎学生野伊勢

詞 眞こも草つのくみもたる澤へにはつなかぬ駒もとなれさりけり
後拾 立はなれ澤邊にある、春こまはおのゝ影をや友とみるらん

○雄子 きし き、す

雄ハ妻をこひ雌は子を思ふの切なるよしふよめり又霞らくれに聲するさまをとよ
めり
たつきし○つまこひ○しけなく○聲しきる○子を思ふ○草らくれ○聲うちむ○朝た
つき、す○ほろ、とろ鳴○片山き、す○山路のき、す○まその、き、す○尾上のき

、す○やみねのき、す○ありの定めぬ○らくろへうぬる○霞のくれ○尾花ら原○の
りはの小野○妻こひの聲○のすめる野へ○のすみを分て○聲らすらなり○す、ろた
ち(心ならすたつなり)つらき妻よふ聲○たつきしの跡あらして○らた岡のき、す○
芝うつりして鳴○春の野にあさる

●名所 ◎小壇山山城 ◎大原山同 小野 ◎さらの、原同 ◎常磐里同 ◎片岡山
大和 ◎春日野 仝 ◎宇陀野仝 ◎三吉野仝

新續古 ら衣すその、き、すうらむなり妻もてもらぬ萩のやけ原
貞享御會 春の日のにおふ名野へを有らにてあさるき、すの長閑なる聲

○雲雀 ひばり あけひばり

子を思ふことの深く空にありても下にある巣を守るとそ又空にて鳴とも草に
入でハあらぬもの也
雲わけて○あらり行○ひはりたつ○ふちくる○らよひち○床しむる○あさち○つは
さも見えず○芝生に落る○雲ゐにあらる○草のはやま○落ても見えぬ○芝生の巣○
いやとほさらる○燒野にらへる○草にハならぬ○つはさやすむる○霞むすらた○な
れしらすみ○霞にまらふ○床は草葉○すみれのとこ○空にさへつる○聲はして翹は
見えぬ○雲に入霞に消る○霞の末に落る○また床しめす鳴○霞と、もにさつ○庭の
すみれに落る○若草の芝生○ひはり乃床

◎名所 ◎吉野山大和 ◎飛火野同 ◎比叡山近江 ◎岡田原同 さゝ波やし
◎みつ乃上野

新後拾 影うつす野澤の水の底ゑれゐあのるも玄つむ夕ひはりゐな
新續古 かすみつる空てそあらめ草の原落ても見えぬ夕ひとり哉

○呼子鳥

よふことり

此鳥今い詳に玄りかたした、人をよふやうになく鳥と心得てよむへきなり
たれよふこ鳥○なけやなけ○山中○山かけ○友よふことり○深山のおく○聲なつゐしく○うゐかなしく○君よひかへせ○有明の空○夕くれ比聲○よはの一こゑ○はやしのこかけ○れほつかあく○しと、にぬれてあく○ゆふへはわきて鳴○山ひこのこたふる○過行春をよふこ鳥

●名所 ◎吉野大和 ◎初瀬山同 ◎御船ノ山同 みよしの、瀧の上の ◎立田山同
◎那らしの岡同 ◎待兼山攝津 山田 ◎か、み山近江 鳴海 ◎守山同
◎いはたの杜山城 ◎信太ノ杜和泉 ◎霞の關武藏 ◎奈古曾ノ關同

新拾 春山比かすみの奥のよふこ鳥世のかくれゐに誰さそふらん
千首 山ふかみ霞にむせふよふことり思ふ心のおくをとは、や

○櫻

花 花さくら 山さくら 庭櫻 家さくら 初さくら
若さくら 薄さくら 犬櫻 ひさくら 糸櫻 八重さくら 一重さくら

玄さゐり櫻 さくら花

櫻といふ題ゴて花とのゑよむへこのましゐらす必す櫻とよむへし花といふ題ゴて櫻をよむいよしといへり又花の題ゴ落花をよむいよろしからすといへり

花なれや○さくら人○花いかた○花こ、ろ○花のふち○枝にてゐる○ひとふさ○花のそこ○花のとも○さくらかり○うすさくら(くらま山)○薄花さくら○本あらのさくら○しら川さくら○むこ山さくら○神路のさくら○なら山さくら○遠山さくら○片山さくら○山さくら戸○峰のさくら木○尾こしのさくら○島のさくら○木曾路のさくら○あら山さくら○八本のさくら○なきさのさくら○あたしさくら○神代のさくら○初花さくら○千本のさくら○花のはやし○みねの花その○花のちもと○花の山ふみ○花のむらたち○花のひかり○花のすかた○つほめる花○はなのふゝき○ゆふ花かつら○花のこゐくれ○花の浮はし○花のむしろ○花の大ぬさ○花のしらゆふ○咲あまる花○こあのかけふむ○はあの村雪○花の横雲○花の初雪○花のさゝなみ○八重散しける○はなみゐてら○はなのところ○ちりのまかひ○さかり過さて○なゐき日あかす○花の下ふし○花の山もり○花くもり○花の一しほ○花になりもく○花のしらきぬ○花乃かさほ○さゑらゐ枝○花もゐたとる○花乃一木○花乃ひもとゑ○霞もにほふ○春のさかり○一木比はな○さかりに、ほふ○まかふ色なき○花の下ひも○花比外なき○花にこと、ふ○花にまちかき○花にまきる、○花もてはやす○

ことゝのはな○今朝の初花○山路のさゝら○花も時しる○八重は白雪○花のよそめ○花の朝かせ○花のひとゝろ○はなのしからみ○花のせきもり○みきゝのさゝら○むらしは花○花のうてな○花のうたかた○花のたより○年にかはらぬ○花よりしらむ○花乃波てす○花折のさす○こゝろは○ろはは○花のか、み○花のゆふして○花のタはえ○こほれて匂ふ○家路わする、○ねゝらゝ乃鳥○をりてかさす○かたえうつろふ○影みる水○あたなる色○花そめゝろも○ゐさりのさゝら○いはとはをゝら（香久山）○高間は花ゝら（かつらきや）○磯ゐのをゝら（あはちしま）○花ぬす人（和泉式部集た、一枝は折てかへらんと云々）○花の舟をす（志賀）○ひら山は花ゝら（湖邊なり）○山のはかけのは花ゝら花○をゝらにをもる山風○をゝらにうすき有明○は花ゝら吹しゝ春風○薄をれなゐの花をかり○花にうきたつて、ろ○あふしに殘る白雪○花に名た、るみや○咲をかす枝わゝ○待えたるて、ろ○ふゝとなきかせ○はほひめのかをしの花○峯てえて手をる○花より出る雲○年にまれなるをかり○心にしむる色香○花の林にぬる鳥○松のはてしの花○をゝふふきまゝ山風○梓弓いそ山をゝふ○花にそむて、ろ○花のかけ行山河○雨にたゝひて散○打たれかみの花のかつふ○庭もはたれに散はな○はゝふ木の葉守の神○花の上におもれる露○年々に待をなふひ

名所　○音羽山山城　○小倉山同　○小鹽山同　○暗部山同　○双ノ山同

○衣手ノ森同　○みかゝ原同　○深草野同　○宇治川同
○厚澤ノ池同　○天はかゝ山大和　○朝ノ原同　○大井河同　○春日野同
○飛鳥川同　○武庫山摂津　○須磨ノ關同　○難波潟同　○布引ノ瀧同
○三津ノ湊同　○信太ノ森和泉　○吹飯ノ浦同　○霞は關武藏　○山田ノ原伊勢
○粟津ノ浦近江　○青柳は橋同　○雄島陸奥　○淡路島淡路　○八橋三河
○佐野乃舟橋上野

後千載　をゝふ花々ふよゝ見てん呉竹は一夜はほとに散もこそすれ
仝　花をかりよもゝ山邊にあをかれて春い心は身にそはぬ哉
色はあほ雲か雪かとまかへても花は匂ひゝにるもはもなき

待花

きはふもゝふも梢をなかめて咲ぬ日數をうふみ峯乃白雲を花にまかへてをかぬ
また心をなををめむなと思ひめをふすへし
花よいかに○まつほとに○まちわふる○をかぬ間○またをかぬ○花をいそを○花
まつころ○花乃おもかけ○みまをほしを○をかぬ日數○いそをて、ろ○つほめる
花○またるゝ花○て、ろいふれ○ををほをいそを○梢に、ほへ○咲花いそを○花
まつほとは白雲○咲ころはまたとほ山○はを比は日數に近き　花ぞちとほにれも
ふ

新續古
後拾　咲やらぬ花をまつちろ山れはに人たろめなる春ろ白雪
　　思ひやれ霞こめたる山をとれ花まつころろ春ろつれ〳〵

尋花

遠を花を尋ねて野山にはまよふ心をよめり尋ねえたるかさはこれましかふす
あをかる、○わけ入○はをふかり○谷かをれ○みねこえて○たつわ入○をきぬや
と○分きても○花れ山ふみ○わやる山路○かへるを遠き○山路くらして○あふを
かきり○花の山路○花のわりか○分こし山○またみぬ花○分しもとほき○花やい
つこと○また花ならぬ○山路の花○ろことなき花の匂ひ○雲もいくへの山路
新千　まかふとはかつしりなから山櫻雲を尋ねて行ぬ日そなき
家集　そことなき花の匂ひに山賤のあしかきまかき分てこそとへ

初花

まちくし花のさき出たるをうれしとめつるなり
かたえ○ひとえに○一木さく○初さくら○待えたる○みろむる○庭の一木○色わ
く花○ひもとき初る○かつさく花○今朝の初花○枝にすくなき○庭の初花○けさ
の一花○このひとはな○またれし花○咲ろむる○ひともと○くれなゐの初花
續勅　咲にけりまやの軒はの櫻花あまりほとふるなかめせしまに

玉葉　大かたの花の盛もほともあらし庭の一木は咲そめにけり

盛花

さきもおくれすちりもはしめぬさのふゝふの花さかりをいへり
咲みちて○花さかり○けふをさかり○梢にあまる○ちるへくもあらぬ○さかりに
、ほふ○咲そふ花○梢あまた○うへなき花の梢
永德百　けふこすはかひなからまし散もせす咲も殘らぬ山さくら哉

折花

折そふる○おるゐた○折つれは○折手○家つと○手折一枝○手折て、ろ○みぬ人
のため○おりてもみまし○手おるさくら○花の一ゐた○枝なからみせはや人に○
一枝ゆるせ
玉葉　おりかさす道行人のけしきにて世はみな花のさかりをろしる
家集　一枝ゝ色香にゆるせ山風にまかせてみんもあたらさくらを

曙ノ花

花の明ほの○花よりしらむ○ほの〳〵と色そふ花○有明籬き花の色
玉葉　あはれしはし此時過てなかめはや花の軒はの匂ふあけほの
御集　かすみ行松はよふかき山のはにあけほのいそく花の色哉

朝ノ花

朝の霞をおひて朝日に匂へるさまいとをかしからん

あさとて○朝かすみ○花の朝風○花の朝露○朝ゐる雲○花の枝ごうつる朝日匂ひをそふる朝日影○きのふにまさる色○朝けの風もよきてふかなん

龜山七首　山ざくらたつる峯もとたへして梢をみする朝かすゝ哉

明て猶殘るとみつる横雲は日かけへたでし櫻也けり

夕ノ花

夕くれの花なり入日にはえあるさまなとよめり

花の夕はえ○くるゝ色なき○くれ行花○花の夕かせ○花の夕かけ○くるゝ木かけ○夕はまさる色○夕くれ深き色○花の色もまたくれはてぬ

風　花の上ゐ玄はしうつろふ夕つく日入ともなしに影さえにけり

文明十三　くれやらぬ光を花に匂はせてさくらかえたに月そ待る、

夜ノ花

下ふし○月と花と○よるも心にかゝる○よるさへ花に安からぬ

見ぬまにも散もやすると山櫻夜も心に花そかゝれる

千首　とゞもしひも春はろむけて月かすむ梢のはなにむかふよなく

山に咲たる花なり山家とはことなり

花なれや○遠山さくら○奥そゆかしき○外山の花○みやまさくら○みねのさくら

雲よりれく○春の山寺○花にわけ入○深山の花○山鳥の尾上のさくら○尾上の花

のよそめ○よもの山邊にさく花○奥ふかく匂ふ○れの、えを花にくたさん○しらきぬに山を包める

新拾　高砂の尾上の雲の色そへて花にかさなる山さくらかな

續千　少女子かかつらき山のさくら花心にかけてみぬ時そなき

岡ノ花

岡こしの袖○かた岡かけてにほふ○咲花にならひの岡○岡のへの松に咲ろふ○岡へに匂ふ

禪林七百　旅人のゆき、の岡の名のみして花にと、まる春のこゝろと

杜ノ花

もりの下かけ○花の下かけ○杜の春風○花に立よる○もりのこかくれ○花も老そ

の杜のかけ○立なれん花のさかり○かさなる花の衣手の杜

千首　さくらさくみかさの杜の枝とに花のしらゆふかけぬまもなし

野ノ花

からころも○旅ねせん○かたの、花○かたの、さくら○花に道ある○花さく野へ
○野への木の本○花のかふのく○野中のさくら○野守か庵の花さかり○ゆくかた
もしはしわすれて○たちよる野への花のかけ○花のかけいくよたひね
續拾　かへるさは遠里小野のさくらかり花にやこよひ宿をからまし

關ノ花

花のせさもり○春の關守○花にと、めし○ちるをと、めよ○はなにゆるすな○關
の戸もはなに明行○はなにと、めぬあらし○關の名の霞へたて、
續千　過かてにゆき、の人の立とまる木陰やはなのしら川のせき

河ノ花

おられぬ水○はなのかけ行○春の山河○さすさはのしつくも匂ふ○はなのにしき
のたつた河○波もさくらにうつろひぬ
續後拾　よしの川波さへはなの匂ひにてかけみるみねに春風そふく

海邊ノ花

はなのしら波○あまのとまやも匂ふらん○はなよりしらむ波の上
續後拾　あま人の袖にほふらしわたつ海のかさしのはなの春のうらかせ

はなのさ、波○さ、なみかをる○まつ風匂ふ○さ、なみちりて○風かをるひらの
、高ねのはな○海ふく風もはなの香そする○はなにはえわる濱松
家集　うち出る波さへはなにほの海やさくらにかをる春の明ほの

遠村ノ花

尋ねはや○かた山もとの○家さくら○さくらさくとをちの村
拾愚　春霞へたてなはてろなかめやる遠山もとのはなのさかりを

庭ノ花

はなさく庭○庭のさくら○宿のはな○ちりつむ庭のはな
千首　あるしてそ數ならねとも庭の面のはないかにと人のとへかし
人はまた咲ともしらぬ庭の面のはなを尋ねてはるのせそふく

落花

はなのちるををしみ或いなけきうらむるさまにもよめり
散ま、に○散とみて○散かた○はなちりて○さそわる、○花をそふつひにちる○
色さえて○うつろふ○中空○ちらし散をぬ○香をへとまらぬ○風にそくもる○は
なのはる風○はなの行へ○をしむまをそふ○あらしのとか○をろひもせす○散を
ならひのはな○ちるはなのひなしき色○をそひ行山風○咲はなをはそふつらはち○

心ちへ空にえたる、○梢ひなしく○終にちるはな
古　久方のひかりのどけきはるの日にえつ心なくはなのちるらん
風雅　ちるはなををしむはかりや世中の人のこゝろのかはらぬらん

○野遊　のへのあそび

春日の長閑なるに思ふとちあるは子らをいさなひてすゑれつゝつはなぬきなとして遊ふをいふ

つはなぬく○すみれつむ○れもふとち○まとゐ○馴ぬる野へ○野へにくらす○かへさわする、○いさなひつれて○末野のはる○つみはやす堇つはな○野へにあくかる、○淺茅か上にあそふ

古　いつまてか野へに心のあくこのれんはなしちらすは千代もへぬへし
元祿御會　れもふとち誘ひつれてけふも又堇つはなの野へにくらさん

○遊糸　いとあそび　あそふ糸

春の陽氣のうら、なる空に糸のゝこる、やうに見ゆるもの也くもりこる日はゝえぬものなり

うちはへて○いくちひろ○くもらぬ空○あるかなきか○春のゝろら○みとりの空○霞のてろも行かたしらぬ空にみたる○くるかたわかて○野へにみたる、○春のいとゆふ○何みたるらん○ろらのいとゆふ○はる、日待てあろふ○春の光にあろふ○霞くれなゐに染る○日もなかくあろふ○さほ姫の手によりかくる
元六百　くりかへし春の糸ゆふ幾世へて同しゝとりの空に見ゆらん
家集　うちはへて何みたるらん春風の吹とし物なき空のいとゆふ

○遲日　おそき春日

春の日のれとかに長くてくれやらぬをいふ

くらしわひぬ○くらしかぬる○くれかたき○いとまある○つれ〳〵○春の日永さ○匂ふ日の影○冬のいくか○さくらにくらす○日もなか〳〵し○ひるまのこと○すかのねの長き春日○ふみも見ぬまと○きのふかと思ふはかり○山鳥の尾のなかき日○くれかたきひかり○行やらぬ日影○さくはなは待間○千里の日くらしなきたる○空の日かけ○世をへたてたるこゝち
六百番　うくひすの百さへつりを幾かへりなかき春日に鳴くらすらん
家集　今朝のほとひるまの空をきのふかとたとるも老の春の日永さ

○曲水宴　くすいのえに

唐土にて陰暦三月三日川邊に詩人打集ひ杯をうこのへて酒のゝ遊ひける事あり御國にもふるく此日曲水の宴の行なはれし事あり時のとなれは多く桃をよゝろ

へたり
けふのなごれ○岩間をくゞる盃○うかふるはなの杯○石間によとむ盃○流れて下
るれろくとくくむ
万　唐人も盃うけて遊ふちふけふろ吾せさはなのつらせよ
草庵　石間ゆくはなのさかつきまてゑはしまたことのは、かきも流さす
ひも、八重も、からも、すも、

○桃花

桃の三千年に一度はなさくといふは西王母の故事なり
はなかつら○三千とせ○はなのさかつき○も、の一むら○桃のはなろの○も、の
にしき○みちよのはな○ろのふのすも、よはのともしひ○くれなゐ匂ふ○岸邊の
も、○桃さくころ○紫の雲○空さへはなにゑふ○桃のはなのさかつき○春くれな
ゐの錦○桃園の花のむかし○下てる山の桃のはな○三千年になるてふ桃
●名所　○くらふ山山城　○三香の原同　いつみ川　衣かせ山　○天の川河内
○桃園山城
○龍門ノ瀧大和　○室生同
御集　夕つく日さすや岡邊の挑のはな空もうつろふ色に見ゆつゝ
千首　はなの名ども、よはあらてみちとせに咲てふたねや仙人のやと
つはめ　つはくらめ

○燕

つはめは鴈と行ちかひて秋さり春くるものなり
つとめくる○鴈かへる○なくつとめ○玉たれ○つとめとふ○かへりくる○つはさ
ならふる○かへる野中○ころの軒は○ふるすわすれぬ○ふるす有と燕や來る○ふ
るす尋ねて來る
夫木　めつらしくつはめ軒はに來馴れは霞かくれに鴈かへる也
草庵　此春もふるす尋ねて山かつのやとを忘れぬつはくらめ哉

○菫

すミれ　つほすミれ　はなすミれ　すミれ草
春野に多かる紫色のはなさく草なり俗にすまふとり草といへるものなりといへ
るはしからすては俗にけんけ草といへる草なりすミれのとてとあるにてもしる
へし
すミれさく○庭にうつす○こむらさき○露にぬる、○てきむらさき○すみれさく
野○つめるすみれ○月もすみれ○ひとりすみれ○しけみか下○まかきのうち○松
かけにさく○荒田のくろ○草のゆかり○新むらさき○うずむらさき○つはなまし
り○ほふすみれ○生るすみれ○ふもとの野へ○行手につむ○袖につミ入る○む
らさきの色こき野へ○名にしれふ紫の野○ゆかりの色にさく○ひとよねし名殘○
下草にまじる○野もせにさく○むのしの春のこたみ○もろ人のつむ○つはなこの下
のつほすみれ○紫野ゆき○しめのゆき○山にすみをつむ○なこのもすろひくをとめ

○故郷に立のへりつむ○野をなつのしをひとよぬる〔女に比する故なり〕

●名所　○奈良・都大和　○布留野同　石上　○志賀・都近江　○武蔵野武蔵

○伏見野山城　○信太・森和泉

新續古　あれはて、淋しきやとの庭なれをひとりすみれのはなろ咲ける

こよひねてつみて歸らんすみれ草小野の芝生に露しけくとも

○蛙

のはつはいと古くは今も清き川瀬にころひ聲して春の末より秋のけて鳴のしろをいへるを後には田沼などになくのへるをよめる事となれりいつれをも難なのるへし

聲きほふ○すむのもつ○すたく○つまよふ○やまふき○なくのもつ○もろこゑ○聲ひ、く○草のくれ○ほりえののはつ○つ、ねののはつ○聲老にけり○よるへのなみ○水のあさ〻○古田のこのはつ○このはつの床○一瀬もよきす○春のわのれ○夕さらす鳴○岩のうつほ○聲なのる、○よる鳴のはつ○あせつたふ聲○雨のくれこのた○聲のしむる○聲のひまなき○聲ろにきはふ○よと、もになく○石井のろこに鳴○鳴のふしとになく○夕のけまたてなく○みてもりにすたく○池のつ、みの下水○春の暮うちむ○このもののもに鳴○はな散の、る山のね○影みぬ水にすむ○こゝのはの種も有りけり○水にすむてふ蛙○折しりのほに鳴○みのくれてすたく

○せき入る水を待えて

●名所　○みなふち山和泉　○玉川山城　○伏見里同　○あかたの井戸同

○飛鳥川大和　○三輪川同　○布留の山田同　○こやの池摂津　○狭山か池武蔵

万十　ゝよしの、岩もとさらす鳴のはつうへも鳴けり河をさやけゝ

新古　折にあへはこれもさすのにあはれなり小田の蛙の夕くれの聲

春ノ田　なもしろ

○苗代

ほら小田をすきのへしあるは井をほり川水をせき入るとして種をまゝなり田の神をいはひてしめなを引はへたるさまをもよめり

水のけ○しめゆふ○たねをのすの○しめはゆる水こゆる○むろのたね○五十串たつる○ますらを○みをさねる○入えせを○あをみ行○たねひたす○たねまを賤○なはしろの垣○のけひの水○あせをのさぬる○水せきいる、○のきねつ、き○あせの細道○荒小田のへす○みとしろ種○のも川水○たなゐのたね○草のりいる、水せき分る○青をわたれる○賤のなはしろ○水ゆたのなる○小田の苗代○しめ引わたす○水せきあまる○春の小山田○をたのしめ縄○田中の道○小田の細みち○まつるなもしろ○水の末々○莽雨にせき入し水○ほまつ神にいのる○細をまのする水○去年入し水の古跡○苗代を守る庵○山川をまのする○雨過る門田

●名所　○鳥羽田山城　○井田の山田同　○伏見の小田同　○竹田同
○布留の早田大和　ふるの荒田　○住吉の岸田摂津　○芥川同
續後拾　せきのをるなとしろ氷のさま〳〵にわをるや人の心なるらん
元金　鴨乃ねる野澤は小田をうちのへし種まきてけりしめとへてみゆ
寛文御會　小山田に引しめ繩乃なのき日もれもへゝ賤いとまなる乃身や

○躑躅

つゝしゝたけ高きをいひ岩つゝしは今はさつききりしまは類をいふといへと今いつれをもつゝしとよゝてしのるへし

つ、し　岩つ、し　はなつ、し　姫つ、し　白つ、し

岡つ、し○タつ、し○となにほふつ、し原○たをほのけ○のちにしき○わの枝○つ、しさを○下つ、し○タ日のけ○ゆるしは色○れをてはつ、し○岩ねに根さす○火よりも高のし○はなは八千しほ○にほふさのり○山下てらす野へはつ、し○つま木にさせる○松乃下てる○木は下うけ○となろをれなね○手をりつ、し○紅よのき○タををなね○つ、し咲比○あのもろ色○このる、色○道もせに咲ををなねろやしほ○松乃下つ、し○かゝやをゝをなね○れもひろ色に出る○ころめろいろ○ふり出て染る雨○春雨にしほるゝ○紅はふりては色○つゝしは原は中つ道○山人はやすむいはね○春雨はふり出つゝ咲紅○咲るつしは紅○あかねさす日は下つゝし○入日さす夕紅は色

●名所　○ときは山山城　○高雄山同　○小倉山同　○音羽山同
○ならいの岡同　小倉原　○岩田の小野同　○玉田横野河内　○大江、浦摂津
○三穂、浦同　○立田川大和　○初瀬川同　○吉野川同　○菅原、伏見同
類　日をさらる外山はみねはつゝし原下てるかけはとなは色かも
後拾　ときも子か紅染は色をゝてをつさいれぬる岩つゝしのな

○馬酔木　あしひ

これをつゝしとよめるも又六帖にあせをとあるも共によろしからすあしひとよむへをさてあしひはとなゝ三月比野山にさゝとなり

春山にさける○磯の上に生る○池水に影ゝゆる○下てる○咲にほふ○えれなね○赤えてる○あしひはとなさえ

磯かけにゝゆる池水てるまてに咲るあしひはちらまえをしも

○梨花　なしはな　山なし　妻なし

万葉なとに此はなをよめる歌いきこえす是い實をめてけるにやあらんされとはなをめてゝ春は題とせる事むけに近き世にもあらさるなり

うらなし○軒はつまなし○雪にまかふ色○雲はれもかけ○かた枝さす

六　世は中をうしといひてもいつこにか身をねかをさん山なをはれとな

○牡丹

木は本は雪と降まてとふ人もなをやてやつひに山なをれとな
ふかを草　はつか草

春は末より夏かけてさをとなりされは夏部に入るゝもあれとをからす
春ふかをイふ○をれなね○白きあかき○むらさき匂ふ○露ふかを○色こき○はつ
かへにけり○手れらまほしき○淺からぬ色
草庵　咲よけり何ゝは色れふかを草さらても人れとなるなる世を
寛永御會　草れ名れとつかようつる日影よもをれなね匂ふ露れとなふさ

○杜若

かきつとさ

むらさきれ色をめて衣に摺つくとも夕垣にとりなしてもよめり
ゆくはる○へたて(垣といふによれり)○しらさき○こむらさき○こなきつむ○(淺
澤小野)○あやめわく○野澤○岩かきつはた○みきはにたてる○春れへたて○影
をへたてぬ○かつをましり○にほふ川邊○袖のつまずり○あやめにましる○衣す
るてふ○咲てへたつる○へたてをみする○芦の葉ましる○春をこめてさく○八橋
のひかしの跡○我住やとのかきつはた○鴨島のすゝく水沼
●名所　○淺澤小野栖津　○こやの池同　○秋津野紀伊　○廣澤山城
○伏見里同　○いかほの沼上野　○あさこの沼陸奥　○八橋三河

○志賀郡近江　○奈古の繼橋越後
金葉　あつまちのかをやか沼のかきつはた春をこめても咲にける哉
家集　ましるとも見さりし池のかきつはた花に咲てそあやめわきける

○歎冬

八重やまふき　一重やまふき

一重をも八重をもよをして口なしの色にさけるによりて物いをぬ色なをといへり
いはぬ色○枝かはす○にほふれく露○色はえて○枝さしれほふ○れもけにをひを
○露の夕はえ○風まつ露○花れしらみ○咲こほれたる○さく山ふき○らきねふ
るをぬ○こたへぬいろ○花の八重垣○蝶のつはを○ちらぬもうかふ○色のちしほ
いをぬ色こき○かきほに咲る○八重垣のみをく○しつえの花○いやをつ花○花に
さほさす○しけみの露○谷へに生る○わをるまそて○咲たる野へ○川ろひみち○
ところもさらす○久ちはの色○露のうはすり○くちをしいろ○をられ
ぬ波○山吹のにほひ○やきかねの色○もをちい薄色○山吹の青葉○うをひすのき
あく○いはねの山吹○八十氏人のかさし○はふりてか袖の色○山吹乃下行水○花
の露にぬる〻○しけみの露に匂ふ○青柳の下葉ましる○をちかを野への山吹○春
のかきりの色○えもいひしらぬ匂ひ○山吹れ下葉○夕日かたふく山吹○日影さへ
色をそへたる○妹に似る草(異名あり)○冬をよその色(歎冬といふによりてなり)
●名所　○妹脊山紀伊　細谷川　○伊吹山近江　○石根の池同　○神南備山大和

○山吹ノ崎同　○三室ノ岸同　○立田川同　○山吹　洲山城　○清瀧川同
○御手洗川同　○大井川同　○井手同　○伏見同　○小倉同
○水無瀬河摂津　長野ノ池　○いはての里陸奥

新續古家集

れもふてといとぬ色なる山吹や人めつゝみのかけに咲らん
しら玉か何ろと、へは山吹のこたへぬ色や花の上は露
ふしれ花　ふしなゝ

○藤

ふちを淵にゐゝを波ゐとりなしてよめり暮春は比より夏かけてさけと今ハ春は
ものとなれり

藤乃かけ○とゝなふき○藤かえ○ダしほれ○なつゐか、る○藤なゝは花○藤乃かさし○藤ちる比○藤さ久宿○生そふ藤○藤のしなひ○藤の古枝○ゝちろうらは○岡邊はふち○谷は藤なみ○さかふるふし○藤の初花○下葉の藤○藤のむらこ○かさしの藤○梢はふち○木高くか、れ○むらさきは波○田子はうゐ藤○底さへ匂ふ○うへはふ木あまゐ○むらさきは糸○糸よりかくる○はひまつはれよ○たろかれは宿○なき色○春くれか、る○藤のたそかれ○むゐさきゐほふ○岸は藤波○藤は下かけ○藤はさろり○藤のかけみる○花はふち波○松をわする、○春のうち藤○藤の末葉(藤原氏は末なり)○鳥井は藤(春日山)○藤乃花かつら○藤波の陰なる海○むゐさきのもかり○磯山てしてか、る○下ゐのくる、ゝち○藤咲比の朝をもり○

行春乃末葉にの、る○藤乃うらはゐか、る○紫の色○こき藤○藤乃うらはの露○むらさきの色ゐ匂へる○むらさきゐ匂ふ藤波

●名所　○小倉山山城　○男山同　○常磐ノ森同　○吉田森同　○加茂川同
鴨ノ羽川　○宇治川同　○清瀧川同　高雄山　○神路山伊勢　○末の松山
陸奥　○清見潟駿河　○多古の浦越中　○住吉ノ岸摂津　○布引瀧同　生田川
○常盤の橋近江　○千枝村同　○あすかの里大和　○藤ゑの岸播磨

○暮春　殘春　惜春

陰暦ならぬは三月盡といへることなし此三題ハ大かた同し心ゐよゝて難なのるへし

ゆくとる○けふくる、○けふのみの○花鳥○いぬるとる○殘る日數○春のとまり○春の一時○春のわゝを○殘りすくなき○はるも今はの○花へをしむ○霞もうすし○けふのひと、き○春やいをこの○とまらぬ春○こ、ろの花○殘りいくか○行春したふ○かすみゐくる、○とるのふるさと○鳥ハふるすゐ歸る○都を出るうくひす○霞はかゝゐ殘る○行かたしらす歸る○花ゐまかひし雲○ぬさとたむけて散花○をしむ涙の春雨○花の跡とふ鶯○跡なき雲ゐ飛ふ鳥○行春ハ雨ゐさはらぬ○明日よりハ○山里もいのゐせん○霞の衣立わかれ○春はかきり有○をしむ心ハ盡せぬ○さろはれて行花鳥○蛙も春の暮うらむ○花より後の日數○鶯も鳴てうらみま

○くれたとりあやなく○花鳥のわかれ○けふよとちむる春○春ゝいつくよのへる
山○と、めえぬはる○くれぬ間の霞にのこる

暮春

拾家集　花も皆ちりぬる宿ゝ行春の古郷ところ成ぬへらなれ
有明の月もほのかに霞むなりのこりすくなき春の日數に

殘春

六百番　山のはに匂ひし花の雲きえてむるの日數ゝ有明の月

元祿御會　花ゝ今みな散はて、鶯のまれなる聲よ春ろのこれる

惜春

代　けふくれてあすをたになき春なれゝさ、まくをしき花のこゝけ哉

勅　色ふかくさるのへさにも常ならゝ春ゝ過ともかたさならすまし

夏部

○夏

夏ゝ草木もさとりをくらく打ちけりて吹くる風もいとなつかしく蟬は聲螢のか
けあるゝ夕立の俄に打すき短夜の月をさるにもいと涼しきのさよあれふかさ
らんをよしとすへし
夏來てゝ○夏の日○夏の夜○夏ころも○夏のてる日○夏引のいは○しける梢○茂
る草葉○なかき日影○みしかきよは○夏山のいろ○夏の山風○夏のさのひ

○首夏

夏はたしめ　たしめは夏

陰暦よてゝ四月一日より四五日はほとをいへれと今は夏節を見てしるへし初夏
早夏は同しのるへし
さかきとる○しめさす○なつやま○遲さくら○春くれて○きはふろ春○衣のふ○
ひむろはためし○今朝よりむかふ○わのはは木々○青葉露けき○朝風すさし○花
は行へ○夏衣たつ日○うくひすひとり唄○朝はくもり星○霞はれろむる○霞は衣
立かふる○夏ゝ來よけり○花の梢の名殘なく○春の色をそへしみとり○神まつる
卯月

後拾　櫻花に染し衣をぬきかへて山時鳥けふよりろまつ
續千載　春をれゝをしみしほとに夏衣たつ日に早くなりにけるかな

○更衣

春の衣をぬきて一重衣にのふるゝ春れ衣れかへをしきよしなとよめ
あさころも○ぬきうすき○たちのふる○今朝かふる○しらかさね○のとりろきぬ
○花れかとり○きならし衣○麻れころも○せみろ羽ころも○ひとへろ袖○たもと
すゝしき○今朝たちのふる○けふろたもと○衣手うすし○うろ花色ろ白のさね○
春をよろゝる袖○薄き衣れせきもり○春れ衣をかふる○なれしゝもと○さらゝ戀
しき花衣○花ろなこりもなり衣○衣ろ色ゝ夏見えて○霞ろ衣ぬきかふる○春れう
たゝ○大宮人ろしらかさね○れしむかひなき春○袖ゝけふたつ夏ころも
新後拾　けふといへゝ早ぬきかへぬ花ころも散ていくかのかたみなりけん
千首　ぬきかふるかとりのうちに立波の色もすゝしき白かさね哉

○餘花

殘花　遲櫻

夏になりてさく花をも春よりさきて夏まて散のこれる花をも大かた同し心によ
みて宜しかるへし
咲のこる○木かくれ○夏なから○ひとはな○散のこる○青葉にしつむ○青葉まし
り○咲れくれたる○散おくれたる○深山にのこる○青葉のそこ○青葉の中○花の
あり〻○花のなこり○青葉かくれ○のこるひと木○夏までのこる○青葉か下○花
のひともと○春のよそなる○薄紅のたそ櫻○遠山鳥の遲櫻○かた山陰の遲さくら
○深山かくれの遲櫻○卯花かきの遲櫻○有とや風の匂ふ○一枝のれくれて匂ふ○
山にや春の殘る○奥山に春をのこしてさく○春に今おくれて匂ふ○尋ね入谷のて
かけ○夏かけて咲をくれたる○日にそへてまれなる○春にをくるゝ花○春の色を
のこせる○咲のこる花もや有と尋ね入
金葉　夏山の青葉ましりのれそさくら初花よりもめりらしきかな
殘花
御集　咲そめし侘なから日にそへてまれなる夏の山さくら哉
遲櫻
壬二　夏も猶山さくら戸を尋ねきてまた名にたにる花をそる哉

○新樹

木々の青葉の去けり行たゝ夏木立をいふ若葉さすとは青葉のろひ行をいへり
ゐすもえさ○夏木立○日にそひて○わか、えて○日をさふる○ならのひろは○月
たにもちぬ○露のわかば○みどりの山○みとりのわか葉○枝さしかはす○さく
らの若葉○林のわか葉○若葉のこすへ○若葉す、しき○花のおもかけ○春を殘さ

ぬ○茂るこかけ○木々のみどり○茂るわかは○しけるこかけ○みどり深むる○ろとものなら○月影もちぬ○青葉の山○みどりす、しき○雨にみどりろふ○打むかふみどり○花の木も同し若はにしける○若葉に松の緑もわかぬ○こかけをくらき○若葉にむすふ露○つま木の道も茂りなふ○青葉に韜む山風○もみちの秋を思ひやる○峰の青葉にか、る白雪○青葉にまよふ時○玉のしは葉ひろ

新後拾　青葉にもしはし殘るとみし花の散てさなからしける比かな

慶長千　夏山の梢は露の染しよりみどりの色もしつくとそなる

新竹

畠山匠作事　こ戸し生の竹もやちよのはしめにて行末契る君のとのは

○新竹　若竹

新竹いことし生の若竹をいへるにて雜題の竹と同しからすみどりの風の涼しきさま又行末を契る祝ひの意をもよむへし

若葉○露けき○ことし生の竹○園の竹の子○巻葉○朝風○葉分の風○世のうきふし○うれしきふし○宿の若竹○籠の竹○みどりす、しき

畠山匠作事　ことし生の竹も八千代のむしめにて行末契る君のことのと

○卯花　うの花　うつき　花うつき

花の色白けれゝ月雪にまかへ音なき波さちせる布なとにもなそらへたり又憂ともかけてよめり

うつき垣○しつえ○咲ちる○ひとさかり○雪の色○うつき咲○うのはなかき○卯花かこふ○青葉ましり○川ろひうつき○あをうの花○世をうの花○くれぬひかり○かきねつゝき○身をうの花○八重のうの花○こま木にさせる○はつうのえな○雪のうのはな○卯月のはな○もりの卯花○野へのうの花○岸の卯りき○卯花月夜○音なき波○かきねの霜○木の下月夜○とほきよそめ○うのはな山○うのはな垣○かけの通路○賤か袖かき○卯花のひかり○枝もたは、にさく○月なきほとの庭○かのこまたらに咲○卯花のさかり○時ならぬ雪○うのえなのよろめ○外にしらぬ日かけ○そて垣にしらゆふかくる

●名所　○玉川ノ里摂津　○住吉ノ岸同　時鳥、松、わすれ草、神、浦、江、野、岡、浪、田　○小野の里山城　○桂の里同　○宇治ノ里同　○加茂川同　○御手洗川同　○岩陰山同　○首羽山同　○稲荷山同　○吉野大和　○初瀬川紀伊　○音なし川同　さゝやきの橋、蛍、熊野なる一　○白川陸奥

新千　夕ぢくよ光をろへて玉川のさとのしるへとさけるうの花

百首　おのか名を世をうのはなといとひてや春におくれて色に出らん

○葵　あふひ草　もろ葉草

加茂祭にもはらよめりもろかたらとい杜木の枝わあふひをかけてかさすを云氏人のかさしもし簾などにもかくるなり

みあれひく○あふひかる○かさし草○うちわかみ○もろかげら○よゝかけて○神まりる○玉すだれ○かぐる○かさし○けふにあふひ○二葉のあふひ○あふひかくる○あふひくさとる○日影にむかふ○ゑすのあふひ○ゑあれのけふ○けふのゑわれ○出る日のかけ○二葉のあふひ○あふひのわかは○ゑかけの山○うりる日の影さすかた○いくとせかけて賴む○氏人のたのみをかくる○ひかけにむかふ葉○いはふ心はもろかたら

●名所　○神山山城　刈よしをいゆ　又はかけ山と云　○松尾山同　○二葉山同　○御影山同

新後拾　大空の光になひく神山のけふのあふひや日かけなるらん

堀百　諸人のかさすあふひの千早ふる神にふのゑをかくるをりけり

○朝公

ほと、きす　なくほと、きす　山ほと、きす

●花橘をやとりとするよしおほくよめり月雲雨をとよみろふへし

なのる○はまこふ○落きかはす○よた、なきぞ○まくちぞふ○鳴ふるす○時のとゝ○聲ぬ迄○たちなく○やよやなけ○あくかる、○月になのる○むらさめ○むら雲○過りほとへきす○さよの一こゑ○たゝのふる聲○聲ろふりぬる○聲のにほひ○しのひねの聲○聲さみたる・○ふるさとのこゑ○はかになく○なのなくさと○折はへきなけ○をちのへり鳴○なくね空なる○みねつゝきなく○もらす初ねの○けちのきね○うろはなかけ○はつねのたらふ○尋ねくらす○五月つくる○雲路むせふ○雲路にまとふ○こぬよあまた○また里なれぬ○親の跡ふむ○いまた旅なる○なみたくらへん○天れとわたる○深山にのへる○のたふひあのす○入あひのこゑ○やすらひの聲○夕くれのこゑ○有明の聲○空よりもらす○鳴すて、ゆく○夢とたとる○ねぬよかたらふ○ねさめてきく○れのか名に鳴○一こゑもの名○聲もをします○夢にさはらぬ○よろに過行○よろの一聲○さたのにもらす○數ふるこゑ○聲さゝのなる○なのりかねたる○ほのかなのる○待夜のかす○一聲の空○月にほのめを○待しよろ○してのたをさ(異名なり)○やみのうつゝの一聲○物にまきれす聞○れとつれぬよろ○曉やみのひとこゑ○軒はの山になを○一聲の行末○月に先たつ聲○雲の底になゑ○たちはなのやとり○紅のふり出て鳴○聲ふりたて、鳴○遠き峯より出る○橘の匂ふあたり○のそいろのうを○ひす○一聲は中々つらし○深山出なる初聲○空たのめなる夕くれ○中々ゆまてはやなのぬ○我を待をやいとふらん○思ひねの夢をあはする○名乘ろのなのりて過る○一こゑのなこり○しと、ゆぬれて鳴○鶯のふるすよりたつ○たのつれなさにならふ○靜なる曉やみの空ゆ鳴○夕の雨に聲しきる○やゝ深き空ゆまとふ○よふかき闇をなの

りて過るの磯への松ばねにあらはれて鳴○人しづまりて鳴(亥の刻を云)

●名所　○稲荷山山城　○常磐山同　○神山同　○くらふ山同

○のつらの里同　卯花、川、波、山、　○深草ノ里同　竹、藤の森、山、野　○伏見里同

卯花、山、田、野、村、澤

○しのたの杜和泉　○初瀬山大和　○片岡ノ杜同　○三輪ノ里同　杉、山、川、市、田

○須磨關播津　もしほの煙　板ひさし　海　浦　松　○逢坂ノ關同　松、杉、せきの北山、清水、關守

宮　磯　○朝倉の關筑前　なのる　木丸殿　山　○なには潟同　浦　澤　湊　濱　川　寺

ちかの鹽がま　○松かうら島同　岩根に生る松　もしも　あま　○たきねの里同　白露の一

●しのふの里同　なこりの關　山　岡　浦　○二見ノ浦伊勢　松の村立　鹽や　潟　山　いせ島

○由良ノ湊紀伊　みなと　崎　柴舟　○絵島淡路　わかのうら　磯　浦　崎　松　明石　山

元祿御會　ほと、きすあかぬ心にまかせてはちをせの後も聞ふるさめや

○早苗

さなへ　若なへ　そつなへ　玉なへ

苗の長くのびてふしたゝぬまにどいろきてう、るものなり早少女か田ゑれり立せもすろぬらすさまなとよめり

はつなへ○わさなへ○さなへ月○ゆびやとふ○田をさ引○うふる田○ふしたつ○わかさなへ○さなへ草○手もたゆく○千町田○澤田○うき田○かと田○ミなと田○暖の女○夕さなへ○うゑわたす○田子の小笠○みたの植女○田子のもろ聲○たこのかけ縄○田子のつかれ○みとりたをなへ○早苗の小田○わせたをなへ○千町

れさなへ○苗引う、る○まして草葉○田子の稻舟○神田のさなへ○みよれさなへ

○むろたはやわせ○葉のほる露○たこのぬれきぬ○みとりにつ、く○もろ手にいそけ○民のさなへ○晴間もまたぬ○れほかる田子○數ふ田子○とるてひまなく○ふしたつ早苗○ミとり乃さなへ○聲ろにきはふ○年ある秋○れくてのをなへ○小田のわかなへ○千町田の末○つゝく笠のは○ミなと田の早苗○ふした、ぬほと○山田のみしめ夕かけて○うらわかきさなへ○とりわけぬをなへ○たこのも裾の朝じめ引○さなへとるますらを○植たて、しめ引わたす○濁る谷川の水○菅のをかさに雨過る○浦乃蜑も塩くまぬ○をるゝもしらすとる○うゑめの聲とよむ○植わたす千町の田面○引しめ縄のなかき日○とるてあまたの聲○わさたれくてもわかぬ

●名所　○鳥羽田山城　○あの、湊田伊勢　○竹田同　○ふるの山田大和　○三輪山同　○住吉の岸田播津

新拾　里遠き山田の早苗かへるさをいそかてとるやいそ〻なるらん

家集　ほに出てなひかん秋の生先もさなへにそする露の夕風

○菖蒲

あやめ　あやめ草　花あやめ

池澤沼なとに花ひ茎をそるを引そひふ其根さしの長きに君か代をいはひ又邊土

の故事によりて邪氣をさけんかため五月五日にゝ軒にふき簾にかけゝつらにゆひなとせしも今は廢られたり

なかき根○あやめとる○たまゝぬく○かたしく○かりてつむ○あやめかる○軒にふく○ふきそふる○てゝのふし○根もふかき○あやめの香○かりてふく○衛士のれり引○あしまのあやめ○かさるあやめ○くすりのあやめ○あやめの若葉○ひさしに生る○あやめのりふく○賤のすか、さ○みきとのあやめ○深きこひち○引手もたゆく○ふけるあやめ○ひけとつきせぬ○あやめもわかぬ○長きためし○淺からぬ根さし○あやめふく軒のしれふ○五月雨れ軒にかをる○あやめれ草枕○ぬまことゝ尋ねてそ行○若葉露の、る○末葉風わたる○郭公ねにひゝれてや○みとりす、しく茂る○池のあやめの根にあらはれて○藥のあやめ

●名所　○増田ノ池大和　○住の江摂津　○玉江同　○いかほの沼上野

○あさゝの沼陸奥　○美豆の御牧山城

續拾　あやめ草いつけさつきに引き初て長きためをれねをもかくらん

貞享御會　ぬきとめてこれや五月れ玉とみんあやめにか、るけされ白露

○橘

盧橘　たちはな　花たちはな

盧橘も同し實をとめつれと花を專によめり御とし○のもとの橘に君を思ひ昔しれ人のそてふれしなとありて古しへをしれふことにいへり

をひかせ○こすれ外○こすのうち○かをり○うゑ置て○ろてふれて○ろてれ香殘す○風れ行へ○そての香しめる○閨のひまとふ○匂ひさやけき○匂ひ涼しき○昔のそて○いにしへの宿○かをるよな〳〵○花さき實なる○香をかくはしゝ○でかねの鈴○手つゝのち植し○雲間れほし○實さへ花さへ○ぬしをらぬ香○下てる枝○下てるいろ○しらぬむかし○むかしおほへて○昔ふりせぬ○折しりかほ○むかしろにほひ○橘の花ちる里○立花の陰ふむ道○たちはなれ林○橘の下ふく風○花橘のそらたき○橘のむろしのたり○とこよ、りうつし植し○昔わすれす匂ふ○はなたち恋れありか○うた、ねのとこよ○橘れ花ふく風○むかしを今に匂ふときゝ木

●名所　○五月山摂津　○志賀ノ都近江　○あすかの里大和　○橘寺河内

○しれふの里陸奥

新後拾　匂ひくる花たちはなの夕風はたかむかしをかれとろかすらん

家集　見すしらぬよゝの昔にそてぬれぬふるき軒はにかをる立花

○楊

あふちを逢によせて人にあふち折にあふち雨にあふちなとよめり又紫なれは紫の雲ともをたてたゝり

このをりあふ○玉にぬく○あふち原○あふちさく○たかやとり○若むらさき○北野のあふち○古木のあふち○岡邊のあふち○楊かつちる○ひとゝもとあふち○花れ夕

はえ○むふさきれ雲○里のをちゝと○あふちさく影○雨にあふち○花の朝風○あふちやこのこと○紫れゆのり○あふち咲そとも○時鳥梢になく○樗なみよりふく風

●名所　◎片岡山城　◎雲の林同　◎北野同　◎みこしれ岡同　◎鴨の河原同

千首　花れ春もみち乃秋も何ならすあふちうち、る枝の夕風

元新古　あふちさくろともの木陰露れちてさみたれはる、風ゐたるゝ

○五月雨　さみたれ

陰暦おらねは五月雨とは書のたしされは梅雨とかきでさみたれとよまんのた然るへし月日れ光り久しく見ねす草葉れしけり川水のまさりて淵瀬わのぬよし又

嚏屋乃烟もたゆるよしなとくさ〳〵よめり

梅のあめ○雲くらき○あましめり○雲のゝを○あまくも○雲れほる○さみたれ初る○雲なかる、○雲まく軒○軒もにれほふ○行合れ雲○五月雨の宿○さみたれ髪○雲てす峰○はれせぬ雲○雲の八重ふき○雲に雲ろふ○くもりふたゐる○雲に峰なき○軒れいと水○庭に波てす○心も晴ぬ○あま、もゝえぬ○汐汲たゆる○あすさへふらは○かさなる雲○行水高さ○東ひまなき○しつくろたえぬ○とろ〳〵に瀧落る○埋木あらはる、○寶をむすふ梅○月の夜比も過○浮雲の行かさなる○ゝぬ山川れ數ろふ○もしれ烟うちしめる○苫ふく舟乃しつくひまなき○軒より落る瀧○五月雨の空れなかめ○沼の岩垣水こゆる○雲れゆき、をみぬ○かやの軒はの下くつる○色つく梅の雨○雨に色つく梅○月影をいつ待出ん○露しけき軒れしのふ○雲埋む軒はの山○いつ晴ん限りもしらす○いつ待出んはれま○入江れ舟も軒はにつなく○雲のたえまに有明れ月をゝる○おとつれもたえてほとふる○久方れあまゝも見えぬ○山川の淺き瀬見えぬ○空もと、ろ○かきくらしふる○ほと、きす○さなへ○あやめ○夏草○たちはな○まこも

後拾　さみゝれは日數へにけりあつまやろかやか軒はのしたくつるまて

續後拾　さみたれに山乃ゑつくも落ろひて岩波たかし谷川の水

家集　もえ出し若葉はかりになりにけり芦れ末てす五月雨乃比

○水雞　くひな

夜なく鳥にて其聲戸なとをた、くやうきこゆれは大かたなくことをたゝくとよめり

くひな鳴○た、く聲○れとろかす○やとことに○まき乃戸○柴れ戸○た、く水鷄○た、きもすてぬ○人くとた、く○明よとた、く○くひな聲して○梢のくひな○水乃にはとり○うきをゑひな○やとをさためぬ○里ことにた、く○明て後音せぬ○水鷄にはからる、○何とをゑひな○よもすからた、ゑ○此戸明よとた、く○まきの戸をれし明方○天乃戸をた、く○月みるとさ、ぬ板戸を何た、くらん

●名所　◎竹田ノ里山城　◎里の蜑阿波　◎大屋我原武藏　いりまちの　◎牛窓備前

續後撰　夏のよは明るほどなきまきの戸をまたて水鷄れ何たゝくらん
續古　月乃さす眞木乃板戸とをしりなのら誰あけよとてたゝを水鷄そ

○夏ノ月

なつのよれ月

月のれもしろきに短夜をいとひあるを月かけの雪霜なとにまかひていと涼しきよしをよめり

夏しらぬ○霜れ色○すゝしき○まさこち○秋ちかき○夕すゝを○なつれよわたる○やゝこのけすゝし○いたれゝ明る○やとる清水○なふのはわくる○見はてぬ月○まさこの霜○涼しさなこのす○短夜の月○月のうたね○夏なき水○明やすきかけ○涼しを出る○はしねに明る○入てとしらぬ○ろらに殘る○月のさよかせ○夏れ夜わたる○光すゝしき○月にすゝしき○涼しさを袖ま待とる○夏しらぬ月○かたぬかて明る○月の色秋近し○なか空に明る○光すゝしく出る○中空れ雲間に明る○入かたをしき○雲のいつこにやとる○みふをすくなき月○まきれ戸れ明るほとる○風かもる木ま間ま月○さやけさは秋かとまろぬ

新後拾　待出る山ま はなから明けにけり月にをしのき夏ま よま空

家集　手にとらぬ桂ま風もやとりをる月にすゝしきせみま羽衣

○瞿麥

なてしこ

とこなつま花

撫子を兒によせ床夜を床によせをとしてよめり

露けしる○うすをこをを○かろいろ○ませまうち○露ま色々○露まとこなつ○うすきもこきもの○にしき織出す○ませまなてしこ○花まなてしこ○雨にしほれぬ○花まおかき○夕くれなね○めかれぬ色○大和もろこし○ちをさに咲る○いはほ撫子○かきねなてしこ○のふなてしこ○てらす撫子○露れもけなる○濱へに、ほふ○ぬれて匂ぬ○岩ねに根さす○花まぬれかほ○床なつかしき○こすまとこなつ（すゝ名所なり）○まかきにかまる○なてしこまま初花○ちりをたにすゝし○ゝら紅まこまにしき○敷島まやまとなてしこ○日影に色ろぬ○さゆりはに枝さしかはす○いもとゝわのぬる床夏○床夏まま露は涙か○れ久露まま色もとなる○夏草にましる○れきゝあまる朝夕露○露をたに打もはらはぬ○れきるゝあしたま床夏○紅まやしほまま錦（た、やしほまにしきとも）○夕かけまやまと撫子○れぬしたてけるなてしこ（生しは養育なり）

●名所　○狛野山城　○ゑめし野同　○伏見同　ぬすこゝろによめり
○春日野大和　○まのきか島陸奥　○ろのはら信濃　○ゆきのしま越中
○野島ノ崎淡路　○粉須栖津

拾愚　咲まさるいや初花の日をへつゝ、まのきよあまる大和なてしこ

家集　秋ちかき露やれきゝて色まさるねての朝けのとこ夏の花

○夏草

なつそさ　なつのそさ

むそら蓬蒿菊芝生荻薄なと夏になりて去けをるさまをよめり

窓とつる○草たかゝ○さゆりは○ひめゆり○荻のは○ま久すはら○をかや○かゝ草○おもつけ(草の名)○草葉のたけ○夏の草たち○のへりわつらぬ○夏草むすぬ○草なのゝ○しの、をすゝき○軒の下草○なてしこの花○秋の花まつ○草のはやま○いはもとすけ○しけるまゝなる○茂き夏野○露を花なる○もりの下そさ○庭のゝよひち○けるまのき○草のまのき○眞草ゝる○吹分る風も跡なき○朝夕の露もす、しき○なひきぬす草葉○駒けあともわゝぬ○百そさのしゝみ○夏早れことしけき世○こぬ人れつふさあらはす○なつ草の野島(淡路)

●名所　○春日野大和　○とぬ火野同　○むさし野武蔵　○宮城野陸奥　○いく野丹波　○深草山城

新續古天正御會　なつ來てゝ梢はゝりのみとりのは同しときはのもりの下草　おろつからはらぬとなしの庭の面に野へをへたて、茂るなつ草

○鵜河

うのひ　うのは　うふね

うの河さつ夜川さつともいへりたつはれりたつなり鵜ゝやゝの夜あらてはつのひ難き故月をいとぬよしによめり

夜川さつ○のつく鵜○鵜川たつ○かみつせ○しもつせ○さつきやゝ○ゆぬやゝ○鵜舟さす○の、りたを○波をやを○うなは○のひのほる○かひをたす○て、をせよ○鵜かひ舟○さしかへる○の、りさす○をもる夜○やまのけ○よひ〳〵○とほさのる○七瀬のよと○よのはのの、りの鵜縄手にま久○うのひれ小舟○たなゝさはく○藻よすむ魚○あゆこさはしる○方をひの魚○ゝをさのほる○鵜川れ瀬々○ゐゆぬす瀬○世渡る道○明うたちのき○さすやぬね○くたせは明る○の、りひの影○くたすうぬね○月なきほと○波のの、りひ　夜川のろこ○雨より後○瀬々のしるへ○月になる空○のほれゝ下すか、り○の、りたきすつる○たなは打はへて○のちれ世れやゝ○さすさをれゝしかよ○篝火乃かけもゝたる、○月なきほとれよひ〳〵○川瀬に殘るか、りひ○たきすさぬ川瀬のか、り○みをさかのほる

●名所　○戸灘瀬山城　○大井川同　○梅津川同　○かつら川同　七瀬の淀　○槙乃島同　○なつゝ河大和　○吉野川同　新後拾元千

うかひ舟下す早瀬乃河波よなかれてきえぬの、りひのゝけ　早瀬川みをさのれほるうのひふ先これ世よもいか、くるしき

○照射

ともし

狩人れ鹿をとらんとて山又ゝ野よも木陰よ松の火串をともして待よ鹿乃よりくるをねらぬよしなり

ともす火○さつ男○ますらを○あらちを○さつきやみ○ゆつる○ほくしさす○さをしか○とも志し○みねつゝぎ○火串のまつ○鹿のたちと○ともしの鹿○ともしのけ○ほくしろかけ○よはのともし○しけみのうこ○ともしのせこ○はやしのかけ○松のはくし○木の下やみ○野よる山よも○尾上のほかけ○は山しけ山○峰よも尾よも○もゆるほくし○松のけぬり○鹿すむ山○尾上のほかけ○ともすともし○あのし馴たる○こよひ明ぬ○鹿れめをあはす○狩人のいる野○ともし山出る狩人

●名所　○小倉山山城　○たかまと山大和　○市野山同　○立田山同

○くらはし山同　○箱根山相摸　○宮城野陸奥

新千　ともしするはやふの火串よもすから燃るや鹿の思ひなのらん

ますらをやを鹿の角の束の間よ明るを残しともしさすらん

ほたる

○螢

ほたるゝ夏虫ともよめり螢火とかきほさる火とよむゝ也ろし

すむほたる○袖よつゝ也○まとわたる○ゆぬゐる○ちるほたる○みたれゆく○草れほたる○とひゝぬ○みたる、○もえ消かす○身をこかす○行ほたる○あつめえぬ○もえあまる○きたれとふ○のよ消ほたる○れのかれもひ○玉とみたれて○すたくほたる○風よみたれて○明るよをしく○螢ちりゝぬ○光す、しく○れもひにもゆる○風のほたる○道しるへしで○身をともす火○螢とひかふ○玉よまかふ○袖のほたる○雲路の螢○くちし草葉○ほつめぬまと○すのるほたる○こほれぬ露○川くたりゆく○みさはよめくる○身をたきすつる○れもひよもゆる○いはまかくれ○かよふほたる○こすの螢○木陰す、しき○よるのほたる○みさほよもゆる○(ささほゝ不忘心なり)○夜をしる虫(異名なり)

○れく露の光をうへて○草のくれやとる螢○けちかたきれもひ○玉簾すきかけ見えて○芦間よもさはらて行○秋ちかきひかり○かくをあらされ飛螢○あくのを出るたま○芦の葉にのほる○あらいろつたひ行○ほたるのむねの火○光なき谷をてらす○谷水にかけをうつす水草○に夕ねる○もえわたるたにれ柴とし○かをれののほかけにまかふ○瀧川の瀬に玉散まかふ○池の鏡にれもひをうつす○浮草に思ひ亂る、○行水にもえても影のす、しき○いけ水のいひ出ぬ思ひ○草垣にくるれいすたく○水にもけたぬれもひ

●名所　○音羽川山城　○清瀧川同　○芦間の池摂津　○住の江同

○なにと江同　○玉江同　○すまの江　○すまの浦同　○三津ノ濱同

○ゐな野同　○あさかの沼陸奥　○袖の浦出雲　○伊勢ノ海伊勢

○志のの浦近江　○春日野大和　○かけろふの小野同

新拾　くるゝより露とみたれてなつ草れ志けみにしけくとふほたる哉

音もせて思ひにもゆる螢こそなく虫よりもあはれなりけれ

○夕顔

ゆふかは　ゆふかはの花

ゆふくれに白き咲ていやしき家乃垣ねなどにそひかゝりさるさまの目たちて涼しくみゆるなり

さきかさる○ゆふたらや○竹の垣○草のき○ひとふさ○かきは○まゆひらを○賤かや○しら露○すさしき○賤のさきね○軒ば夕かほ○花咲かこふ○花の夕かほ○賤かさゝし○花乃かきは○垣はにしはむ○夕かはなれや○まとはれて咲○やとりゆかしき○よろめゆゝしき○よろめすさしき○咲る夕かは○たろかれいろく○ひもとく花○軒乃夕かは○むすふ白露○花乃契り○露の玉ゆら○かきねすさしき○ひかりことなる○はの見えわたる○ゆさら賤屋○ひゝりをろへて○夕かほ乃上露○ろともの夕かほ○むさらはふ賤かさきね

源氏夕顔の巻にいと青やかなるかつらろこさちよけにはひかゝれるにしろき花ろれのれひとりゑみのまゆひらけさる云々（中略）花の名い人めきてかうあやしき垣ねになん咲侍りけると申けにいと小家かちにむつのしけるるわさりのてのもかれもあやしう打よろほひてむねくしからぬ軒のつまとにはいまつはれさるをくちをしの花れ契りやひとふさ折てまいれとのさまへい云々

●名所　○小倉山山城　○美豆野同　○かくれの小野伊勢

新後撰　いとゝ又光やろそん白露に月待出る夕かほれはな

六百　葎むふ賤か垣ねも色はえてひかりことなる夕ろほの花

○蚊遣火

ろやり火　ろひ

烟のいふせくいとゝしきさまにもよみ又其烟のさつをみてをろしきやうにもよめり

かひさつる○もくつさく○たくろひ○ろやりさゝ○下むせぬ○下てろれ○下もえ○たつけふり○ゆふろほ○ゆふへく○ゑつろや○すくもたく○わふる蚊の聲○蚊れ聲むせふ○あまれろやり○よはのろやり○むせふろやり○なひを蚊の聲○ゑつやのけふり○ろやりの烟○宿にいふせき○山もとれさと○いふせさろふる○軒にふすふる○ひとむらをひく○ゑつろふすふる○軒ゑすゝけて○しけりあふ木陰のやと○村雨にゑめるけふり

續千玉　ろやり火れ下やすろらぬ烟てろあたりの宿も猶くるしけれ

月ろけれ霞むもつらしよろまではけふりなさてろよはの蚊遣火

○蓮

はす　花はちす

むちす

花をも葉をもめてゝよめり又佛意によりてよめるも多し

花はちす○なひきと○若葉○浮葉○ろのくに○月ろげ○はすの立葉○ろめれ蓮

○ちもとの蓮○はちす開ける○入江れはちす○四色の蓮○法のはちす○ひねろはちす○潤りにしほぬ○蓮のいと○露乃白玉○風にみさる、○はちすの花○こほる、露○池乃こ、ろ○色もす、しき○紅のもつ花そめ○大寺れ池れ蓮○池水のにこり○露乃上にやとる月○蓮葉に咲ろぬ花○妙なる法れ花

●名所　○住れ江摂津　○菅田の池大和　○つるきの池同　○音羽川山城

新續古　夏れ日もろたふを池のたちすはにタ波こゆる風ろす、しき

貞享御會　いをろすむ池水ならし風ふらぬはすの浮葉の露ぞこほる、

○氷室　ひむろ

昔し冬氷を納めたる室より六月一日大内よ献しつるを氷室のおものといひしなり

ひむろ守○むむろ田○おものさつ○とけぬ間○むむろ山○冬こもり○袖さゆる○夏しらぬ○うたれむむろ○ころのこほり○山のむむろ○日影にうとき○夏をよろなる○冬のなこり○タらけのすさし○もるろてすさし○ゐつさもしらす○立よるろて○はこふみつき○いろをむむろ○むむろ祇山○春日山ふるきむむろ○山下風もさゆる

●名所　○つけ野摂津　仁徳帝御狩れ時山ろけに消ぬ氷を御覽有依て氷室乃始といふ　○高津の宮同　○春日山大和　○宇陀野山城　○松ら崎同

玉葉　水むすふゆふへより猶すさしきはむむろにむらぬ杉れ下風

家集　みなつきの照日もしらぬ氷室山ころれあらしや下にさゆらん

○百合　ゆり　ゆりれ花　さゆり　むめゆり

さゆりれ花○ちらやら下れむめゆり○ちらやらもと○夏の野

●名所　○久たら野摂津　○筑波根常陸　○らつらき山大和　○野島淡路　○眞野乃濱近江

○夕立　ゆふたち　ゆぬ立れ雨

ゆぬ立ういとはけしを降てやらて過行さゆ又い遠久降けしきをもよめり

みねうつり○なるゐみ○いなつゆ○風すゑる○雲すゑる○らさやとり○にもるつ

みゐ跡はれて○ぬるをと○降出て○うき雲○此さと○風はやみ○はれわたる○時

の間○首ゐちかつゑ○市人さをを○こほしかけさる○ゐこる谷河○水まく雲○過

るタ立○かさる夕立○うつる夕立○タ立すさし○きろぬタ立○はしり過たる○タ

立の雲○風のタたち○やかて晴行○ゆぬたつ雲○ゆぬたり風○タ立の跡○かをを

もやすき○てる日なからに○名殘の露○こなたい晴て○かたへはれ行○あしとを

過る○はるさもはやき○外山ゐかさる○山めをりする○降もはるさも○鳴かみの

聲○雲てすみね○過ゆゑ空○かつ〳〵はるさ○里をきて行○過つるかた○去はし

はすゝし○雲ぬを風○入日すゝしき○入日をうたす○むかむの里○夏野の風○野風にきほぬ○末野ゝ晴て○夕立のゝものみを○鳴神のと、ろきゝたる○同し野に草はを分でおゝ露○見るまゝに過行○木のもとに晴まゝつ○山川のみかさまさる○むやしの鳥さわを○日蔭に落る雨○舟人のとまもぬきあへぬ○夏の日のけしきをかへて○山のはに虹見えそめて○鳴かみの音もはけしゝ○天ゝものよそになり行○ぬれてほす間の袖○むとむらの浮ゝも○遠かたに重なる雲○空に入日のかけろむて○日影にまして雨の白玉

風雅　山もとの遠の日影はさたかにてかたへすゝしき夕立の雲

家集　まきもをの檜原を過る浮ゝもや小松か原ゝゝもる夕立

○蟬

せみ　うつせみ　むゝらし

せゝ日ゝらし同しかるへしうつせゝれ元現身の義なるを蟬ゝもぬけするものなれゝ中古の比よりつむに蟬の名としてよめり

聲しきる○もろこゑ○せみさわゝ○うつせみ○せみの羽○せみなゝ○木かゝれ○なつやま○むらさめ○せみのなゝ○夕日かけ○蟬の聲○梢をゆする○せみは羽衣○梢のせみ○こゑもすゝしき○こすゑ○友なきせみ○木高ゝうつる○下葉にうつる○このはにすかる○こゑのもゝれ○山下とよむ○音に鳴をらす○松風さうぬ○遠近に聞く○をたれてすゝし○森のこのくれ○もりの下風○風にみたるゝ○露よりしけき○きくも奥ある○うつくしよしと鳴○なくせゝのなみた○梢にならぬむくらし○瀧のむゝきにまかふ○うつせゝの羽ゝおく露○ならのしつえに鳴○うつせゝのは山○梢ゝるかに鳴せみ○朝夕露になく○夕風に涼しくのこる○茂りあふ梢はかりに○木葉にすかるうつせみ

元新古　秋近きけしきの森に鳴せみのなみゝの露や下葉染らん

大和御會　夕立の過行みねのこすゑより名殘涼しきせみのもゝこゑ

○扇

ゐふき　さし扇　すゑむろ

扇を月にたとへ雪にたとへたる故事によりてよめるもゐり

かせかよふ○手にならす○おほゐふき○すゑむろ○夏のあふき○風のやとり○扇のかせ○うちはの風○月ゝさとへし○白きあふき○閨のあふき○うちもおかれぬ○かさしの扇○ならす扇手にもとられぬ○むらさきのあふき○かはほりの扇○涼しさを手にはかせぬる○いにしへの春の扇の風○夏しらぬす、しさ○ゝのむ扇のかせ○涼しき風をさろふ○すてられし秋の扇○扇のつまにゝよゝ秋風

新後拾　内も外も見えぬ扇はほとゝきにすゝしき風をいかてこめけん

延寶御會　こぬ秋の風も手にとるて、ちしてならす扇そうちもおかれぬ

○泉

いつみ

いつみい出水ゑみつは清水の事なれと通はしてよめり立よりて夏をわするゝよしによめり

ほしみつ○わきか、る○石ねつゝ○しみつもる○いはほくら○結むあけて○手にむすふ○ほとねして○さ、れ水○立よりて○むすふ手○岩根水○いくむすむ○水のあや(波の紋なり)○夏のHくらし○むすふいつみ○夏をもしらぬ○いはねの清水○清きこゝろ○岩井の水○わきていりみ○庭のやり水○谷のほしみつ○むすふ手ほかぬ○いつみの末○秋風かよふ○岩つゝふ水○清水の上の玉かしは○松かけの岩井の水○むすむてみるも涼しき○氷るゑかりのほしみつ○月待ほとの手すゝむ○いは間よりもるゝ水○月ゑのらせき入る○夏なしとい井の清水

●名所　●磯井磯津　●走井近江　●山の井同　●石清水山城

續後拾　八重むくらしけみか下にむすふけふ廬の清水夏もしられす

後拾　さよ深き岩井の水の音きけはむすはぬ袖もすゝしのりけり

○納涼　すゝみ

水邊木陰又月にむかむ家のはし居なとに夏をわするゝさほによめり

夕すゝみ○朝すゝみ○門すゝみ○はしね○清水せく○うたゝね○下すゝみ○おはしま○松かけ○夏消て○すゝむ川風○ならの下風○すゝむ此夜○夕風たつ○秋にすゝしき○かよふ秋風○夏なき水○秋かとたとる○そしねゆふくる○扇のかせ○夏をよそなる○おはしますゝし○いはもる水○水の夕風○一木かもと○かたへ秋なる○村雨の名殘すゝしき○薄こほりむすふはかり○日をさふるならの下○松風も秋の聲ある○秋は聲ある風○茂りあふならのゑ○夏の外ゆく水○氷るはかりの夕風○夏しらぬ松のときは○月にやかよふ秋風○扇をもわするゝ○す、しくわたる夕ゑのせ○袖まくら秋ゆおとろく○山川になりやあかる、○涼しくそよく竹の下風○夕つく日へたつる○川邊す、しくよる波○目に見えぬ秋や通むて○涼しさまねく玉(招涼の玉なり)

新千　なつ衣す、しくたちぬうつせみの羽かひの山の松はの下風

家集　立よりて結ふ清水はいはのくれありさかきやるそてのす、しさ

○夏萩　荒和萩　名越萩

人かた○いくしたて○川やしろ○はらへくさ○ちらす麻○ゆふして○みろき川○あをのは○ゆふかけて○みそきの神○あらにこの萩○なこしのかくら○あらふる神○なかす大ぬを○すたるちの玉○ゝ玉すゑまりる○あさちすかぬき○ゝそきかはら○波のしらゆふ○麻乃ゆふして○瀬々れ白ゆふ○森のしめ縄○麻の末葉○なかるゝあさ○かへさよふのき○ちとせのみそき(齡ひをのふるなり)○麻のしらゆう○水底清し○瀬々のみそき○月みぬのころ○流すあさのは○みそきすゝしさ○たもとす、しさ○ぬかつくわさ○瀬々の夕波○麻の葉のぬさ○なこしの夏とふへ

○朝みは湖にみろきする○あさの立枝の青にきて○川瀬にたはるみてぐら○道の巷にみそきする○すゝぬきのみそき(宮をもりて人かたとなすと云あり)○年波の半こし行○なつと秋との中つせ○水鳥のかもれ川せ○身のとかをはらふ○みぞぎしてのへさよ深き○身を祈るけふのみそぎ○癒れはをせ、に流して○なつも行せ乃波かけて○みだらし川の夕す、み○あつさもなつれ川波○夕かけてみそぎ涼しく○みそぎするさもと○むらふ心のちり

●名所　◎名越ノ杜摂津　◎なには同　◎田蓑ノ島同　◎住の江同　◎たゝすの杜山城　◎みたらし川同　◎ならの小川同　◎橘の小戸日向　◎いす、河伊勢　◎宮川同

夏　祓

新拾　大ぬさや麻はゆふしてうちなひきみそぎ涼しきかもの川風

家集　みそぎ川瀬々の夕風秋のけてなひくもす、し波は白ゆふ

荒和祓

貞享御會　河波はよるべ涼しくみそきしてあけさもけふはみなはきの空

名越祓

玉葉　風わたる川せの波はなつはらへ夕くれかけてそてそす、しき

秋部

○秋

秋ハ狭は上風萩の下露もなにとなく身にぬみて月かけのさやかなる千草にすたく虫の音もいとものすこくすへて秋の歌はものかなしくさひしきかたよはなれふかくあらまほしうなん

秋されハ○秋といへハ○あきくさ○秋の日かけ○人の秋○くれやすき○物さひし○のなしき○あかき夜○よさむ○秋さむみ○秋は色○秋そとや○穂たちする○秋のしら露○秋のしくれ○薄き日かけ○秋のこゝろ○こゝろの秋○さはた姫(さつ田にます風神なるをいりの比よりか秋を司る神としてよむことになれり)

○立秋

○早秋　○初秋　○秋さつ日

立秋ハ秋の節になりたるをいへる事立春のこゝろえに同し

此あさけ○風かはる○はつきり○こしのうミ○また入たゝぬ○桐は葉落る○きりの一葉○身に去む風○露置そむる○萩は葉風○身にしみそむる○來る秋しるき○朝戸出すゝし○初秋しるき○けさの初風○秋のしるし○秋の色わく○秋の三日月○秋の初のせ○秋來るよひ○秋のはしめ○秋きよけりと○一葉の秋○なひくあさ

ち○露しりそひる○もろきなゝさ○風の音におとろく○むしめて夜長き○草の初花かたさく○高ねの松も昔たゝる○秋も立田の峯の紅葉は○ふく風の音羽の山○宮城野の萩咲初る○深草の里の秋風身ゝしむ○春日野の草花○秋きぬといったのをのゝはき○年も半に過る○秋の色なる白波○あまをふねも心せよ○沖津風西吹そふる○あまの袂もたほれそふ○磯の松かね波かくる○入江ハ芦も音たつる○須磨のうら風音まさる○松浦かた西ふく風○いとはやも露散そむる○手なれてし扇ぬ○しら露の置ゐへぬ庵

●名所　○立田山大和　○こすの大野同　○あすか川同　○音羽山山城　○けしきの杜大隅　○須磨摂津　○三島江同　○松浦潟肥前　○吹上の濱紀伊

千載　八重葎さしてもりゝしよもきふにいこのてか秋の分てきつらん

玉津島法樂　物おもふ心ゝいとふそてにしもたつことやすき秋の初風

早秋

家集　いとはやも秋風たちぬしらすけのまのゝかや原露もゝたれて

初秋

新拾遺　秋きぬとおもひもあへぬ衣手ろかたならはしゝ露けかるらん

○殘暑

殘るあつさ　秋のあつさ

秋きても暑さのさりかたくて風をまりより外なきをよめり

夏をゝすれぬ○あかぬむしね○夏とおほめく○なたのけしき○あふきとる○ありき日かけ○すてぬゐふき○あつれしめらひ(あつく身のあせつゝなり)○秋も猶すてぬ扇○秋きても猶堪のたく○猶たへかねてあつき日○秋まて殘るあつさ○夏衣ぬきかへぬ○秋風ハ吹もつよらぬ○岩間ハ清水猶むすふ○秋きてもなほ風をまり○扇の風をたれむ○扇も更ゝ置あへぬ

六百　秋風の吹もつよらぬまくす原夏のけしきに猶かへるかな

御集　秋きても猶絶のたくありき日のさすのにくるゝ影のほとなさ

○七夕

なぬかの夜

七夕をたなはたとよむも心にかたく抑これは唐土の某の舟にハりて此夜天の川にいたりて牽牛織女に逢たりしことを蜀の嚴君平といふものゝとく知たりといへるあやしき說を信て乞巧奠とて此夜其星を祭ること、なりたるも今い廢られたれは採用すへきにもあらされと世に普くもてはやし、事なれは聊て、に星まつる○ひこほし○織ひめ○天の川○かさ、きの橋○星合の空○たむくるいとの○たむけめちくさ○あふよの空○まれハちきり○秋ハひとよ○行合の空○七夕ハひれふる袖○手向るけふのちのは○ひこ星ハ妻こひ衣

家集　ひとよねて絶ぬれもひや七夕ハ夢のわたりの天ハ河はし

○荻

をき　さゝらをき　はまをき

おほく風をよゝこめたり秋になれゝ先音たて、そよくもれなり
ひとむら○ともすり○さく人○そよく○身にろしむ○夕風○風の下荻○風のふき
よる○荻のはつほ○山下荻○風になみよる○あしへの荻○入江れ荻○荻れ葉むけ
○かきほの荻○秋の荻原○のきはのをき○軒ぢ下をき○風ぢやとり○荻の上風○
葉むけぢ風○なゝたもよふす○荻れ音する○秋風れ聲○風乃れ萩原○そよくも淋
し○枕よろよく○風のつまゐる○またゐくふき○まかきにろよく○うへてくや
しき○夢もみはてぬ○秋ぢてゐきく○まくらになるゝ○露吹きゝたす○荻の葉む
すふ風○荻の上てす風○濱荻ほに出る○下にしれはぬ風の萩○夢ゝあとなき手枕
○秋かせのたへす音する○秋風れをきの上てす○風吹はありとや庭に音たつる○
音をよみて風なき歌あまた有署之○水邊海邊等にもよめり

●名所　○なには潟摂津　○若ぢ浦紀伊　○因幡山美濃　○宮城野陸奥　○佐見ノ里山城
新續古拾　秋きてれかせぢやとりはて、に波みありとやろよく庭のをき原
をきのはのろよく音てそ秋風の人にしらる、はしめなりけれ

○萩

秋はき　小はき　糸はき

おほく露を結ひてよめり鹿の妻てひする比咲もろなれゝ鹿の妻に見たて、花妻

といいへるならん
萩か枝○萩のろて○しつえ○すり衣(野を分ゆく体なり)○にほふ萩はら○花乃ゝ
たれ○露乃玉はき○古枝乃萩○てはきかもと○まの、うら萩○まの、糸萩○糸よ
りかくる○ちくさろ糸○萩あそひせん○鹿のしからみ○萩か花妻○萩の下折○露
ろしからむ○花れまゝき○萩の下水○萩れにしき○露にほころふ○もとあらの小
萩○花すり衣○露なからみん○かたえひもとゝ○片枝れ花○萩れ一枝○露れ萩原
○匂ひてほる、○いとはきの花○露のゝたれ○折のさ、はや○露をさのり○露も
ゝえある○ぬれて色てき○小萩か末○花になり行○末葉の花○野原の小萩○花の
下折○初萩の花つま○萩の末てす風○ふもとの下はき○まはきもてすれる衣○住
よしの島のむらゝき○少女子か、さしの萩○萩の下もみち○棹鹿のむねわけにす
る○秋の、にたか織かけし○萩のこむふさき○鹿も萩の錦に立なる、○紫の色に
くたをる露○むらさきにうつろふ○つゆにゐたふく花妻○秋萩しのきやとる○ま
た咲ぬかたえ

●名所　○宮城野陸奥　もとはらの小萩　○玉川同　野田里　○春日野大和
○いはせの小野同　駒なへて　○菅原ノ里同　すかはらや里の萩原
○十市の小野同　○武藏野武藏　○玉川近江　○布引ノ瀧生田川摂津　○萩原の里常陸
新千　露わくる袖にろうるむらさきの色てきのへの萩か花すり

天和御會　花の上の露もさかりのまとき原玉をよしさにかさねてそしを

○女郎花

をミなへし

れほを女に比して風になひき露にぬる、さまをよむいとぬ色とは花の口なし色にさけいと

しほれふす○花にめつる○たはる、○れほゝる野へ○色めく野へ○花の下ひも○風にたはる、○生る澤邊○花のすかた○名をむつましみ○うしろめたき○おき出し露○あたなる色○なひくもよしや○匂ひてほる、○花の名たて○しめゆふ宿○誰にたはれて○うちたれか○みあたにたつ名○水かゝ見る○物思ふろて○花にも葉にも○露の玉ゝつら○秋の田のくろに生る○あたなる露になひく○思はぬ風になひく○匂へる野邊に一夜ねん○ろひねの名殘○一のたゝなひきも果ぬ○ひとよの露の枕○露にふし風ゝなひや○あれたる宿のゝいまみ○同し野へなる思ひ草○白露のゝさしの玉○たゝ秋風になひきぬすちん

●名所　○男山山城　○伏見の野邊同　○嵯峨野同　○手枕の野大和

○朝の原同　○待乳山同　伊紀下總にも同名有　○天の川河内　○高野山紀伊

後　女郎花匂へる秋のむさしのは常よりも猶むつましきのな

家集　露にふし風になひきて女郎花身を心ともせぬすかゝ哉

○薄

す、き　小すゝき　えたすゝき　ゑのすゝき　尾花　花すゝき

す、きの穂の獸の尾ゝ似たるより尾花ともいひつるなり秋かせようてけるさま人を招くに似たり

すゝきちる○岩す、き○かれす、き○ほなみ○ほそゑ○このせになひく○草のたも○ほゝけの糸○尾花かりふを○はりほのす、き○と○妻の手枕○尾花をしなみ○ほゝけの糸○尾花かりふを○はりほのす、き○とらむす、き○初はな薄○尾花のうれ○島わの尾花○すゝのゝす、き○もとあらのす、き○うゑしす、き○もとはのす、き○しろ、をす、き○白ゆふ尾花○薄おしなみ○秋のせれ庭○かせれまかき○露の秋かせ○野へのゆき、○尾花か波○ろてのわのれ○道ゆきぬり○ろての秋かせ○かせのゆゝて○ろてれ數ろぬ○ますほ彼す、き(眞赭彼薄なり)　○ますぬ彼薄(紅なり無名抄に出)　○むらさき彼一もと薄○秋篠や外山彼す、き○はし鷹彼きりふ彼す、き○かせ彼ま、なる花す、き○なひく尾花彼かたより○白妙彼尾花

●名所　○逢坂山近江　○眞野入江同　○ゆき、彼岡大和　○あた彼大野同

○芳彼川同　○忍れ岡河内　○須磨彼上野播津

六　いのはゝりのせ彼つらさゝ花す、き吹ゝるかたを先ろむくらん

六　過のてゝ彼へはへぬへし花す、きこれのれまねくろてれゝゆれは

○刈萱

このかや　たか、や　小このや

かるのやとて一種ありともふほえねと万葉ゑ我のるのやなといへる用語を躰ゑ
のるかやといひなれたる〻俗にちのやと云てなりみゑる、ことを專らゑよめ
り

みたれちる○ほに出る○下葉○萱か下葉○しとろに焼す○ほつえなみよる○末葉
みゑる、○亂る、れへ○なひをのるのや○庭れのるのや○去れゑをたる、○このせ
ゑみたる、○露にみたる、○しけるまかき○賤乃男の刈てつかぬる○岡邊乃草を
のるのや○ねしろ高かや

●名所　○ゆき、れ岡大和　○秋津野同　小野の秋津ども　○布留野同
○野路近江

千　ふみしたき朝れ鹿や過ぬらんしとろにみゆる野路れ刈かや
家集　心せよ露れ光のかるかや乃末葉みたる、野へれ秋かせ

○蘭

ふちはかま

らにといへるにことなりてふはちかまとよめりはかま乃縁によてよめる歌多し
露れぬき○來てみれゝ○きしへに咲る○たかぬきのけし○ほころひわたる○いく
野ともなれ○たかうつりの○ゆかりれ色○秋の野かせ○のせ法匂へる○紀る人な
し○露のかゝ〻○さほ川の渚にさく○芝のゝのりの園○一野に匂ふ○野かせゑほ
ころふ○我宿に誰か紀てゝん○若紫の藤はかま○草の枕に、ほぬ○むつまし紀色
○を、かにれ糸よりかをる

●名所　○さつた山大和　○春日野同　○御垣の原同　○佐保川同
○武藏野武藏　○原の池播津

新古　藤はのまぬゑは誰ともしら露のこほれて匂ふ野への秋風
同　野へてとにたかぬき捨し藤むかまるつのしき香ゑ風もてろふけ

○草花

秋の野乃花千をさ百草の花なともよめり野原庭なといつゝゑもよむへし
秋くさ○も、くさ○千くさ○八千くさ○むなもり○秋の色○こくさの花○秋のな
てしこ○草の初花○秋の花○乃○露草れ花○花になりゆく○花れ野へ○鬼のしこ
草○花のひもとく○露のさかり○露のやとり○花乃色々○秋法花野○花野法秋○
色のちゝ〻さ○七草の花○萩○尾花○葛○葛○をゝなへし○なてしこ○藤むかま○朝か
ほ○ちをさの一花○やちをさの花さく○花ことにうつる心○置露にしをる、花○
咲花ゝまた色わかぬ○さま〳〵のちくをか中○色々の花のひもとく

新千　露ふかき霧のまろきの朝ほらけしをれそまさる花の色々

○朝顔　あさがほ

槿をも牽牛花をもよめれとまつ牽牛花によるへし
葉かくれ○はかなき花○戸ほそゝこの、る○花の朝かほ○露のあさかほ○日影をしらぬ○さかりほとなき○夕のけまたぬ○朝顔は露○日かけうつろふ○日のけまつ間○花はひもとく○しの、めの露○露の中垣○こほれてか、り○花の數かろふる○しほれてゐ、る芦垣○かきねの露ゝ咲る○露のひぬ間○竹のまかきの朝貝○かたへよりうはろひ初る○世の中をしらする花のすかた
續後撰　山かつの柴の袖垣朝かほは花ゆゑならて誰かとゝまし
寛文御會　結ひれくもあたくらへとや朝貝は花はさかりを露にみすらん

○葛　くす　眞くす　くすの花

花は紫色にして藤に似たり葉を專らとよめり風に葉の吹のへさる、もろなれゝ恨によせて戀などにもよめり
かつちる○眞葛原○玉まく○色つく○葛のつら○ま葛葉○うら若し（若葉ゝ春に近し）○うら枯わたる○葛の青葉○葛は葉分○葛かる男○葛は下風○くすは葉風○ゝねのまくす○くすのうらは○夏野乃葛○かつ〳〵うふむ○ゐきほのくす○野邊のゝす原○くすの下かせ○くすの葉かせ○岡のくすは○くすのうらかせ○かき

峯のま葛○葛は秋風○我もうらむる○秋風はぬゝをうらむる○吹のへすゝすは浦風○白露の玉まくゝす○神乃いかきゝはふ○うふゐる、ゝすは○岡邊のくすはら○うらふくあきゐせ○色つきゐむる秋かせ○冬野のくすのゐれもつる○しら露乃玉まゝ○松垣にはひゝるくす（軒はまて所せゝはひか、る○葛のうらは○夏野の葛○ゐたゝ〳〵うらむ○垣ほの葛○野邊の葛原○葛の下風○葛の浦風○垣ねのま葛
月、　露、　風、　虫、　鹿、　鴈、　鶉、　（よみ合）
くすゝ夏野にもよめり秋ゐせはさてゐたゝ〳〵うらむと云々

●名所　○片岡山大和　○三室山同　○春日山同　○布留野同
○常磐山山城　○深草ノ里同　○水茎ノ岡近江　○まの、山同
○信太の杜和泉　○淺澤小野摂津　○武藏野武藏
龜山七首　露なゝら色のはるより秋風乃ふゝをうらむる野へのくす原

○露　つゆ　しらつゆ

つゆはいつもよむへきなれと秋を專とせりあたなるものとは露乃もろきをいひ
露けきとゝ多ゝ涙によせてよめるなり
秋は霧○身の露○置かへて○露乃おゝ○日影をうつす○夕日にこほる、○まゝらの露○露はいのち○葉のほる露○ところせき○露わけ衣○淺茅か露○こゝろの露○露のしゐらみ○つゆの玉ぬき○ゝたれてもろき○色ときつゆ○ことはのつゆ○

風にみたる、○つゆの手枕○むすむもとめぬ○光す、しき○むすぶかへたる○曉おきのたゆ○さ、かにのいとぬきかゝる○ちるつゆの行○へいなつまのやとる光○さ、かに乃糸よりかゝる

新後拾　夕をれむ草葉ゝ外のおきところ有とや袖にか、るしらつゆ

住吉御法樂　とゝ、やゝ秋乃なかにもわきてたかゝてより露むすひ初しと

○小鷹狩

こたか、り　秋のたか、り

鷹をあれせて鳥をとることゝ昔しいつと定まりしことゝもなりしを中古より冬を鷹狩とし秋を小鷹狩とす

うつらかる○とやかへる○かりをゝらす○駒なへて○す、め○あきのかり○野へのかり人○あきをうつら○あはするたゝ○たゝのをてにすゝ

●名所　○さか野山城　○深草野同　○粟津野近江　○いはせ野越中

○鳥屋野未勘　淺茅　柴　はしたかの一　○眞野大和　近江同名有　萩原

新續古　をれゝとゝる月のかつらゝあきかせにさろはれてけり野への狩人

享德廿八　さらてゝにあきをうつらと音にゝつる床もあらゝにかりをゝらしつ、

小鷹すゝのへ狩くれはむかはきの鹿毛もからむ萩ゝ花妻

○虫

ゆゝきのむし

虫の題よてまつ虫す、虫きり〳〵すなとよむへしゝ、虫とよむもつねなり

草かゝれ○すゝを○聲のあや○聲しきる○こ、らなく○よゝのむしのね○ありかゆかしき○風にみたる、○花野のむし○れのかゝま〳〵○むしのやとり○くる、もまたぬ○まくらの下○ゆかゝ乃下なる○つゆのやとり○つゆをいのち○よゝる聲○うらむてゝ○ふりにしいほ○花のねくら○むしのねしけき○れくつゆになゝ○さま〳〵のむしの鳴ね○枕とひよる○むしのなくね○籠のうちゝ聞しにもゝす○朝つゆによゝりてもて行○から衣すゝ野に鳴○月すみのほる虫の聲○むしも鳴ゝす宵ゝ雨○すむ月にきゝはへる虫の聲のあや○を、かにの糸引ゝふる草村

●名所　○末ゝはら野未勘　○武藏野武藏　○眞野大和　○やた野越前

○入野未勘

松虫ゝ　○あらし山山城　秋花　瀧　寺　鐘　里　○昆陽野摂津　松原　池　浦

○住吉同　菊　遠里　小野　かれ野　すゝ野　里　、　○宮城野陸奥　野守庵　原

しのゝめもちすゝり

鈴虫ゝ　○小倉山山城　、蔦　蒲　里　かれ野　下草　すゝ野

○神樂岡同　松　○す、か山　伊勢　薄　山田原　川　岸　○鳴海野

尾張　里　潟　濱

蟋蟀ゝ　○立田山大和　蘭　萩　松虫　尾上　もゝ野　ゝゝもゝ里　奥　○水茎ノ岡近江

松虫　茅原　笹田　みなと　○さか野山城　原　山寺

○小野の篠原同

促織ハ　○二村山参河　からにしき一　衣の里

轡虫は　○逢坂山近江　木の下やみ　うまやの鈴　鳥井　○いこま山大和

鳴尾の沖

拾　おほつらないつこなるらん虫のねを尋ねは草のつゆやみたれん

玉葉　つゆハれき風も身にしむ夕くれをおれる時とやむしの鳴らん

○松虫　まつむし

ほつといふ名によりて人をまつにいひらけて又戀によせてもよむなり

まつてふむし○松の名にあふ○人まつ虫○たれをまつ虫○ひかまつ虫○竹のまろきのまつ虫○子日せし時への松虫

名所　○嵐山山城　○昆陽野摂津　○住吉同　○宮城野陸奥

後　秋野に來やとる人もおもほえずたれをまつ虫こゝら鳴らん

○鈴虫　すゝむし

鈴の緑によせてよめりうまやれ鈴あるは鷹の鈴にらけてもよめり

ふり出てなゝ○ふりもへて鳴○ふりすてかたき○ふりにし庵○すゝ虫れこそれふる聲○うまやつたひの鈴虫

家集　つゆれ色はをる、まかきれ花やらにふり出てなゝ鈴虫れ聲

○促織　はたおり虫　むたれりめ

機をおる心よよせてよめり

をさの糸○つゆのぬき○すろれよ鳴○夜さむをひてたたおりのなゝ

金　さゝかにの糸引らをる草むらにたたおる虫の聲うきてゆる

○轡虫　をつをむし

馬のくつをによせてよめり

駒なへて行○あふさの山○遠のたのへ○駒にまかせて○たかのる駒れくつを虫

類題　駒なへて行人をしにくつを虫遠かたのへの草になくなり

○蟋蟀　きりゝす　こほろぎ

秋ふけて野へにかきちす窓ちらき壁れ間なとにもなくなり

家集　やとかへてこゝろみやするきりゝす同し露なる草の庵に

しか

○鹿

さをしかは牡鹿なり野山よ妻こふよしをよめりかひよと鳴といふはしかきこゆ

るなり

ふす鹿○聲しきる○霧のおく○ぬるよなき○こひてなく○むねをけ○よた、なく○あはれなり○月よなく○つまこひ○つまこふる○峰ゆくしか○みね立ならし○朝たつ鹿○うらふれて鳴○鹿のはつてゑ○らひよと鳴○朝ふしのねて○妻まとも せる○秋ゆく鹿○よいの草ふし○しのらむ草○た、すむ○聲すゝのほる○ぬれて朝たつ○花に起ふす○枕にちのき○鹿なく山○夕くれは聲○枕になる、○よるのをしの○聲そまちかき○月よなくなり○いくよの友○もみちにまする○妻とふこゑ○山下とよゝなく○山はとゝけになく○秋萩しのき鳴○花ふみしたきなく○秋萩の花ふみしたく○おのらみやつす秋草○鹿のねさふゐらし○秋萩は花妻こひて鳴○鳴あかすおのゝ涙○あはぬ夜ふほく鳴○月と、もに山よりて出て○入らたれ月に鳴○山の尾上にたつ鹿○鳴鹿の聲するかた○霧にまとへるこゑ

●名所　◎あらし山山城　◎常磐山同　◎小倉山同　◎嵯峨野同

◎鳥羽田同　◎初瀬川大和　◎さよの中山遠江　◎片岡同　◎水茎の岡近江

◎宮城野陸奥　◎猪名の湊摂津　◎明石の浦播磨

千載　聞ま、にかたしゑそてのぬる、哉鹿の聲よゝ露やろふらん

拾　もみちせぬときはの山よすむ鹿ゝおのれ鳴てや秋をしるらん

○秋夕

秋のゆふへ　あきのゆふくれ

秋ゝよろつに物かなしきならひなるにまして夕をれはさひしく涙もつゆけきさはをよめり

秋のつゆ○ゆふへ〳〵○身にしむ○秋をへて○秋のおもひ○身にしみとほる○すゝろに落る○ろてやすからぬ○ゆふへかなしき○のてる日影○雲のはたて○夕とゝろき○誰をしへけん○秋乃夕風○ろての夕りゆ○うきならはし○もろき涙○秋のうれへ○たろかをとき○夕身にしむ○それてとゝなき○おもひなゝさむ○そてにつゆちる○そてぬらす夕○心よりおゝ○たそかれよ物思ふ○いひしらぬ思ひ○なゝさ心にあまり○たかならはゝ玄の夕○心りくしのゆふへ○た、ならぬゆふへ○さしてそれといなけれとも○わかみひとつにかなしき○たゆとなみたよろふ○何とあき夕の空○草木の上もかなしき○心なき草木の上○そてのたゆか、る夕○虫の聲風のひゝき○たゆもれき風も身にしむ○いつれ世よりうきものとなゝめ初けん○何ゆゑと思ひもよかぬ悲しさ

雲、　里、　露、　萩、　す、き、　鴈、　うつら、　鳴、　竹のは山、

まきたつ山、　うら波、　澤、　八重むくら、　淺茅、　よもき　（よゝ合）

●名所　◎吉野大和　◎立田山同　◎初瀬山同　◎松山讃岐　◎なには潟摂津

◎須磨の浦同　◎鹽竈の浦陸奥　◎みつれ小島同　◎志賀の浦近江

◎大島備前　◎沖の小島伊豆　◎松浦潟肥前

拾後新　なかめしと思ひすつれとあはれのみ身にろひてうき秋の夕暮
千　なにとなく物ろかなしき菅原やふしみの里の秋の夕くれ

○稲妻　いなはま　電なり

稲妻は雷のろはぬをよめり夕やみに光をそなへて稲のそのるへき故に名つくと云りみるほともなく消れもいとはかなく去はしのほとのたとへにもせり

このよふいなはま○もるくいな妻○いなつまかよふ○ほれかにめくる○峰のいなつま○さよのいなつま○てらしもはてぬ○宵のいなつま○秋のいなつま○夕立の空○山のはめくる○稲葉をてらす○山きはそえて○見るほともなき○時くてらす○てらす稲妻○去はしほれめく○つゆにたにやとりもはてぬ○夕月夜光もこのよふ○雲のはつれに殘る○秋ののをてらす○稲妻の光まちとる○いなつまのすき間○影やとす雲のいつく○去はしとくめぬ○見えぬ雲間もあらはれて○手枕にはこのなそこのよふ

風雅　秋の雨のはれ行跡の雲間よりしいしほのめく宵の稲妻
明暦御會　とりとめぬ光りなからもいさきよくちそさのつゆを照すいなつま

○雁　かり　秋の鴈　初かり　雁かね

雁と秋のならはに來て春のなかへにかへるものなり雁かねいもと雁か音なり依て雁かねれ聲なとといふへからす

友よむふ○友したふ○朝戸あけて○さよふかき○いくつら○ひとつら○雁のつら○つれてとふ○羽風○とふ雁○山てすかり○のらろ數ろふ○かりとなそね○いまたたひなる○月をよてきる○みなそに來る○雁のつかひ○雲行はね○たひろ聲○なれるかりかね○ほさ田かりのね○をしねろりかね○やとりもとむる○雲路をならす○稲葉に落る○天とふかりの○よさむの衣○雁の聲々○おのか羽風○おのかとてよ○夢おとろのす○やそのうつそ○月にうかれて○月に數みえ○月に久まなす○雲路にまよふ○雲路ふむせふ○雲にまきる、○霧の上ゆそ○ふもとにそたる○野澤に落る○衣かりかね○けさくる雁○雁の玉つさ○わたる雁かね○雁わたる聲○雲路をいそく○霜のおほひ羽○雲ふたとらぬ○さたのふもたる○秋風の空○月の下行○よはの雁かね○都を旅と○秋のかりのね○ひとつら過る○數か久文字○ついさの波○遠さかる聲○初かりかね○鳴ほたる雁の涙○入江の波に落る○とほさのるりいさ○枕れ上におとつるそ○つはさにのけし玉りさ○秋きりに翅しほるそ○曉やみの雲に鳴○月ふなく〳〵來る○浮雲に面影消る○きりにたえ〳〵そゆる○聲を帆にあけてそる○白雲に羽打かはしとふ○雁の聞ゆる空○見ほかぬものそすのた○雁のつはさのおほい羽○かきはらねたる玉章○今朝都路にくる雁○ねさめの袖のつゆそぬ○あけそれの空に聞ゆる○鳴かりのりはさくれ行○雁のつかおもかのる○ねくらさためすとふ雁○秋の夜風に聲ほよふ○さよふかき枕に近き○

聲ハして○そこともわかぬ○雲路たどらで來る○關の戸をよぶかゑこゆる○關路の鳥も鳴かはす○濱のまさご落來る○霧のうき波分て乞る○別れにし春のうらみ○玉りされたより○ゟきまさらむす玉つさ○きりよしほれてくる○田面に落る一つら○數あらはれてくる○來る雁の聲れゑ近き○朝日のけいつる高ねをこす○月のゑふねにのらろをそふる○物思ぬ夕の空になを○秋霧よ道もほとゝぎす○雁鳴て野への草葉色かなる

萩、荻、芦、稻葉、松、もみち、雪、霧、沼、風、月（よみ合せ）

●名所　○小倉山山城　○いはたの小野同　○大非川同　○よしの山大和
○立田山同　いこま山同　○宇津山駿河　○清見潟同　○門司の關豐前
○白川ノ關陸奥　○むさし野武藏　○なにはかた摂津　○住吉の濱同
○須磨ノ浦同　○二見ノ浦伊勢　○伊勢の海同　○明石潟播磨

古

秋風に聲をほにあけてくる舟ハ天の戸わたる雁にそ有ける

新拾

へたつとは見えてまちのく間ゆゑり霧の上行初鴈の聲

○霧

きり　ささり　秋きり　朝きり　夕きり　うすきり

きりと物をへたてゝさたかにゑえぬよしによめり景氣をもと、してよめる歌おはし

朝しめり○夜きり○あまつ霧○山をろむる○きりの中○夜を殘す○朝ほらけ○むちきり○きりにぬる、○きりのあと○きりこむる○きりれひま○きりろうみ○ことゑき○きりぬこのみ○きりのまかき○きりれまかひ○きりより奥○霧乃あなた○霧たつ山○霧乃下道○霧に分入○霧のとはり○霧の八重垣○きりの朝け○やゑをつくる○霧の遠かた○霧吹かくる○霧吹おろす○霧の絶間○霧よくもれる○月に晴行○行手よ分る○きりよとさせる○きりにきえ行○きりのうき波○秋風なひく○きりは八重山○乃る駒なたむ○氷の秋きり○川つらくらき○きりの上ぬむ○行のたわかぬ○明ぬまふのき○峰の八重きり○きりによふかき○さなからくる、○うつはぬかた○波のうき、り○波間に殘る○風れたえ間○たえ間さためぬ○ゆくさきたとる○行へやしらぬ○行へもわのぬ○きりそのたよる○きりの上より明る○軒はまて立くるきり○朝きりにぬれし衣○宵の雨の名殘のきり○峰まては立ものほらぬ○山鳥の尾上へたつる○きりよりひ、く鐘はこゑ○棹をしのぬるいかたし○波にさゆたふ浮きり○山もとの梢○曉の袖のしめり○夕きりのへたて○きり吹おろす秋風○きりこめて夕日をれ行○舟子の聲もきりよきえ行

續拾遺　しの、めの横雲なから立こめて明もはなれぬ峯の朝きり

仝　あま衣むまでそ見えねもしほやく烟立そふ浦の夕きり

○月

つき　あきの月　あきのよの月

月ハ四季にゑたきとも專ら秋よめつれは秋のものとなれるなり

月のいろ○月のまゆ○月のふね○ますかゝみ○てりはさる○月たけて○月清み○さしむかぬ○月の雪○まとれ月○月そすむ○かけ清き○木ぢ下月夜○月のかゝみ○薄久もの月○いさよひぢほる○はりかに出る○とわたる月○月のよな〳〵○月ぢこほり○ちりもくもちぬ○夜ゐたる月○みねこす月○あかつきやみ○高くかゝれる○月のあるし○月ぢやこ○笠うちきたる○月のおもて○月の白ゆふ○月の宮人○ますみの月○星まとなる○月の初霜○月のこゝろ○月ぢなさけ○月ぢさかぢき○月のすかた○晝にまかふ○行とも見えぬ○月の面かけ○明のたの月○のつら男○月の下草○浮へる月○落ゆく月○神代ぢ月○野寺の月○こゝろ月○よもきふぢ月○竹の葉ぢ月○月の下露○ゐまてる月○月の明ほの○故郷ぢ月○波の上の月○月のさかり○あまぢさぬ月○しりむ月かけ○月もる軒○月ぢかけしく○やとかる月○月見かてら○ちりをはなれて○露の月かけ○なゝさに久もる○にほぬ月かけ○ちさとの外○こと、ふ月○月をみやこ○都の月○月のさかり○心よりすむ○西になるかけ○月もやとかる○月しりかなる○薬分の月○月も世にゝぬ○くもりみむれゝ○月もてあそぶ○ゐらぢき月○月入のゝろ○月待出る○月のあたり○行末てらせ○入かた近き○また峯こえぬ○空に久しき○夕をれの月○月ぢはつ夜(二日三日なり)○ゆふへぢ山を出る○秋あらはるゝひこり○まとこしよてゝふす○月のゆく道○月夜よしよゝし○曉かけて出る月○上下のゆみはり月○雲なき峰をめくる○有明ぢこのけふむ道○軒はの西にめをる○殘るくまなくすめる○月清み友ぢつ○うきをこのこちうきをあ久さむ○心のあくかるゝ○昔今思ひ殘さぬ○雲きりもさはらぬ○浮雲ゝ光に消て○はなやかゝよさし出る○山鳥の尾上ぢ月○かねて雲なき山のは○あをこのるゝこゝろ○まさこちに影ふくる

●名所　○初瀬山大和　○よしの山同　○あまのかく山同　○ふる野同　○久米の岩橋同　○初瀬川同　○飛鳥川同　○姨捨山信濃　○有明山同　○入佐山但馬　○おほあらきぢ森山城　○烏羽田同　○伏見の小田同　○宇治橋同　○いをたの森摂津　○須磨ノ關同　○宮城野陸奥　○不破關美濃　○明石ノ浦播磨　○松浦潟肥前　○玉津島紀伊　○ふけゐの浦和泉　○床の浦近江　○眞野ノ浦同

後

秋ぢよの月の光ゝきよけれと人の心のをゐてらさす

後拾遺

ぢきかけゝ山のは出る宵よりもふけ行空そてりまさりける

三日月

みかつき　新月ともいふ

見れて出○夕月夜○入かたちのき○西にのけすむ○西に見えそむる○むかりほれめく○影ほのかなる○みかの夜の月○中空にしはしも見はや○山のはをいりの出けん

金集

山ぢはにゐかす入ぬる夕月夜いつ有明になふんとすらん

今しはしおもかけ殘れみかりきのほれかゝみゆる夕くれの空

夕月

ゆふつき

いるさ○いるかた○夕月夜○西にまつ○夕月のかけ○ゆぬへの秋○見るほともなき○かたゐれ月○ゆみはり月○くれぬ間のうすきむかり○たのねをいつこの出けん○夕の空に出る○ありて入る

玉葉　またくれぬ空の光りと見るほとにしられて月の影になりける

慶長千　中空に光やそはん夕くれはまたほのこなる山乃はれ月

望月

八月十五夜　もちりき

入口にむかふ○みつる月影○もちつきのかけ○なかはにすめる○中空乃月○もちれ夜○秋れもなか○名にれぬ月○秋乃こよむ

金　さやけさい思ひなしゃと月かけをこよひとしらぬ人にといはや

石清水法樂　いつはあきと今夜最中れ秋の月わきてよにゝぬ影のさやけさ

十六夜月

いさよひの月

いさよふ○しはしいさよふ○出る間遲き○いさよふ月○きゝ乃ふみし光○きれふの空れなこり○山れそにいさよひゝろほる

千　はかなくもこの世れふけを志らすしていさよふ月を待こたる哉

白玉　なかめわひぬ木間より猶山れはいさよふ月の心つくしと

立待月

たちまちの月　十七夜れ月なり

庭に出て○くるゝより○待たてる月○立ちまたるゝや○月待と立やすらへは○庭の面ゑ立出て待○むとりのみたゝすむ○山のとに向むてたてる○ねやの戸さゝて

待たてる

石清水法樂　うき雲の猶さえのこる山のはにほのめくのけや立まちの月

居待月

ねまちの月　十八夜の月なり

月まはよひ○はしねしてまはゝ○より居てまつ（一の柱に）○むとりねまちの月○心ゐての峯○ねまちの月のこよひ○ならひねまちの月

續撰吟　まきの戸にさしくる影のをそけきは居まちの月のいかにねられぬ

臥待月

ふしまち　ねまち　十九夜ノ月なり

まくらさゝめす○こゝろみしかく○ふしなからまつ○よりぬしてまつ○ほとなくむかふ○ぬしまつ空○出るおそしとふしまり

○席、枕、　なとこよせてもよめり

石清水法樂　秋も猶霜と見るまて影さゆる軒はれ竹れふしまちれ月

廿日月

はつこの月

はたこに見る○山のはつこの○はつかの月のさしのほる○呉竹のむつかにやとる

文明九　ふしまちの空もきのふにくれ竹のはつかにやとる露の月のけ

在明月

ありあけ　十五日以後朝まて殘るあり　曉月殘月も同し

かけしらむ○入かた○明る月のけ○れこをる月○れこをる月○ひかりをさまる○山れはにかたふく○中空にのこる○鳥より後にゝる○あかつきかけてまち出る○明るよれしらむひゝりり

金　山里は門田の稲乃ほのぐらと明るもしらす月をみるかな

停午月　なのうちのはき

なの空高き○またかたふかぬ○行とも見えぬ○ろらのなのは○よものなかろら○さよふかとふにけぬる空○中空にかけかたふかぬ○西にまたなかれもやらぬ○水底も殘るくまなくすめる○出入山の中やとり○あしのさののけかゝふのぬ○空にも今はなのは○此まゝに一夜を明す月もものな

續古　水の面にのそへし秋の月みをい空にも今ろをのはなりける

九月十三夜　寛平の御時よりこよひの月をめりることゝなれり

後のこよひ○長月は影○長月乃空○長月のこよひ○みな秋はひかりをそへて○置霜の白きを後の月

●此外菊もみちをとをよせてこよひといぬへし

柏玉　あのなくにゝるかひあらん光かな夜も長月乃名にしおふのけ

待レ月

まちをふる○月おそき○まつほとの○まつに久なき○まつに更行○日吹おくれ○またるゝ月○月まち出ん○そなたのゝねゝ○くるゝうれしは○まゝておそき○月ろつれなき○まつ夜のさなる○みるへき月○山のはに猶出やらぬ○まつにこゝろをたくす○山のあなたを思ひやる○心あての峯乃むかひてまつ○出ぬ間に先雲もらぬ山風○出ぬ間の山のゐなた○ふけぬ間に早影ゝせよ

詞花　秋のよは月まちかねて思ひやる心いくたひ山をこゆらん

貞享御會　秋風ハ雲吹とらへ夕まをれ月まち出ん山の高ねに

山月　たのねの月　山はゝ乃月

匂ひて出る○さしのほる○山風きよく出る○月落のゝる山のは○柴人は月にかゝるさ○ゝねの猿月になく○山はをはなれて乃ほる○松の木間に見えそむる○ふもとをのけてゝらす○いつるよりすゝ野にうつる○山さとの軒はに出る○月にをしゐのつまこふ○なゝたゝ○みねの雲ふもとのきり○紅葉うめますゝ山は○山の名のあら玄に晴て○雲に光をさきたゝて○雲はりものこらぬゝね

續後撰　天津空はよき夕の秋風ハ山のゝれほる月をみる哉

家集　尋ねくる人も有なはみをは山いかゝまちゝん秋はよの月

森月　かねてうつろふ○梢の月○もるかけうとき○露にうつろふ○木は間をもりかぬる○森は木葉ゝ月に色つく○ぬる鳥も月におとろく○月くらきもり は

した道

龜山七百　身をゝれはかたふゝ影うゐはをなる老曾は森の月をゝるにも

さやかなる月よねぐらをうのをてや森はこのらす立さをゝく聲

野月　のへは月　野中の月

草はは○やとりけり○月やとる○露あゝる○すゝのゝ月○草葉にあまる○家路をするゝ○露は上に光をゝへて○廣き野ゝ月ひとりすむ○野守かいほもかくをな

き○玉しく野へ淋露○野へれかり庵にすむ月○つきに色つく野へれ露○草れ葉分
ゝ見えそめて○色々乃花野れ露に影やどす
新後撰　見るまゝに心そうつる秋萩れ花野の露ゝやどる月ゝけ
元禄御會　おきゐさす露も果なきむさし淋ゝ草はゝなから月ゝうたろゝ

關

月

せ紀ちれ月

月をとゝめぬ○ひとりかけもる○もりあかすらん○杉の下道○せきちをこゆる○
かけもとまらぬ○月をとゝめよ○心やとむる○關守のいとゝねぬよ○關れゐら屋
ゝすむ月（逢坂によめり）
新後撰　秋風ゝふはゝ乃關やれあをまくもをしからぬまて月そもりくる
千首　月かけれすまの關路にあくかれて中々人やとまらさるなん

田

月

○いなはの露○門田淋しき○かりいほさむき○かりほの苫屋○ねぬ
よの思○稻葉なみよる○いなはの雲○ほなみ色にや○稻葉にやとる月○稻もる人
淋袖にやとる
慶長千　をるゝより露おきゐたるむしろ田の上に玉しゝよとれ月かけ

橋

月

○夜ゐたる○すゝゐゝる○見ゐたす○月にそゐたる○影ゝとゐたる
○秋の旅人○むゝしなからの月○あやふさもゐすれてかよぬ
玉葉　いそれかゝふるの高はしよゝかけて月も幾よかすみのこるらん

河

月

月のふねすみゐたる月そすむ○氷をしける○影もなかる、○月

に聲すむ○秋淋川水○さやかにすめる○月ゐなかる、○秋ゆく水○月かけになひ
をゝ玉藻○岩瀬乃玉の數見ゆる○ひれふるうろくに○月をやとして行水○淵ゝ沈め
るさゝれ石の數みゆる○かけとめてすめる心○をみのたえ間の月
新千　久方のあまてる月のゝたら河秋のこよひ乃名に流れに、
家集　よしの川花は岩にもせゝられけり行かけとめよ秋のよの月

水邊

月

水邊は、　河、　澤、　清水、　井、　なともよめり
波の月かけ○かけやとす水○瀧の清水○岩をす水○流れにすめる○すみたかゐら
芦間ゝやとる○山の井のにこれゝ影もをもる
新後拾　よもすゝら空をうつして行水になかれてふくる月れかけかあ
白妙にみかける波の月かけは名にもくもらぬ玉川の水

江

月

みをつくし（なには江住の江によめり）
みゝく玉江○露の玉江○堀江め月にうつるゝ○江の水にすめる○入江の月にこき
行○玉江れ芦のよゝれ月○江の波遠をすめる○何こをを思ひ入江○にてゝ江乃底
まてすめる
續千　をもりなきかけもかはらす昔みしまゝ乃入江の秋乃よの月
夕汐やゝらにさやけき月ゝけを入江の波につれてさすらん

澤

月

をすれ水○月になる澤の水○鳴はゝ跡の澤水○秋しら波荒田の澤○
澤水ゝうつる月

亀山七首　秋風やみかきろぬらん廣澤は池の玉もにやとる月かけ

沼　月　いはかき沼にやとる○埋れ水に月ころすまね（住吉の淺澤沼よよめり）○行かたもなき沼水にやとる

千首　人めなきいはかき沼を尋ねても所をわらぬ月やすむらん

池　月　月ろすむ○池のこゝろ○宿のいけ水○つきはこほり○底まですめる○池のこゝろにやとる○かけをますゝの池○くもらぬ月をうつす○うつもる、月のみえさ○池のゐ、みにてりろぬ○池水のそこのさゝれぬ數○よゝすみぬへき池のかゝみ

亀山七百　よと、もにかけもえもらぬ大澤の池ころ月のゐゝみなりけれ

後拾　池水は天の川にや通ぬらん空なる月のそこにみゆるは

海邊　月　貝ひろふ○夕なみ○すまあかし○ゑゝのはら○青海原○八十島てらす○うらゝ〳〵みゆる○波間にいる○波間にやとる○うらより遠○秋の舟人○秋のしほかせ○なきさ洛松○月はみるめ○波は上の月○夕波のゝきりしられゝ○こく舟はみなとゑよるの月○八十島の數もかをれぬ○白妙の濱ろまきこゝろ雪となる○沖ゆく舟の數みゆる○月かけをもる鹽けぬり○月になきさるしほ風○夕しほにかけさしのほる○岩うつ波のゐらいそ○あまのくるもなゝの秋○あまのゝ、へなゝきよ

新勅　わかのうらやあしへろたつの鳴聲によわゝる月のかけそさひしき

家集　海原やよせきてゝへる白波ゑ光そへゝる月のかけ哉

湖　月　さ、なゝてらす○ゑほてりまさる○鴉てる月○しほをちぬ海○さゝなみとほくてる○てらすか、ゝれ山のは○さ、なみきよえすめる○さ、なみや月もにほてる○秋風ふきしくなみにうつぬ

家集　月かけもにほてるうらの秋なれはしほやくあまの畑たゑをし

○駒迎

こまむかへ

八月十五日より廿日比はて諸國の牧に貢の駒を引來るを勅使にて逢坂まて出てむかへらる、をいふ

○ひく駒○ひゑ人○かけみゆる○たちいつる○清水にうつる○きりはしろこま○かけもへたてぬ○いくきのこま○引もたとらぬ○こえくるこま○駒引のほる○引わけの駒（親王公卿にまゐらせらる、をいぬ）○むらさきの庭○甲斐の黒駒○尾ふちの駒○望月のこま（信濃）○望月は御牧○逢坂の關、走井、瀬田の橋、○安達のこま○穂坂の牧（甲斐）秋は田の一、尾花あしけ、ほさゝのこま○雲ゐの庭に出る○行なたむこま○上野は駒引○むさしのこま引○宮人の出てむかゆる（殿上人逢坂に出るなり）○世ゑ絶し道ふみ分て

續後選　あふさかの關たち出るかけみれとこよむろ秋の望月はこま

千首　あたまより今や引らんくもりなき御代のためしの望月のこま

○野分　のわき　のわきの風　もやち

野邊の草木にもけしくぬる風をいへり

○れわきぬく○あらかりし○むらさめ○かきほある、○たゆゑ〳〵く○吹出る○今朝れ野分○よりの野分○のわきになひく○野分にもる、○野分のあと○野分にさえぬ○野分するよ○あらき野分○のわきれ彩○野分ふく比○草を朝ぬす○野分の行へ○野分せし風の名殘○枕さためぬ花○吹しをるちくさ○花の上にたらき野分○庵までころをひきけれ

元六百　思ひやるわか心まてしをれきぬ野分する夜れ花のいろ〳〵

風雅　野分さたた夕の雲のあしいやみしをれに、たる秋の村雨

○擣衣　きぬた　ころもうた

秋の夜寒のころ衣うつ音をり旅の夜月のけしきをとあはれにさひしきかたによめり

○うちわかす○まきらへす○霜にうつ○き、ぬる、○ちたむうつ○をとめ子○あさちぬ○妹らうつ○つきにうつ○やまひて○うちすさむ○打しきる○しのにうつ○秋あはせ(賤の女かきをれ衣れ秋あはせといふなり)○槌のおと○しつはた衣○花すりころも○しろき衣○きその麻きぬ○御狩のころも○初かりころも○壇やき衣○よさむれ衣○秋さり衣○しものころも○しのふれ衣○もちすり衣○いやしきねや○賤らさ、や○衣してうつ○きぬたうつ聲○ときわふひ衣○秋のきぬた○しもをのらうつ○よれれさよころも○起ねてうつ○いねかてにうつ○ちさおやちさひ○打もたゆまぬ○あらしのをち○賤かきぬた○さとのきぬさ○まちかきて衣○ひ、をきぬさ○きぬたれつち○うつ音しけみ○てなさらをさ○をちのさのて衣○よさむにいろて○うつ聲高く○ねぬよれ友

○ちさひ聲のうちむる○まらきに菊の衣○鳥のねまてうつ○月にうちみてうつ○されまちてひてうつ○よさむの霜れ下衣○千里の夢をおとろらす○打人のねぬよしらる、○あまのいろやにうつ○あらつきのけてうつ○よるれ衣をうつ音○さゆむまもなみらけころも○波かけ衣ほさてうつ○いくさとにいそをよさむ○きぬされ音の空になり行○手玉もゆらに衣してうた(手玉もゆらにい日本紀に出る詞なり)

●名所　○鳴尾ノ浦摂津　○志賀ノ都近江　○桂の浦山城　○秋篠の里大和

○夜寒の里尾張　○ねさめの里美濃

續千　遠近にころもうたなり里人のよさむや同し心なるらん

家集　更行いものにまきれすのらころもうた聲さをふよはの秋風

○鳴　なき

も、はかき○いくも、羽○はねおと○さたしき○なく澤○このすの久○門田のしき○しきの羽音○晩つをる○しきれふしと○曉しるき○月にしきなを○いねかくしき○澤邊の床○雁ゐきよゐろぬ○羽音もさむき○草根にふす○ふすしきの床○はねのきの數をかそふる○しきの羽音に袖ぬらす○しきのさつ澤邊

●名所　○長岡山城　○伏見同　○深草野同　○猪名野摂津
龜山七百　呉竹のふしみの里にふすしきれ床もよさむに秋風そふく
家集　誰いほの夢をゐ殘す秋風もよさむれ小田のしきのそねかき

○鶉

うつら　かさうつら雌雄ろはぬなり

野へあれさる庭をとによめり夜もなく音の物あはれなるかさによめり
草かをれ○草のねや○草ゑ床○うつらかる○たつうつら○うつらなく○うつらを
ふ(ありくなり)○かり人○野へのうつら○身にしむ風○うつぶれ床○さむき野風
○れのこのふしと○外面ゑ野ら○をのやか下○かりたれ原○田中の里○よもきのろ
ま○にをれかやはら○尾花かくを○きりのまかひ○床しめつらん○あさちかむら
○よはの聲々○あきぬるゆか○秋をうつら○をのやか下にふすうつら○ねやもゐ
をぬと鳴(風なとにて)

●名所　○床乃山近江　いぬかみの　○眞野ノ入江同　○伏見山城
○深草同　鶉　○大原同　をしほ山　○大原同　八瀬

六百番　うたしうあし萩かはかき ゑあれ行をはてとろ野へになすうつら哉
後拾　秋風に下葉やさむ久成ぬらん小萩か原にうりらなくなり

○菊

きく　しらきく　八重菊

唐土南陽酈縣ニ有ニ菊潭一飲其水者皆壽とあるより老せぬ菊千年の菊なといへるなり秋のきを○ろの、きく○菊のふち○き久の枝○あまり星○八重菊○まさりきく(菊の異名なり)　○ろのきを(說々あり)
○まのきれ菊○花の初き久○かさしよさせる○花のおと、○菊さを道○こかね ゑ
色○しのやの菊○岡への菊○菊の花すり○風れしほきを○古枝の菊○菊のことの
は○きくの衣○老せぬ菊○菊うる市○雲ゐの菊○くちなしの色○八重かさなれる
○菊れ下水○ちとせれ花○山路のきく○ちよの白きく○菊の白露○岸の白きく○
ちくさに匂ふ○けふれをらきく○菊のさかつき○けふつむきく○玉のむらきく○
たゆもはえある○きくろ一もと○菊のまのき○匂ふ朝風○露れひかり○菊乃色々
○菊のさかり○その、白きく○き久の初花○露なからふる○花の色々○菊れ朝風
○露のまかき○いさ、を霜○菊のきせわさ(露霜のふほひにわたをきするなり)
○竹乃ま垣ゑ白きく○きくのりくり花○むらさきのひともと菊○きくの花ゐつら
○菊をくすりとする○うつろふ菊のこむらさき○吹上ゐたてる白きく○きくの下
水老をせく○朝霧に匂ひもしめる○も、くさゑ花のとちめ○うつろへは錦ゐまか

ふ○咲菊のかきほ○やま人のよはむくみしる○咲はりることとしの菊（花の終なり）
○世のうきめ見えぬ山路に咲きく○くれなゐよ匂ふか上れ白菊
九は陽數なり九月九日を重陽といぬ此日菊を用ることは費長房桓景といぬ人に
語りて云汝家にわさとひ有赤き袋に茱萸を入ひちにかけて高き山にのぼり菊酒
をのむへし此わさはひをのろくへしと云々

●名所　寛平御時菊合十所

○大澤ノ池山城　○紫野同　○田蓑ノ島同　○水無瀬摂津
○吹飯ノ濱和泉　秋もやゝ　○戸難瀬同　○佐保川大和
○逢坂近江　○網代れ濱伊勢　○吹上ノ濱紀伊

後撰　車もてよはひろふてぬ花なれは千代の秋にそのけゝしけらん
新撰　我やとの菊の朝露色もをしてほきて匂へ庭の秋風
家集　色も香も世にならへみんもろうなき花なき比の秋の白菊

○紅葉

かへて　は、う　はゝ　ぬる　ぬるて

もみいつる言を躰言になしたるなり衣を染るゝ紅花をもみたして染る故赤き色
ほくをみたてゝいへるなり
うすくこく○はつしほ○ぬれいろ○もみちかり○ひかりへて○むらもみち○はし
もみち○ほたのつら○もとつ枝○ちしほの紅葉○二木のもみち○岩垣もみち

○露の下染○色てる山○やしほのもみち○枝のもみち○色のちをさ○いそ山もみ
ち○もみちむらこ○木のしたもゝちち○杉間れ紅葉○もみちの衣○ぬるてのもゝち
○もみちのみふね○まさ木の紅葉○かへてのもみち○匂へるもみち○岩もとは、
そ○は、ろのさえた○ゝきはのは、ろ○岩のきまゆゝ○すろの、まゆみ○まゆみ
のもと葉○若木のかへて○葛はふ軒○りたふく軒○ほたのかれゝ○岩ねのほた○
いかきのりた○はしの立枝○かさすもみち○雪をも染るゝまゆみのもみち○柏の
もみち○柿のもゝち○うすきと、そ○も、えのはし○露にぬるて○雨よぬるて○
波にぬるて○山のきもゝち○細川まゆみ（細川ゝ大和なり）
○色のちをほ○は、ろのもり（山城）○すろの、まゆみ（弓よつゝる木なり）
○ろてのもみち（紅涙散袖）
○ひけいる山○梢のもみち○にしきおりなす○つたにいろこむ○里のこすえ○一
しほ染る○手折にもろき○ちしほれ後○うすきこすへ○立枝色つく○立枝色こき
○波も色ろふ○染る一木○梢のからにしき○秋山の下てる色○ゝちなしの一しほ
染○下染もましる千入○もみちかさねのろて○なられはろもみち
○と山かくれの下紅葉○くれなゐむれむらこ○ふもとめをりの紅葉○外山のすろの
は、ろ原○葉さき色つく若かえて○むくらの垣にはふつた○白雪に色をかさぬる
○道の行手のはしもゝち○白露れ色とる木々○山つとに手折○木々のにしきをた
つらしし○山のにしきを染る（もゝちとなくても）

○梢ゝ秋ゝ色（同上）○時雨に染るこすへ（同上）
○道の行手に手折ら夕つく日うつろふかたの○もみちにあかぬ友人○紅の初ゝな染
のもゝちゝ○ちしほなるこすえにましるは、ろ○むらしくれぬるからをの、もと
柏○ゝら錦雲のはたてにかけて織○夏のかへての葉さき色ゝく

●名所　○龍田山大和　○初瀬川同　○まゆゝの岳同
○いなり山山城　瀧　○ならひの岳同　○いはたの小野同
○大井川同　○となせ川同　○けしきの杜大隅
○白川ノ關陸奥　○布引ノ瀧摂津

新拾　露霜の色ともゝえぬ紅にいかて染ける木葉なるらん
元祿御會　からにしきあゝぬ紅葉ゝ暮る迄た、まくをしき秋のこのもと

柞

類　は、ゝ原しつくも色やかはるらんもりの下草秋ふけにけり
碧玉　霜さやくは、そのさむき山風ゝかたしくろてや色かはるらん

櫨

千首　時雨行かたの、ゝの、ゝたしもゝち日をへてまさる秋の色かな
文明千　夕日さす外山の木々のよそめにも立枝はしるきゝたしもみち哉

蔦

新續古　うつの山こえし昔の跡ふりて蔦のゝれゝに秋風そふく

文明千　こす波の東にぬれて山川のいはねの蔦ゝまつもみちつ、

○秋田

あきのた　水田　山田　岸田　小田　小山田　門田　澤田　湊田

早稲より晩稲かりまてのをま又秋田をもる心をもよめり又よくゝろりたるさま
をも

風わたる○いなむしろ○かけほす○ほたちする○もりあゝす○いほりさす○さゝ
のいほ○庵むすふ○ひとつ庵○なるこ○稲す、め○むらす、め○もるやたれ○秋
ゝへて○ひたの聲○ひたはへて○いなはかる○稲葉色つゝ○いなゝれ波○いなは
の雲○いなはなみよる○いなはをしなへ○いなゝれ色○いなはの露○ほゝならは
る、○わさほのゝつら○ほなみかりほす○田つられ稲
○ゝりいほさむさ○ゝとはもる露○ある、ゝりほ○賤かよさむ○庵もる賤○そともゝ
の小田○かりいほつくる○おゝてのいほ○ひたれかけなわ○わさ田かりゝのね○落
穂むろふ○田面れ秋○小田の秋○秋の小山田○山田れほなみ○年ゆたゝなる
○山田の稲葉○おゝてのほなゝ○山田乃をしね○いなゝ乃秋○早田おゝて
○ゝひゝ稲葉○はしりほにいつる○小田の穂むけの秋かせ○色になる田面○なほ
ゝたふる秋風○賤の男かもるゝのりいほ○かれる田のひつちにのでる露

いなつま、　そほ法、　露、　霜、　風、　鹿　なゝとよゝ合せ

●名所　○鳥羽田山城　○伏見ノ小田同　○ふるれ山田大和

○三輪の山田同　○住吉社岸田頼津

新拾　しら鳥の鳥羽　社ほなみ吹たて、もるいほさむき秋の山風

寛文御會　いねかてに聞やわふらん賤のをろもるのりいほは小田乃秋風

○暮秋

くれ社秋　あきのゆくれ　ゆく秋

秋社日かすれよう〳〵くゆくれゆくをいふ

秋よくれ○秋をれて○秋乃ゆくれかた○秋社みなと○秋社かたみ○秋の末野○行かたしらぬ○秋もいぬめり○とまらぬ秋○殘りすくなく○あきの別路○いまはの秋○けふのゆくの秋○秋のなごり○秋そすくなき○秋ろりきぬる○秋社末野○曉のかねをかきり○かたみをのこす袖のつゆ○行秋の有明の月○むしのねもよはり行○末野のち草うらかる、○かたみなるへき紅葉は

○くれそつる秋○うらゆかねたる眞葛原○露もそや霜になり行○こよひはこのりの秋○けふはみをくれ行秋○行秋まねく花す、き○けふはとちむる秋霧○とまらす過るてとはり○もゆちぬくあらし○かねはおとに秋もつきぬとおとろらす

續後拾　とまらしな雲のはたてにしたふとも天津空なる秋のわかれは

天和御會　かれゐたる尾花のもとの虫のねもをしむに、たる秋のくれかな

冬部

○冬

冬ハ木々社木葉も散はて、野への小草もこのれはて時雨社雲も雪けとなりて木枯れ社をき、月のけをそるもいと寒くすさましきかたはあはれふか、らんかし

木からし○なかき夜○さゆるよ○風さむき○さえゆく○冬このれ○冬こもり○雪氷

○月さゆる○木からし○冬のさむしさ○入めかる、

○初冬

冬季社はしめより四五日社ほとの心をよむへし

霜むすふ○氷ろむる○あられふる○時雨ろむる○冬きぬと○冬たにけふ○きのふの秋○冬のはつ空○また冬なれぬ○秋のなごり○露霜とおる○けさよりなる、埋火○岩間の水の薄氷○冬きて風の音かはる○北山風に冬來る○木のはにあらき山風○雪にあらしの吹そふ○秋乃夢殘るまくら

○冬のくる朝け社風○あらし社北に冬を迎へて○山風のきのふにまさるはけしさ

○しくれ行雲にあらし社吹そひて○冬のきて秋にわかる、よて雲○冬きぬと思ふにおはるけさの空○冬きぬとけさふきしをる風○秋をきのふにそや過しぬる

●名所　○音羽山山城　○嵐山同　○ひえの山同　其外野山海川

千載　さま〳〵の草葉も今ハ霜かれぬ野へより冬ハ立てきつらん
家集　いつゆきを軒はの松ゑ吹かへてむへ山風も冬そさびしき

○時雨

志ぐれ　夕志ぐれ　さよ志ぐれ　村しぐれ　しぐれの雨

志ぐれの空はをもりみはれみさゝめなきを世乃はかなさにかけなとしてもよめり

山めをる○うちしくる○いをめゑり○行しくれ○星つゝき○はつしくれ○ふりみふらすみ○時雨降おける○しくれすさめる○時雨ををたす○しくれてわたる○あられまし〻り○あらし〻ゑきほふ○ふりもさためぬ○雲立はまよふ○風乃行手に○名にしゑる、○しくれ法いと○まよふ浮雲○手枕さむく

○くも、をとわく○日かけなからに○一村の雲○立まふ雲○山のき〻らし○立いる雲○風の浮くも○か、るむらくも○もる、夕日のこけ○時雨かちなる空○しくれ行雲法のへし○村雲に山かををらし○閨の板間をもるしくれ○くもるかとみれハ晴行○しくる、雲にもる月○しくれぬかさもゑもる○袖にふるやゑ初しをれ

●名所　○ゐりらさ山大和　○いこま山同　○ふるの神杉同

○天のかく山同　○龍田川同　○須磨ノ浦摂津

壬葉家集　うきて行雲間の空の夕日影はれぬとみれハ又しくるなり
　　行めゑる空にれもへは一むら法雲もさとをゑ時雨とはみす

續古貞亭御會　さへゑらす都は雪もましらねと山のは白き夕くれ此雨
　　今こゝまはらしも雲をさそふこのと山風さむき夕くをの雨

○落葉

おちは　ちる木のは

落葉ハ古くも秋によみしを今ハ冬法題となをりちる音を雨かとうたかひこゝろもとけ水にうつのへるを舟にをたて、もよめり

ちるもをちち○まゆみちる○まさきちる○冬の葉○木葉ちる○散まよふ○落葉かく○さうむ行○ちりしける○けさ、そふ○木乃葉しを○桐のくち葉○ならの落葉○霜れゑちは○風になゝる、○落葉衣○つもるくちは○埋むもいくへ

○散しもみち○木葉散しく○くをなゐく、る○もをちふみ分○まとの木葉○風れこ法は○あふしの落葉○木葉をさる、○木葉ちるこゝろ○柏木の落葉○山風にてすへはを行○もみち吹やる木枯○時雨にをほぬもみちは○葉守の神○庭の落葉ゑ風さをを○庭の面に錦をしける○庭のこけちにしきを

○山川にしからをかくる○水乃色もみえぬはかり○江法水にあらふにしき○いかたしもなつむいこのり○木葉にましる水鳥○峰の瀧つせ色かはる○月にしくる、も

みちは○吹風をまたても、ろき○雨とふるもみち○水なき空に行船（木葉落ちるを見たてたるなり）

○山風落木葉を雪にふきたつる○人とはぬ庭の落葉ゝ跡もなし

續千首　おのつからふかぬたへまもあらし山名にさそはてちる木のは哉

千首　冬ふかくなりにけらしな山さと落木葉ゝ閨落月もらぬまて

○木枯　こがらし

あらしと木草をあらす風よていつにてもよめをと秋より冬かけて專らよみこからしゝ木をからす風よて冬のあらき風をいふ

聲さむし○聲たて、○聞わひぬ○さゝはをて○こからしの風○こからゝ枯聲○松にそのこる○おちはすくなき○松のこからし○のきの木枯

○月ふき出す○木々のこからし○落葉殘らぬ○にはれこゝらし○木々に聲なき○松のみ今朝ゝ聲たて、○秋の色をさそひなくして○松をのみはらふもすこし○もみちの錦吹さて、○朝日かけ匂へる山のこゝらし

家集　散つくす枝にゝたえて庭の面れ落葉にさゝく木枯乃こゑ

仝　松よ落み聞もをむけしみし秋の色はのこふぬ峰れこのらし

○殘菊　のこりのきく　冬のきく

陰暦九月九日より後の菊をもいへをと多くゝ冬れ殘をよめり

霜かれ○染かふる（菊の色うつりかはるなり）

○殘るらし○霜をへて○秋にをせはや○冬もかをせぬ○うりろふ○冬にうつろふ

○霜にもかをす○うつろひかはる○ゆらぬいろあく○しものまらき○のこる白きく○朝なく〳〵染かへすいろ○冬ろをれまかきもしらぬ

○秋のいろをまろきにのこす○霜むすふまかきにのこる○むらさきふかくうつろふ○霜かをのまかきろきく○うつろひ殘るよしき○霜もひとつにさく○花なきときの菊

新後撰　おれつから殘るもさむし霜かをの草葉にましる庭の白きく

明暦御會　うつろふも又一しほの色なをや秋より後の露の白きく

○霜　しも

霜ゝ秋の末おき初をゝ秋のしも初もなといへをと冬のもなをいて、よいたす

置まよふ○霜はしら○霜ろを○霜さや之○霜けふる○霜こほる○しもとつる○はつしも○霜ふをや○霜か、る○ふをわくる○行あひの霜○霜の衣手○霜おくかせ

○夜とて落しも○枕のしも○松のはとつる

○霜のふりは○霜にくもをる○霜れ八重ふき○霜のくちて○日影にけふる○霜お

きまとふ○霜のまさこち○あけほれいろく○霜れ板さし○霜ぢ花野○夕霜をむし○雪とさるまて○朝霜けたぬ○霜のむらきえ○はたをの霜（はたをまさらをり）○夕こりの霜○霜やたひおを○霜はろふしき○たきゝの上におく霜○おきあかすよとこの霜○霜に音あるさゝむら

○しもにしみつく玉さゝ○苔のみとりも霜さゆる○置あかす霜（置と起と持合なり）○白露のむすひし後○おく霜に色をふかむる松○柴人の歸る山路の夕霜

新後拾　朝日さすはやの軒はれ霜とけてしくをぬ空に落る玉水

御集　光もてあけほのいろをかさゝ　れの橋にみちさるよはの霜かな

○枯野　かを野　冬の野

冬かをのさひしきさまをよめるなり

草かを○かき荻○尾はな○霜のを○色もなき○かをわさる○色なき野へ○冬野の霜○しもれ野へ○野へぢ朝風○花ゝ皆あらぬさまなる○尾花か袖も霜かをて○秋の色ぢうつろふ野へ○一花殘るおゝなへし○冬の野原のきり〳〵す○こから山からとひちりて○のれ野にあさる村鳥

○すゝきのゝわのる、○松ひとりかれぬ○ひとつ色なる○冬のれて野守のいはも顯はる、○草れ枯葉よしもの花さく○秋の花野ともなし

●名所　野の所にてもとむへし

淺茅原しもれ下葉ゝのれはて、ゝしにもあらぬ野へれ色かな

家集　見しや夢草葉殘らすしもむすふ手枕乃野れ秋のおもかけ

○寒草　ぬゆれくさ

いつれの草にても冬のれぢさまをよむへし

まはき原○あさち原○道しは○をめなへし○おもひ草○むくら○ゝま荻○かるかや○よもきふ○花す、き○かをわたる○冬ゝれ○しもかれ○のれ乃こる○かれゝて、○草れ原○荻のかれは○冬野の尾花○しもの下草

○しもの下荻○しもにいろなき○しもに跡ある○のをは枯草○しもれはあさく○枯野れ眞葛○しの、ゝをさ○草のゝもと○しもよをりふす○しもにかれたつ○草の冬かれ○淺茅のかをは○しもれかきほ○ありしいろなき○風もたまらぬ○れをしもに面かはりする○日よそひてかれ行

○しもの花さく野への草○かれてもまねく花薄○尾花かそてよしもむすぬ○むら〳〵にしもおきのこす○しものをのおれ、萩原○枯れのこる小笹か上○ゝとりすくなきしもの下草

續後拾　枯ぢてる冬野れ尾花風過きて夕しもはらふろてかとそみる

新古　しもさゆる山田れくろの村薄かるひとなしよのこる比かな

○寒蘆

このれあし　冬乃あし

海川江澤池などに芦のしもこのれて寒をもさひしくも有よしによめり
みたれあしいしをれあし○あしの花○あし穂○みなとあし○下おれ○下みたれ○
しほをは○むれふす○むらあし○ぬしあし（しをれふしたるなり）
○あしたゝ（芦れよのうちにうすき紙のごときをいふ）
○しものむら芦○あしのしもかれ○しものかれあし○殘をるあし○しもにかれ行
○あしのはむすぬ○あゑの村立○波のむらあし○あゑのぬる葉○入江乃舟のあら
はる、○あし分小舟きはりなゝ○さむきあしまれ水鳥○枯たつあしに風さやゝ○
鴛の通ひ路あふはる、
○波にぬししもよしをきて○のれむにはるうら風○あしれふし葉を氷とつる○
うよゝともなき風乃さむけき

●名所　○なにゝ攝津　○三島江同　○玉江同　○和歌の浦紀伊
○大井川山城　○宇治川同

風雅　なにはのた入江にさむき夕日影のこるもさひしあしのむら立
玉　あしのはもしもかれはて、なにゝかた入えさひしき波の上かな

○氷

こほり　うす氷　うすらむ　あつ氷　つらゝ　たるひ

水へんいつゝたゝよてもよむへしひともたら、といへり
うはこほり○つら、ゐる○くゝくる○とつる○しゝこほる○夕こほり○朝こほり
○とちろむる○朝川○とちもゐへす○さむき夜○風わたる○跡見へて○山風こほ
る○氷りし瀬々○氷をく、る○よるのこほり
○よゝをへて氷る○あらしに氷る○なゝゝの氷○氷のゝさひ○ろてのこほり○すは
のこほり○氷のせき○芦間の氷○氷のぬき○氷のとちめ○むすぬこほり○とつる
こほり○日をへてとつる○氷をゝ、ゝ○いゝをへゝ氷る
○岩間の氷○今朝や氷れる○氷にうつす○氷とちろぬ○むすほ、る○氷りしま、
に○こほりやむてん○こほりの上○とけぬ日數○氷にのこる○氷のかよひち
（すはの海）　○氷のゝし（同上）　○氷をわくる○氷のそて（月やとる）
○つら、の床（水鳥乃）　○水れ心もこはる○池の浮草とちそふる○風わたる跡
より水る○行なやむ岩間の水○氷をゝ、ゝ山おろし○氷にかはるなみのをと○水
鳥のつら、の枕○氷をく、る水○氷のますの、み○氷のひまを行舟
○氷をみの之月かけ○氷になつむ河舟○山れ井の影みし水もこほる○氷にとつる
瀧れしらいと

續古　早きせよめくるみなはけうきなゝらこほりてとつる山河の水
家集　ぬくるよの空より落て水よりもさむきこほりをしゝ嵐哉

○冬月

ふゆの月　冬のよの月

冬深くなるまゝにかきりなく寒きをいへり月さえてのさえはさえ冴るとかきていたく寒きをいへり

冬のれ○しもくもり○身にそしむ○雲の上に○空さえて○さえとほる○しもこほる○見しあき時○しもさえて○のけきゆる○さゆるよ○こほれるつき○木葉にくもる○しくれてくもる○雪より出る

○月にさえたる○影すさましく○梢くはなき○あらしにすめる○雪にくはなき○しもにさやけき○雪にかさふく○やとれはこほる○落葉か後○しもよ時まくら○しもにこほれる月○木間さはらてすむ月○れをしもにかさねてさゆる

○しを夜しふれてさゆる○月すむ空乃こからし○まさこにこほる月かけ○月よさえさる天河○見る人の袖にさえとほる○さえこほるしもよは月○雲の氷を出る○あらしよさゆる月○空よこほをる月のけ○空さえ〳〵て出る○床のしも袖はこほり○更過て袖に嵐はさゆるよ○白雪の色もひとつよさゆる

新古詞　風さむみ木葉はを行よゝ〳〵にのこる久まなき庭の月かけ

秋いなほ木の下のけをくらかりき月は冬てろみるへのりけれ

ふすま

○衾

冬の夜具にて寒さをしのく心又このさねきてを寒きよしなとよめり

あさふすま○ねやさむみ○あつぬすま○ふしわひぬ○なかき夜○さえあかす○またち小ふすま○あさて小ふすま○いそとぬすま

○ぬるきふすま○鴛はぬすま○秋のぬすま○をやのぬすま○なこやの衾○かつくふすは○老はよさむ○さゆるしを夜○ねやのふすま○ひとりふすま○ねやの手枕

○重ぬるふすま○ゆふけはふすま○薄ををなひのあつぬすま○引かさねさむさ忘る、○ふすまの下に鐘をきく○よるのよしきのぬすま

堀百　重ね、は寒けのりけり冬のよにひとりぬすまは風をたまらて

未詳　ねやの上に霰たいしるよはなれと妹とぬすまいさえすろありける

○椎柴

去ひしは

きりとりて柴にしたるをいへをと柴にせぬ椎をよめる歌多し

葉かへぬ○のれ葉○ときはの色○たれなき色○雪にをれふす○あらしになひく○冬のをしらぬ○峰の椎柴○椎は眞柴○椎木のえた○しひしそのこへぬいろ○しくれにをいろのかいらぬ

○妻木になしてこりつむ○落葉の底の谷のしたしは

●名所　●小野山山城　●常磐山同

堀百　冬さびをしをはかけとをしねしはのとをさの色はあせすを有のを

去えれり、吹山風よしねしはの枝はなひけと色はかはらす

たき、　かまき

○薪

薪をきりとりをるたくさは又懲をとによせてをよめり

ましたこのる○折をふる○をりたく○つま木○こりつむ○たき、こる○雪をりはら

む○柴折々○爪木になほむ

○をれ、かまとゝとりくへて○雪よりさきゝこりつむ

●名所　●をの山山城　しは柴　柴つみ草　つま木　●こしの山越後　柴草

たてをく竹　たかね　檜原　里

堀百　賤ゝをかこりつむたきゝ我らくとたれゆへをゆる思ひなるらん

○千鳥

夕ちとり　河ちとり　濱ちとり　さよちとり

島ちとり

海邊にむる、鳥をり河邊にをよめりあはれ深き聲又千代ときこゆるにつけて祝

にをよめり

ゐるちとり○すむ千鳥○たちゐなく○うらめをり○岩ちとり○ひとあさり○ゆく

ちとり○むらちとり○そろこゐ○いそちとり○しはなく

○やちよな之○ちとり鳴○よひかはす○おのかとち○行かへり○きく人○うきた

ま○友まとふ○みきわの千鳥○聲ゝさやけさ○いはまかくれ○有明乃聲

心行のへりなく○打ゝひて鳴○むをたる千鳥○川島らくを○夕のたゝけて○りは

とふちとり○をちのへりなく○千鳥とゝたる○立はなれ行○たちゐひまなき○遠

さのる聲○たちゐさためす○うらつたひ行

○汐干の千鳥○空よりかよゝ○やちよとそ鳴○友なしちとり○ちとりなみよる○

友よぬちとり○わたるちとり○あしまつたひ○はゝひの霜○聲さたまらぬ○霜ふ

かきよ○夕波千鳥○ちとりなく夜○千鳥たち行○うき波風○遠近の聲さたまらぬ

○夕さらすあそふ○聲うらぬれてをを○浦より外れ友

○波に聲うちそふる○鹽ゝては方もさためす○たゐうちしほり鳴○妻やとふ友や

したふ○あのつきふかくなく○小島の月になく○明かたになるとの千鳥○かよゝ

夢路の友ちとり○き、すてかたきね○夢の枕ゝ聲さわく○濱松のねにあらはをて

鳴○たちくる波にむれて鳴なり

●名所　●須磨播津　●すみよし同　●なにはかた同　●風早ノ浦ノ河

●天の橋立丹後　●淀川山城　●宇治川同　●あすか川大和

●ゆき、の岡同　かつらき山

新後拾　沖つなみ立ものへらてしほ風の吹しくかさになくちとりかな

拾　思ひかね妹かり行い冬のよろ川風さむみちとりなゝなり

○水鳥

みつとり

冬の水邊にねるをしかもをよめり身はうきことなどにのけてもいへり

うゐどり○一つゐひ○すた之○おもひ羽○なくこゑも○たにかも○あさりする○うきゝも○す、うも○あちむら○みどさき○ぐ、ひ○かもめ○あしかも○みふるひ

○うをかも○をしかも○ひとりね○むれておりねる

○羽かひれ霜○下やすからぬ○氷のむらどり○早瀬よなる、○をしのつゐひ○たまあらそひ○ともねゐ鴛○氷のねや○うきねの鴛○をしの毛衣○をしのふすま○たら、の枕○かり之岩間○つら〳〵れ床○たかはぬをし○をしゐどもの○をしの一こゑ○妻なきをし○さよのうきね

○羽風も氷る○鴨れ青羽○さわく入江○ゐつく上毛○うきねのかも○しきれむら

とり○かもの毛衣○あちれむらどり○よほろかよひち○をきのうきかも○水のう

きどり○ゐもの水かき○すかのむらどり○をしれつゝさ

○さむ紀あし間○うきはをせはみ○ともねのをし○おのか羽風○世をうきどり○

をしのひとりね○空にゐかる、○をこのもろこゑ○水の村鳥○うきねの床○をし

のちきり○あそふをしかも○友もあまた○もみちにましる○あしかもろこゑ

○かもろ鳴なる○つはさの月○をしの思ひ○氷れる池○みきわをさわく○みきわ

を遠み○をしの一むら○よるへたつねて○波をいろとる○池のよとこ○よとこね

わふる○すたくを志ゐも○水鳥のあしのいとなき○水鳥の玉もの床○月をつはさ

注結といふ○あしかもの青羽○うかひであそふ

○をしゐものとかひ○水鳥のうきたるゆか○青羽なるかも注はかむ○ならひすむ

池注をしとり○をしとりのならひれ池○こほれる池の水鳥

○池水をつゝさにかゝる○水鳥の床の出河○たかひえぬうき世○つかはぬをしの

思ひ○日影さすみきは○岩根ゆきとりめをりゆき○波のあやも錦と見えて○池水

のこほらぬゐたゐすた之○こほる池乃波にかさねぬ毛衣

●名所　○比良のみなと近江　○志賀ノ浦同　○大井川山城　○吉野川大和　○昆陽ノ池摂津　○三島江同　○住の江同　○すはゐ海信濃

新拾　あたかもれはろふつゝさに波こえて上毛乃霜やみほこほるらん

家集　池の面にうゐむあろふ水鳥の中よかもめの眠るしつけさ

○殘雁

冬のゐん

秋におくれて冬きたをる雁をいふなり

おくれてし○たのも○ゐり田○冬田○お之れけん○雪にまよふ○秋にをくれし○

雪れ初雁○雪の山もと○冬田にのこる○冬田に落る

○冬田れ草○冬かけてをる○秋にれをる、雁○雪をゆるゐり○村す、き殘る冬田

にゐる

續撰吟　雪とろふつとさやさむき打むれて落るかり田の明ゐたのそら

家集　故都に誰ゑはしとゝとゝめけん秋より後ろ雁の一折

○網代

あしろ　ゐ〻ろ木

氷魚をとりて貢とせしことありそをよめり

あしろ人○あゑろ守○あしろうた○ひをのほる○むをよる○ひをへて○ひをそら
す○とこさむみ○氷魚まつ○はやきせ○川かせ○さゆる夜○もるそて○瀬々のあ
しろ○あしろのゆか

○霜夜やわぬる○いさよふなみ○瀬ゑきのひを○よるけあしろ木○あしろにやと
る○そてさむからし○うちもねぬよ○明るひをまた○ひをもなみよる○こほりけ
ゆゑ○あしろにこほる○あしろ尋ぬる

○波風のさゆる河瀬○もみちよるあしろ○あしろになる、もろ人○あしろを過る
風○紅葉ときませよるむを○世をわたるならひ○いをよゝの同しあしろも○さゆる
よも身ゝならむしの○川風もふけゆく波○河波のよるころみつれ○日をへてきゆ
る川風○網代木の布（ゐしろれてくちに布をふゝろ結こゝとくしたるをいふ）
○すむ月にひをのよろせをまろふ○か、りひゑあしろのほゝをしる

●名所　◎宇治川山城　◎禎の島同　◎近江海近江　◎田上川同
◎石良か瀬同　◎吉野川大和

拾　月ろけのたな上川に清けれはあしろにむをのよるもみえけり

後拾　あしろ木によしきこきませよるむをは錦を洗ふこゝちこそすれ

○霰

あられ　玉あられ

風あらを音さわろゑをふるけしき又ねやのむさしに音たて、夢おとらすおと
よめり

よこきる○たはしる○玉をしく○散來る○降くる○こきちらし○風のうへ○あら
れふり○また、く○たゆむ間○ゆりためて○ふるゐられ○いたむさし○まきのや
○いたま○ならのかれた○ををのたえま○くも一むら
○山をよむまて○風にたくひて○あられれちくる○板屋のゐられ○心をたゝる○
玉をみたる、○ゆめにをとろかす○よこきるあられ○あられまとうり○雲間の日
のけ○さ、やれあられ○庭乃苔路
○落葉のうへ○こほりのうへ○月にみかける○あられにさやを○杉のいたや○風
のあられ○ゆめもゝたるゝ○くた久あられ○あられこはる、○あられにくもる○
ちるやあられ○賤ゝさ、や○ふるおとさむみ○あらをみたれて
○おともあられ○さ、やのあられ○ゆるさぬゆめ○ゐられの玉○あられふりきぬ
○あらしにこほる○閨もるあられ○雪吹ませてぬる○ぬきとめぬ玉
○しひしはれたれはにつたふ○あられにさわゝ村鳥○風ませに一むら落る○霰音
するはまひさし○わらやの軒にふる○うのしましきあられ

○夢をのこさぬ風の音○村鳥の羽音もさえでふる○あられさ、めをさ、のやれ上
○ゑたくあらをにもめもたまらす　　晉

●名所　◎有馬山摂津　あなのさ小原　◎住吉のあられ松原同　津守のうら
◎野路の篠原近江　◎かしまか崎常陸

新拾　あらしふをみやまれ庵はさ、のはのさやくをきけとなられ降なり
雪玉　さえ〳〵て散やあられの玉はやすむとの浦風波にしくめり
　　ころれ

○霙

雨のゆきにましりてふるをいふ
みそれふる○降ましる○しほを○色消る○時雨にましる○庭にたまらぬ○みろる
、空○みそれよこきる○東にそしる○ふりもたまらぬ○雪ふるさとのしとの庵○
みろれに殘すこかり野
新續古　風さむみけふもころれのふるをとゝ吉の、山の雪けなりけり
御集　山風やをる、まに〳〵寒からしみそれに雪の色ろ〳〵ひ行

○雪

ゆき　みゆき

こゆきといふもたゝゆきにてみはみ山みねこちなとのこに同し
はつみゆき○雪の淵○とよの雪○ふりそ積る○まちし間○ふるほと○けぬの上ま

○ふりつもる○ふりゝ、る○ふりにける○つもりぬる○ぬみはくる○日數ぬる○
つもりけり○晴やらぬ○はもれ猶○ふるかうちと○ふりりみし○のしきはく
（北國よあり）　○ろりよのる　（同）　○あまきる雪○雪とふりつ、○雪散しき
て○木の花○雪の下みち○雪乃朝明○よとの雪○雪のよの月○雪の朝風
○雪の夕風○木毎のはな○しらの雪○雪の白波○雪の白ゆふ○いやしきふれる
○雪のとほ山○雪の山道○友まつ雪○雪のこかくれ
○ゆきのまくら○雪暮の空○まきの雪折○杉の下折○すきの雪さけ○松の下折○
竹の下折○雪のかよひち○雪は深久つ○雪はかりいほ○ゆきのひかり○雪はて、
ろ○かのてまたち○しるしは棹
○くつれをはるゆき○雪の埋れ木○あはきらしふる○ゆきのとをを○今朝のしら
雪○雪のはなそは○ゆふへをろこす○下をりの聲○風のま、なる○雪よりしらむ
○雪にしはけき○雪に晴たく○つもるま、なる○雪の下いほ
○笠をもけなる○匂ふぬ花○庭に跡こぬ○さもとにろ、る○雪は山さと○むかし
はあと○雪のあをちふ○雪にかたふく○雪にこたのき○埋むも高し○つもりさた
めぬ○ふみ分しあと○雪ふみ分る○はらはぬ雪○花にまかせて
○雪の梢○雪より出る○雪の花さえ○雪をいた、く○ゆきに淋しき○野原の雪○
跡おしまきぬ○山路あとなき○ゆきにまちかき○雪の日をぬる○つもりて高き○

うつみもてたる○雪にのこれる○うりみもはてぬ○いつふりそめし○とはれぬに
ハ○はゝとの白雪○千里はれたる
○雪ゝよそめ○ゆきろしつく○ゆきにてもれる○雪につゝめる○雪のさと人○雪
にあとゝく○ゆきのまに〳〵○かへるさうつむ○雪のなかなる○とゝまつ雪○ゆ
きをとへかし○けさめつらしき○はたむる雪(東胤か故事)
○まよはぬ駒(常陸か故事)○雪のさ、波○いはほにも花さく○雪をめくらす袖○
雪をれろしひしと○きのふのゆきのけしき○ぬる雪のゝのし衣○すかれねしれ
き降雪○まきの葉しのきりもる
○竹のはゝけにふる雪○ゆきふきかへす風○先たゝ駒れあと○ふりにけるあと○
降おもる軒はの松○池水れてほりにつゝく○雪の日ハ猶冬こもる○松のすゝたに
つもる○白雪のぬるさとひと○雪より上につもる○ねやろ戸を明てをとろく○松
のはのみとりもわかぬ○ときは山名も埋もれてふる雪
◎名所　◎越のしらね加賀　◎富士のね駿河　◎都の富士近江　◎比良山同
◎逢坂山同　◎よしろ山大和　◎天れかく山同　◎かへる山越前
◎矢田野同　◎末の松山陸奥　◎白川れ關同　◎甲斐のしらね甲斐
◎むさし野武藏　◎のた野河内
玉葉　ふゝ分しきれぬれ庭れ跡もなく又降かゝす今朝の白雪

後　霜かれの枝とゝまひそ白雪のきえぬのきりは花とこそゝれ

初雪　はつ雪

ふりそむる○待しまに○朝戸出○梢にかろき○降もつゝそらぬ○霜かとまかふ○里
ハしくれて○ゆき、はゝとはす○そつゆきれ空○つもりもやらぬ○都にしらぬ○け
さまたうすき○けさめにらしく
○またふみゝけぬ○にはゝおとろゝ○冬れはつ雪○友をもまたぬ○ふりもたまら
て○淺のりけりな○松をめつらし○はらハてもみん○初雪白し○ふりろむるより
○けゝの初雪○庭のはつゆき○ふりろめてまたひとへなる○冬ろれれ草木にか、
る○竹のはもなひかぬとのり
○けふそまこゝとのはた雪　○庭の落葉ろ雪に色ある
新續古　白妙のまさこの上に降ろめて思ひしよりもつもる雪哉
千　よな〳〵のたひねのとこに風さえて初ゆきふれりさやの中山

深雪　ふかゆき

ゆきにとつる○雪のには○けぬか上ゝ○けふいくか○つもりけり○はもりそふ○
日數ふる○はれやらぬ○かきねも埋む○絶て人てぬ○まきのはしぬき
○つもる日數○山とゝいくへ○軒より高き○とはれぬにハ○雪の深き○今ハいくへ

の○ふりしく○日數もいくの○ふりつむゆき○つもるも深き○松たこほる、○山つゞるへき○ふかきを思へ○峰たゝきふりつむ○けぬか上にいくへたもれる○山のは高をたもる

○降つみて山しつかなる○しをりそゆきに埋そる、○下おりの聲にもしるし○岸の呉竹末ふして○ゆきより出る朝日らけ○消やらぬ日數○月かとまとふ峯の白ゆき

家集　我も待人をもとはん道うなき雪のあしたのをの、山里

大和御會　つもりけり一むら竹のよれほとに軒はのゆきや山つくるまて

山雪

雪のよそめ○みねは白たえ○松見えうむる○ゆきにまちかき○みさりし峯○ゆきの山のは○山のむ白き○たかねのゆき○八重山○山のはにふりつむ○山ふかくつもをる○山のはとは久つもる○をちのたのね

千首　おのつからしろれしまてろときは山名も埋もれてふれるゆき哉

御集　山のはに降たむゆきもふのきよのやみゝあやなき色にさへた、

森雪

枝をもる○杜の梢○もりのしらゆき○千枝降うつむ○ゆきにしつけき○下草もさすのに枯て○森の木葉

亀山　ふるゆきのこのさゝる色も白妙ゝうてとやみえむ衣手の杜

野雪

道さとる○野へのゆき○ふみ分し○ゆきの下をさ○雪のくまなき○野中の庵○道たにをかす○ゆきにはるけき○ひとつに白き○ゆゝもはてなき○ゆきはらふ袖さむうらし○ゆきゝと色の明ぼの

勅　眞柴かるを沙ゝ細道あとたえて深くもゆきの成にけるかな

千首　つもれ猶色なき草乃冬かれに待でし野へはけさの白ゆき

行路雪

のゝるこま○あたまち○道は○ふみ分し○ゆきのよひち○ゆきのふる道○道ひとすち○跡たけかたき○あとみえぬまて○そりのはやを○うつみもはてす○きはふのみち○さかさと、ひて

○しけきゆき、○玉はこの道○たえてひをふる○旅人沙ゝさたた道○ゆきふみ分る道○行人はあとより埋む○降ゆきはす、まぬ駒○笠のうは、にふるゆき○我より先に跡つくる○あとをもをしまぬ

○もとゝし駒もたどるまて○とめゆく末沙道もつゝらす

千載　駒のあとにうつ降ゆきにうつもれてをゝる、人や道まとふらん
家集　誰をしむゆきならなくに此朝けあとつけかたき野へ行かよひち

關雪

こえゝひぬ○駒形つむ○ゆるす道なき○道わけかたき○音せぬ駒○す、まぬ駒○
逢坂や○ふりつむゆきの關守○山路わとゐさ
慶長千　あらしふくたもとをさむゝ逢坂のゆきふむ道や駒なつむらん

河雪

水行うへ○たまらぬゆき○降いつもらて○淵瀬もみえず○ゝとゐるたもとにぬるゆ
き○ゝたをあしも埋もれはて、○しらゆきのふる川水
元祿千　よしゝ川くゝすいかたに降雪い散ふ花行はるゝおもかけ

湖雪

雪のさ、なみ○雪の花ちる（志賀）○雪の花それ（同）○雪はゆたあさりま舟○一
木のまつのもき○ゝきはのゆきのしら波
衣手に余吾の浦風さえ〳〵てたかみ山にゆきふりゝけり
家集　けふいくかひらの高ねも埋むらん海ふく風のゆきになるまて

海邊雪

ゝたつうゝ○むかたゝ松○濱の遠かた○磯ゝしらゆき○もきのあけほの○つもら
ぬ波○うち、るゆき○ゆきくれゝ空○波より白き○沖つしま山○ゆきにはれたる
○磯山まつ○ゆきろしらゝ○ゆきゝなり行浦風○海のおもてゝかきくもる○八
十島とほく降つもる○よるへをまとぬ釣舟
○汐くむ道もうゝもる、○なみまよりみゆる小島○波もむとつにぬる○すさきの
波の色○波路行ゆきのさへま○雪をゝする浦舟○ふみわけてたゞもかれなん○雪
をみろむる浦の遠山
玉葉　鹽風にたちくる波とゝるほとゝゆきを敷津ゝ浦のまさこち
うつもれぬけぬりを宿行しるへにてもきにしはやむさとのあま人

島雪

雪なれや○雪行島もり○ひとむらしろき○もきさへなみにうきしま
信太森　住よしの松のむまにもしら雪のゝもるとみもる淡路しま山
慶長千　しらなゝもこすゝとはかり浮島や降くる雪をそろぬうら風

都雪

みやこ行ふし○けさは都の○都の大路○はる、しふもき○ふる雪の花行都○白雪
ゝ花より明て

千首　もたかなる年をゝ空にしらもき法都もふこのくつもりけるこのな
都たにもきふりぬれいしからきのまきれ柚山あとたえぬらん

庭雪

すへて軒垣砌なとゐれは庭となくてもよろしといへり
ふむあと○あとつけぬ○とぬ人○庭のしら雪○つもりしま、の○跡りけかたき○
滿ゆきの庭○跡いとはる、○跡をしましの庭の初雪○ふかさ淺さ○下をりれこゑ
○もきのしつけさ○とふ人の跡なき友○うつもれぬ心の松○ぬる雪の木ことの花
新古　尋ねきて道わけわぬる人もあらしいくへもつもれにはの白雪
家集　山のゝのよそめもふりて軒の松かきほの竹法けされ初もき

松雪

ふりおもる○枝おもみ○雪れ松○まつも花さく○はらはぬも紀○松のしらもき○
雪にみたのき○松をもうつむ○松のはのゝとりもわかぬ○松れすかたにつもる○
松のはゑのき○ちとせもつもれ○ゆつにとのみもつもる
千首　かねてより風れ宿り乃松ならいさのみにもきそつもらさらまし
仝　おきかへる枝より落て松かけは中ゝふかをつもるもきかな

竹雪

をれふして○なひきふす○よふのきもき○もも紀おれれこゑ○もも紀のくれ竹○つも
るさえた○もも紀をゝとりの○もも紀ふりうゑむ○よなの紀もも紀になひく○もも紀をす
かたになひく○下れれの竹
續撰　うつもれぬさ紀にそなひく山風の雪をふ紀しをろの、くれたけ
元祿千　よのほとにつもるも深久見えて今朝もも紀にをれふすまとの呉竹

杉雪

もも紀にこたか紀○つもるもしる紀○杉の木末○うつむも高し○もも紀のしらゆふ○
ゆ紀乃す紀むら○それとはしるし○ゆ紀にかをきぬ○ゆ紀れむら立○そきとゑる
しの○花とやみわの○みねのす紀村○杉の下道
○ゝとりもみへぬ○雪のなかにも○かけとめゆけは○ぬたもとれ杉○雪をよそな
る○今朝ふるゆきに堀きて○神杉にけさかけそふる白ゆふ
家集　冬さをはゝゑの杉村神さひて梢にかゝる雪れ白ゆふ
　　わふさゝや降つむ雪乃夕くをに猶道のこすすきの下のけ

檜雪

雪にをる○枝なひを○みとりなる○花かつらせり○花さきつゝく○はつせ乃檜原
○かさしにをれる○檜原のふへ○檜原にさむき○みは法ふは○ひはふか末○雪

の花のつち○雪をや花とみるの山

千首　雪はまたつもりさためぬほとなをやみねのひとらにふゝく山風

雪朝望

よもの山○をちかた○ひかりある○外山○たのね○此あさけ○雪の色○ろことなく○色そへて○今朝みれと○朝戸明て○山ちかゝ○野も山も○うつもをて○をさゝ原○降しきて○けさ晴て○降はる、○山晴て○波乃上

○朝ほらけ○さやけしあ○月まちらき○さやかにみする○雪まちかき○こゑねのろけと去○ちさとゝをたる○埋みてたる○雪のさやけさ○光まかはぬ○峰白たえに○遠のたの山○ふりつむ○朝日さやかに○雪にはをたる○ほそきけふり○よもの山のは○里の遠ゝた○雪まわのれぬ

○雪ふりたゝて○よもの遠山○外の色なき○雪の遠山○遠の山もと○雪よりしらむ○日影にみかく

續撰　月にみしおもかけよりも朝ほらけちさとくはなき雪れ山乃は

仝　けさのあさけ見馴ぬ鶴ゝ白妙れ雪まなるみれ沖のとまふね

○鷹狩

たかゝり

山野なとにて鷹をあとせて鳥をとるなり春秋もあれと冬を專とす

とたち○さかへる○鳥かけ○あさたか○いぬかひ○さか人○とまり山○ゑのたゝ○みかり人○ゑたか、ひ○みかり野○かりころも○鳴き、す○のりくらす○す、れおと○はしたゝ○夕のり○同し野○のりくれて○駒なへて

○とのりする○のへるさ○かさなかれ(風にふきたて、鳥をとらぬなり)

○いくより(一より二よりと云々)　○たなさき(左の羽なり)　○とさけひ(鳥をおひさはるなり)　○羽むそ(鳥の羽つかひてとほく飛立心の)　○ろり杖(ろの人々のさけにきるなり)　○ろひなとひ(鳥恐れて尾をたれ水鷄のことくひれとふをいふ)

○あさるき、す○やかた尾れさゝ○かへるのり人○尾ふされ鈴○しるしのす、○てなれの鷹○空とふさか○夕狩小野○落をるさの○てゐまゝ、る○いせをれさの○つかをれ鷹○遠見たつる○わさるかり人○ゆきをいとゝぬ○野そをれさか(ろをて野に久しくゐるをり)　とりかふたか○ゑより法つはさ　(右の羽なり)

○引てすたか(行過す心なり)　○野へのたの人○ぬすさた鳥　(人にしらせすぬすみさつなり)　○見すゑの鷹(さゝるの鳥を見すゑさるなり)　○しらふろたか○ましらふれさの

○たかのゆきとり(行さまに鳥をとるなり)

○しのふのさゝ○いらこのたの　(志摩のいらこよりいつるたかなり)

かへるさくる、○くる、このりは○ゆきのみかりは○かへさの野へ○れ、すろあと

○ゆきの下柴○しゝの下道○ゆきの古道○末野のましと○鳥立もみえぬ○野風や

よ風○草とるす○をれこの羽風○山迄ゆこのぬ○鳥のつかき○今ひとさとり○とこちも
とめて○日も落くさ○わくるかり人○尾上こすさこの○山このたつきてさつ鳥○むし
たかのとかへる山○山風よあけられて行○ひりきのみかり○（禁中へ毎日奉るな
り）○はたたかのさぬるひ（身ふるひするなり）○あらさかの山心（手なをね
は山にかへるへく思ふなり）　ふる犬のまけくひ（古犬は鷹を見しりてくまず）
い狩場の小野のあらしは（猶柴なり）
○はしたかのさころもの毛（尾の下にさころもれ毛といふ有由）
○村鳥のかとろく鈴　○空とりてをちくるたり（鳥を空にてとるなり）
○鈴の音はよそわもしるを　○木のもとにやとりとるまて　○はしたの
れしるしのす、　○はしさこの木居の下草○身をかくす鳥○しむの下道かる聲
○とたちもミへぬかへるさ○友よひたて、かへらま○おのか羽風もゆきはらぬ○
ゆきにかくをぬ落葉○てねとる鷹もやすからぬ○けぬも又かりや殘さん

●名所　○宇陀野大和　○片岡山同　○ならしれ岡同
○飛火野同　○交野河内　○水茎の岡近江　○淺野淡路
後拾　萩原も霜ふきよけりみらり野ゝあさるき、すれこの之をなきまて
新古　御狩野てかつふるゆきに埋もれてとさちを見えす草のくれつ、
千　夕まくを山かたつきて立とりの羽音にたかをあはせつるかな

○炭竈　みすかま

山のかたそゝ又峰にても土のまをつくりかまへて炭をやくなり其煙をよめり
すみやき○すみ木○けぬりたつ○たきそへて○こりたむ爪木○たま木てりくへ○
炭れ小車○すみやき衣○まきのすミかま○松のすみかま○すみやく翁○横山すみ
○木間よけふる○ゆきよりけふる○ゆきに色ろふ
○なひくけふり○けふりそかすむ○ろすむすみろま○けふりの末○爪木にえせぬ
○うすきけふり○すみやく比○烟ろむせふ○けふはなやきろ○烟にしるし○山よ
りおく○すミやく里○松よりおく○ゆき待えさる○けぬりにをもる○賤ろすさひ
○すみかまの山○ほそきけふり○もきにとちたる○けふりそしるへ
○炭かまのもゆる○炭のまれ薄煙○煙○けぬり吹しくあらし○年れ寒さにあらはれぬ
○すみかまの遠山けふり○すミやく山の夕けふり○炭竈れあたりの空○ますらを
のすみやを○をろ、山さとにきはふ○炭やきろ入ぬる山○すみかまの里のけふり
○すみかまにかよふゆき、のあと
○すみやきの里ゑ出へき日○炭やきの市に出たるみち○にきへる世にすみろま
の烟

●名所　○小野山城　山さる　○をしほ山同　大原や　○まきれ雄山同
槙の外山　宇治川　○つくは山常陸

新拾　ゆきゝ猶うつみもいてぬすみかまのけふり吹しくをの、山風
御集　けふりこそ先あらそるれ年さむき松より奥は峰はすさかま

○埋火

うつみ火　爐火も同し

寒さをふせきて火をたき又埋火のもとに夜とち物かたりするよしをとよめり
かきをこす○むつましき○むつかたり○冬こもる○まつ春○ほたれ火○さむしろ
○ふくるよ○更ぬるか○ゆきもよ○閨の中○下にてかる、○すゝさしろへて○ま
との埋火○灰の手すさひ○ほたのうつゝひ○消ぬひかり○冬のまとね○しらぬ霜
夜○光もうすき○あらしもしらぬ
○らたらひふらす○殘りすくなゝ○久ぬさのかをは○さむさわする、○たゝまく
をしき○さゆるもしらす○よさむわそる、○ふゝるもしらぬ○さえとはる夜○ね
ちをぬよは○さなゝら春の○ねやのうつゝ火○炭さしろふ
○さなから春の○うつみ火の灰○吹れてすゝのせ○うはみ火のあたり○さよぬけて
灰かちになる○埋火のしも○ぬせこの下れ埋火○紅葉はの色よてかる、○をりた
くしゝ乃埋火○くる春の光をみする
○灰乃下なるうりみゝ○まとねしてむつかたりする○埋火の下の心○さきすさひ
たるほたの火○雪をもて、よ埋火○埋火さむく更る○埋火れいきてかひなき（消
ぬ火はあるぬり述懐によむ）

後拾遺　うりみ火のあたりゝ春乃こ、ちして散そるゆきを花とこそみを
風　いかにせむ灰の下なる埋火のうつもれてのみ消ぬへき身を
慶長千　まきの戸のうちは寒さもしらゆきにうつみひのゝを頼むよな〳〵

○神樂

かくら　かみあろひ　みかくら　里かくら

十二月は末内侍所にて行なる、御神樂なり神樂は神代より傳ゝりて常あるわさ
なり十二月と定められしと一條院の御時よりはしまれりとそ内裡ならぬ社頭に
あるを里神樂といへり
御火白し○からかみ○ろのこま○さ、なみ○をゝころも○笛のね○ゝてをら○神
代より○かなつる袖○かなつるきぬ○わりまれしらへ○うたふさろきて○さのき
はうたぬ○朝倉乃聲○朝くらうたふ
○まさきのかつら○まゆゝつき弓○本末うたふ○もと末の聲○山あゐのろて○い
とゝけれね○さ、なみの聲○庭火は烟○朝くらかへす○うたぬかくら○しらゆふ
らけて○神のいさめ○雲ゐにすめる○あらほしの聲○はるうたふてゐ
○をりかへす聲○霜夜は月○聲もかをせす○神代おほゆる○うたぬからかゝ○か
をられよは○神の心をとる○やまとことのね○聲たのくうゝぬ○庭火の前の笛は
○さの記とる八十氏○明るよの名殘をしと○霜にしらくるよは○あけし岩戸の神
わさ○此さ、をうたふ霜夜

○天の岩戸の明のた○すみよしの里ゝをら○宮つこの聲かをたる○をと末の朝く
らうたふ○笛竹乃よぬの紀ゝを志○でもまくらうたふ○しらゆぬをかたにとりかけ
○笛乃ねもぬくるよしるく
○もりけしめ繩くりかへしうたふ○庭火のかけになひをゆふして
續後撰　さの紀とるやそうち人の袖の上ゝ神代をかけて殘る月のけ
金　榊葉の立まふそてのおひ風ゝなひかぬ神はならしをそ思ふ

○歳暮

としのくを　ゝる、とし　ゆくとし

十二月の日數をのこりすくなをなりたるをいふ年並を波にゝけて流水行なとよめり又いたつらゝ暮行年をなけ紀なとさはゝ〳〵あるへし
としなゝ○としゝゝる○くをはつる○とし○とに○けふ○とに○くをぬとて○おこたり○年もはや○と、めあへす○なかを紀て○かとまつ○かとれ松○よるとし
○今はとて○をゝ、ましな○ことしけ紀○れてりなし紀
○なやゝふ○岡見する○さらぬする○年木はむ○老のろこ○三冬つ紀○まてしは
し○くれぬとて○いたつらに○老のさか○老のかつそふ○ちかはゝとし○身にろ
ふと志○行とし○の矢○年もいぬめり
○わのと志なみ○老のよはひ○をしみなをても○ゆ紀ては紀ぬる○をしむならひ
○とし○のゝこり○しひて○れ行○ことしをゝしむ○身におとろく○いろかぬとし
○ことしもををぬ○松火ふりたて○しはしとまらぬ○松歩る賤○身のほと〳〵
○と志の日數○一年のすをるゝ夢○あら玉のとしの終り○なこのをてよ歩月日○ゝ
な人のいろゝ○身につもる年○むへも○とし○といはれけり○小車のめくる月日
○おこたりをくゆる○こんねんのいとゝ○みゝ○年ゝ今いなはの山
○ほとな歩年の日數○ゐをとしのみち○またふるとしゝ乃内○とし○の末ゝ紀まり○年
木つむ○門松をいとなゝたて、○年波のよとまぬ水○春秋をゝたに送りし○いと
まあるゝいとまな歩身を　○なほさりにす歩し月日○里人のいとなゝたえ
ぬ○ゝれ行年を、しほ山○かなたこなゝよいそく○くを行とし○の通路○おくりむ
かふろいとなみ○行とし○のけふのゝこのれ○ゝこのうへもかわらぬ
○ゝれはこそあやなゝ
○ゆつり葉やゝたとりろへて行賤○あゝゝ過める年ゝゝれ

金　いかにせん暮行年をしるへにて身を尋つ、老い歩にけり
千　をしめともはゝゝ暮て行とし○の忍ふ昔ゝにかへらましかい
風雅　をしみてし花や紅葉の名殘さへさらにおほゆる年のくれ哉

除夜

玉葉　過ぬれは我身ゝ老となるものを何ゆへあすの春を待ふん
貞享御會　名殘おもふ年はひとよに暮にけりいかに惜ゝていかに待らん

除夜　としれはて　としの夜

十二月三十一日をいぬ又かならす夜といいてもよめる歌多し

こよひはかり○けふはかり○夜すがら守る○まもる夜○こよひにか歩る○殘るひとよ○こよひは歩ぬ○呉竹の一よいこのり○としあけゝ○それぬとて○殘るも年の一よ川○やとことになやらふ○行としををしゝあかす

金　何事をまつとゝなしに明えれてことしもけふに成ゴけるかな

堀百　はゝのゑしや我世ものこりすくな歩に何とて年の暮をいろくそ

千　一年ゝはかな歩夢のて、ちしてそれぬるけふそ驚られぬる

和歌麓の栞卷之上終

和歌麓の栞下卷

戀部

岡　猶翁撰述

○戀　こひ

戀は男女相慕ふ情を述るものゴて萬葉に相聞歌とあるは互にきこえあふの義にして戀の歌なりうらなくあはれと思ぬ眞心の打出らるゝ戀歌ゴ去をものなしゐを昔しより貴きも卑さもこひ歌をむねとよめりしもさることにはあなれとゐまり色好みのやふになり行てまめなる所には出しゐた之又をさなきわらはには さとしかたきて、ちせらるゝのゝならす今はた萬れ國の交はりも開けきて互に正し紀教へをきろへる世ともなりにたれはさのみこひ歌ゴなつむへくもあらすなむさをと古くよりよゝ傳へしてとなれは今さらにやめはつへをもわらねは聊て、にあけつ

戀の闘○妹のり○いもこふ○こひくさ○人めもる○色見へぬ○あなこむし○むせこと○そてのなゝ○おきわかを○ひとりね○こひやする○こひたま○かくれつまゐしのひりま○とをし妻(逢ことのともしさなり)○ひとつま(他れ人の妻なり)

○わすれ草○そらたれめ○ふゝつかひ○戀しなん○戀ゐふる○おもふこと○うきちきり○しるや人○こひぬ日はなし○あふよしをなみ○こひのみたれ○人しるらめや○枕なかる、○戀ゐしけきに○消て物思ふ○うきたるまくら○こひのこゝろ○見まくほしき○あはてこしよ○下ゆふひも○人めつゝゝ○こゝろの秋○のりろめふし○朝ゆく君○君とねぬよ○こゝろの色○またゝぬこひ○なをぬこひ路○ろてのしくれ○のを玉つさ○心のおく○ろこのこゝろ○こゝろくらへ○むせふ思ひ○袖のしからみ○よとむゐふせ○かへる玉つさ○こひれやまひ○人めのひま○露のちきり○たのめしくれ○ならぬこひする○くものふるまひ○あたし契り○待よはる身○夢れ契り○まとふ夢路○ゆめのかよひち○夢の面形○もめの別路○いさつらふし○袖ひきとむる○かへるさの空○ひかぬるそて○人れたまくら○こぬよあまた○むねれけふり○あたしうきな○ろての下水○なみたの淵○思ひれたき、

○中のとし月○をたちぬ中○心のしるへ○けふりくらへ○よそのとし月○むなしき床○あれにし床○なみたの床○人なきとこ○ねみたれかみ○こむのやつこ○さよの面影○駒れつまた、○まくらぬれ行○袖ろうつりの○こひをすれ草○思ふてふこと○ゆめのそむね○妹こひしら○よ、のこのねこと○ねもみぬ人○こひゐけふり○こむしきかけ○こりぬ思ひ○ろての瀧つせ○ひくてあまた○うつくし妹○と

まるまくら（人の跡よとまる枕なり）○あらはあふよ（命あらはなり）○かろきうきな（かろ〳〵しき好色の名なり）○霧たちひと（さつる心なり）○井手れ下帶（大和れ井手のわたりに）○中空にものおもぬ○よるの衣をかへす○いひしらぬ思む○手枕のしつゝ○入ろむるこひち○せきゐへぬそて○空よみたをもひ○ほにいてぬこひ○枕の下のうみ○むすほゝれたる心○むねゐけぬり○いたしかぬる、たもと○ふみろむるこひ路○心ひとつになけく

○年をふるなみた○手枕にむすぬそて○同し世のたのみ○ゐしたゐ床のをもかけ○かわるゐらひの世○なみたの色の紅○身よあまる思ひ○よな〳〵かよふゆめ○涙にやとる月○思ひやる心つゝひ○身をさらぬをもかけ○枕のちりはらふ○色よ染るこゝろ○心かはりの行末○ちかひてし命○枕をつたぬなゝさ○思はぬ人をおもふ○人をみぬめゐ涙いゐろひあひてぬる○あしゐる、たま○あやめもしらぬこむ

○ふきもせすねもせぬ○またきなき名のたつ○をかゝよひちれ關守○あまのすむ里のしるへ○雲もなくなきたる朝○くやゝ〳〵と待夕くれ○わすれ草種とふましを○しりたに思ひ亂る、○時ろともなくこむる○くれを待間の大空○後も逢んとなゝさむる○人に心をおきつ波

◎はは花染れこむ衣◎つてにのよひし言のは○こひしなぬ身れつれなさ○はねを

ならふる契り○見ても又みまくほしき○いける日のたちさ○さよ衣中のへたて○
久る、よことの思ひね○かはしそめつる手枕○ありはりましら契り○かさねし床
けうたりか○なれまさるあわれ○身をしる袖の村雨○三日月れ見れて逢みし
○うち出ぬ中の思む○あひ思はてのれにし
○しけき人めのやすらひ○あさはかならぬ契り○ぬたりしてむすひしひも○こす
のひまもるうつりか○しのに亂れて物思ふ
○わきも子かは、てのすかた○みとせの後の新枕○ほれなきは浮よれりね○下む
ものとけ見たる（とくるは人にあふしるしなり）○おもものけに枕ならへて
○のことをとむる人（のこつげことなり）　○わの草のにね手枕（わの草ハ女の
異名なり）○にしき、のちつか（きちのくまて女をこむるしるしを門にたつる故事）

新　いたをきくものとや人は思ふらんこぬ夕くをれ松風の聲
仝　今ろしる思ひ出むと契りしハわすれんとての命なりけり
勅　石見のた波路へさて、行船はよそにこかる、なまのもしほ火
代　人こふる心は空もなきもれをいつをよりふる時雨なるらん
仝　まつ人をさろはぬ月の山はにはにねさくも晴て出にけるかな

○初戀　人をこひしく思ひそむるなり

おもふより○おもむたつ○ふみまよふ○思ひろむる○またしらぬ○ふみそむる

○けふより○さされ初る○けふそしる○見けろむる○こむろめて○ひにそひて○
まつそてぬらす○はつ花ろめ○なをぬこひ路○こひの山くち○しらぬ行末○ろ、
るこ、ろ○末いかならん○波ろけろむる○玉たれのひまをるかけ○こひの山入そ
めしより○袖の露かけそめしより
○つてにのみほの聞初て○浦舟のこかれ初る○はてハちしほにろめん○岩間の波、
のうちつけに○たれにならへる涙○色つきろむるそて○ならはぬこひの道路○誰
ならはしの露○立ろむるむね法けふり○思ひたつこひ路
○まさみぬこひの道○今より乃涙のはて○まよふへきこひちの末
續古　入ろむるこひちは末やとはからんのねてゑるしき我心かな
千首　我なから心のおくもしらぬ哉きのふいあらぬけぬの思ひに

○忍戀　人しれす思ぬ心の切なるをよめり

しられしな○人しれぬ○色見へぬ○もらさしな○しのふ山（陸奥）軒乃しれふ○つ
、むなみた○人しるらめや○しのふ露○下のおもひ○心ゆるさし○おさふるろ
て○入もこそしれ○猶こつ、め○ろてのしからみ○つ、むたもと○中のをもひ
○なみたにもをん○涙をろてにつ、めとも
○人目のすきを思ふ○しのぬ心法をく○せきかねてをちぬるろて○つ、みこし此
年月○みこもり乃玉江のあし○いそて心をくたゑ○かさりなき思ひを色に出さし

と○しのへとも心の色やあらそをん○しのへるそてにあまる露
新千　た、むともしろふにたへぬ涙をておさふるそての色やかはらん
家集　いのにせんしのふもちすり月日へて心ゝ外にみたれろめなむ

○思不言戀　深く思へともさすかいひ出んこと詞り、ましくていはぬなり

いむした、○いとて思ふ○しるやいかに○しのす、き○いつ、し○をちをち(山吹等黄色なり)○おもへとも○おもぬとて○人にしられぬ○いはてみたる、○よるのほたる○しるひともなし○いはしろの松○いはたの小野○あたにちらさし○我あらハさぬ○人やくみしる○うちてぬ思ひ○人ゝ為られぬをもひ○むすほ、れたる心○あらはさぬ深き思む○いかにしてた、に打出ん○いはてもえやゝ山の井
家集　いとせめていはぬ思むのやるかたも涙はろりやろてにゆるさん

○初言戀　心むとつにをもむあまりていむ出たるなり

いむろむる○しらせそむる○もらしろむる○をもむあまり○ほのめのしつるいうち出初る一ことの○しのむあまる心○花す、きほに出初る○うちいつるけふのいらべ○おもむあまりて出ることゝなり
玉葉　今ころハ思ふあまりにしらせつれいはてゝゆへき心なふねは

○顯戀　密通のあらそる、のみならずあらはをて物ふもふさまにもよめり

色に出る○世にもる、○うき名たつ○もれそむる○もれにけん○名取川○もれしうき名○色や見えけん○あらはれ初し○もらすうきな○つ、みだしそての涙○つ、みえぬ涙のろて○いゝ久年月につ、みけん○玉ゝさのいゝ散そめて○涙せゝろてよりもる、○人めにもしらる、ほと○あらはれ初し中○をへて世にそれし名○つ、みてし思むの霧○そてゝ時雨の下染○やみゝよにをたる螢○いかましてしれぬ心のあらはれし
貞享御會　諸共に忍むをてんと契りしをたかをこたりにもれしうき名ろ

○聞戀　人つてにき、てこふるなり

むとつて○つてに聞○きくからに○き、あかす○もれてし○またみぬ人○聞にゆかしき○ろの名はかりに○見ぬおもかけ○きく人つて○折々よそに○音羽の瀧れ音にきく○音にのゝきくろ白露○吹風のをとにきく○つたへきゝことのは○きく人傳をた、ゝらす
新後拾　おもかけをほゝみぬさきに吹風のたよりはかりを何さゝむらん

○見戀　よろなから見て心をつゝすなり

見てろみや○ゝし日より○みしまゝま○又やみん○見るめかる○よそなから○見ろめつる○しらせはや○見えかくれする○うちのみるめ○一日はかりに

○みそおもろけ○あかぬよろめ○をらぬ面影○あしたほれこに○見しまかくを○見かたすはと○なきされみるめ○あの恋よそめ○すれぬかけ○花のすかた○行舟のほろのゆゑへて○なにゝなるみたとはかりよ○みこのつ紀ゆみるほとなき○よそなからみたにあかぬ○ほのかにみてをおをのけ○玉たれのみすてこむめや○をちのく浅あさゝの沼の花ゝつみ

續古　契りをはあさかの沼と思へゝやかつみなからよそてのぬるらん

○祈戀

神に願をかけていのるなり

ねきこと○ねきのくる○祈る身○祈るらん○みしめ縄○ゆぬたすき○祈りても○いのるてふ○きふね川○はつせ山○神垣○かたろき○うけおかぬ○いのりてし○神さよを○初瀬川○みそき河○たゆみをゝくる○岩にくたくる○波のしら玉○年へて祈る○たのむいのり○みたらしの波○むすふの神○波のしらゆふ○神たゝしめ○しるしも見え○祈るかおなき○いのるしるし○神たて、ろ○神たにうけぬ○神たいか紀○ゆふたすきあけていのる○波にしほれてきふね川○うけひかぬて、ろ○みしめ縄引手よなむを○ねきこと浅しるしをみえぬ○しめなはの長き契り○神もいさむる道○いゝとせゝ杉乃しるし○神の恵ゝをみしめ縄○ゝしめ縄掛をかねゐる○住よしろまつはつれなきためし○もりのしめ縄かけて祈る

家集　祈るにもかひなゝるへき契りのとしらとやせめて神の心を

○尋戀

ありかをたつぬるなり

杉れかと○とめきても○をしへしを○いつやとも○尋ねみん○とひよらん○此さと○たつぬとも○とひわひぬ○しるへなき○三輪の山本○もすれ草くさ○をしへし宿○こと、ぬさと○宿をとはゝや○とひよる宿○とぬかゐもなし○露のやとり○とふかゝもなし○をしへしも有らぬ宿り○うき人れありか○いかさまに尋ねもみん○杉をしるしの宿○風をたよりの家路○しるへなきやみよそたとる

御集　ならしふく秋より後はとこなつの露のよすかも尋ねわおつゝ

○久戀

逢すして年月ふる心を多くよめり

とし月○行すへ○としもへぬ○いたまてゝ○いつかわと○年をへて○うつり行○いつをまり○おもひ川○なゝた河○ふるの神杉○うき年月を○思ひよはらぬ○いく春秋○年もへにけり○年へてたれむ○つれなき中○つれなく過し○つらきこゝろ○年月のおもゐ○年月のつもるたらさ○うつり行月日いくとし波のこへぬらん○いろのうみふりし○松かえのたをなき色○いくたひゝりるろて貞享御會　果もなきこゐの道芝ふみ分て心をまよふ中乃としはき

○不逢戀

人のたれなるをてあぞぬをなけぐなり

うき人の○終にいと○こひしなん○ゐふまてむ○のたいとの○契あらは○つをなさも○うしや人○としふるも○かたし貝○うき中○うしつらし○身ひとたに○さりとも○こりすまに○いつはてか○あふまての○あぬことの○あぬよもしらぬ○あふことともかな○あらぬ思ひ○いつまてもまつ○色のつれなさ○つれなきなかの○命つをなき○こひしなぬ身

○ゐけはなれては○さのミはよもと○あふせをしらぬ○ゐひみぬなか○たのむもはかな○あふをかたり○頼むかひなく○りら月日○逢坂の關のこなた○玉のをの長きつらさ○下むもろむすほ、れたる○よろにかうゐふ法松原

○人にむすいぬちきり○夕烟なひゐぬ中○うちとけぬ契ろつらき○片いとのあいて亂る、○あいてのみ思しほる、○後れ世のちきりをねかふ○下紐法とけぬ

家集　此まゝまたゝこむしなん思はゐと思ふも物と猶ろかなしき

○逢戀

逢みて日比れうらみをとけて命もなら、らん事をねかひ今より心れかはらさらんことをたのむなり

新まくら○うちとくる○わするなよ○あひミては○あふさか山○うゐりしも○たまくら○さよまくら○あふ夜半は○とけろめて○たのむかな○うれしさ○こよひしも○これゆふへ○あとぬはの○かはす手枕○とくる下紐○行末ちきる○衣のさぬるの心もとくる○ゐふせれ水○待かひありて○あふの松原○あふよとなをは○心もれのす○りもることのは○ゐぬよはこよひ○床のちりはろぬ○しらいとれあぬよ○打とゝる人れ心○うらむへきことのはそなき○つれなさもかたり有けり○へたてなき心見えけり○うかりしもすれぬ

家集　あふことの夢路になれてさよ衣かへさてみるをうはゝ、とそしる

○逢不遇戀

あひみし人れふた、ひあはぬなり

此まゝに○別れたて○又ころと○すられぬ○かへりてぬ○みしやゆめ○今はまた○みしゆめの○身にそけふ○ならへて○思ひ出て○すれしと○ありしひとよ○かけはなれにし○ありしちきり○もとのこゝろ

○うきおもかけ○みしよのゆめ○もとゐ身ならぬ○又もあひミぬ○うつるもやすき○もとゐつらさ○こりぬうきみ○今さらしのふ○猶なけゝとや○一夜とていつ契りし○別れたて年もへにけり○ありし契りゐいつとり

○立かへり又やはよそに○ゆめや昔のゆめならぬ○ゆめにたに又あひかさた○過きりしむゐし○遠さのりゆく契り○其まゝにあふせはたえて○そのよのゆめれ別

○ひとよ法まゝのつきはし○今とならゝ〳〵まさる思ひ

家集　しらさりきあひミて後のりれなさにもとのなけきを忍ぬへしとは

○契戀　ちぎりてをかはりやせんと行末迄ことをうしろめたく思ふなり

行末○淺ゐらす○ゑするなよ○たゐまめや○のはらゝと○こゝろみよ○かねてと
○神かけて○もろともに○れほたかな○ちぎりおろん○たゝたむ○ちきりおく
○たのむ契り○こゝとれはの末○契る行末○ゐけしちきり○しらぬ行ゑ○ゑぬ行末
○契れはとても○ちよもとちきる○むすぬ契り
○のけて頼まん○人のことのは○ちきりしなの○末のまつ山○後迄世までのかね
こと○神かけてちきるとは○もろ神をかけて契りし○かりそめの契りならねは○
契りの末の松○なほさりに思ふなすなよ
新拾　世ゝのけて契りゑまてゝかゝくとも命ゐうちよのはらすも哉

○誓戀　行末かはらしと神佛をかけてちかふなり

ちかふ○賴まれぬ○引しめ繩○ゐけし契り○ち、れやしろ○ちのひよよらぬ○人
のいつゝり○神のけし心ゐしめ○ゆふゝすれゐけて誓ふ○ことのはことのちかひ
○哀れとは神もゑるらん○河れ石の、ほりて星となるよ
御集　たれまれぬ心は色にみえぬへしちのふによらぬちきりをしれ

○憑戀　ちきりを眞實ゝさのむなり

ゝさのむそよ○おもへ人○ゝ、たのめ○人のことは○人れちきり○たのむことゑ○
ゝさのむまこと○たのまる、哉○たのむにつけて○行末ゐけてたのむ○偽れある世
ならゐを○いひしま、にたのむちきり
龜山七百　いさや又ともに心のかよはねは我ゝたのめと人はたのまし
家集　いかならん末をもしらてあるまし紀我たのみをや果はなけかん

○疑戀　人の心をこゝみたよりうたかふなり

いかならん○ゝこのなしや○行末迄○かはらしの○あた人○たかまこと○よろゝや
なひく○又たゐまれす○うたかはをぬる○賴むにゐたき○秋風いかよ○ことれゝ
よくてうたる○末とほくちきるもあやし○いつゝりの有てふ人
○波ゝこゝさしとちきりしも○人の心ゐ底をしらねは○我ならら人に心やかよゝす
と
新後拾　このねてより人の心もゑらぬ世にちきをゝとてもいか、たゐまん

○待戀　幾たひかちきりしもむなし之なりて待こゝれ久し紀を歎をなり

待よひ○いたゐらに○まつ風○待わひる○ふけぬとも○宵れま○ふくるよ○たの
めをきて○よつの月○たのめつ、○さりとも○はし姫○よひ〳〵○松れ戸○明
るをかこつ○入相のかね○夕くれのかね○夕くれ紀空

○更ゆく月○閨のとさ、ぬ○たのめし夜半○むなしく明る○さ、このにのいと○ふけ行空○待は久しき○ひとりねの床○涙かたしく○まつとせしまに○頼むこよひ○まはよひ過るいく夕くれ○まつ夜む形しき○心のまつ○まてといぬるのことのは○いれはりたくる鳥のね○さりともと思ふこよひ○偽にならひこし身○ならすとたれめし人○まてとちきりし一こと○まきの戸をさすをといひて

千首　よふけぬと思ひはすてし人やも去人のしつまるほとをまつらん

○不堪待戀

人まつくるしをのたへかたきなり○まつ宵過るこゝろほろさ○あふことの我玉のをも頼まをす○狹れ上れ聲をもろてよ拂ふこのね○心さへ猶身にうとてまつ○むなしくて明もやしなんと斗を此夕より先歎を

雪玉　おとよよも身をくちぬへ去橋姫れそてやりれなく波にぬをけん

元祿御會　打わおて分や行まし道芝れ露よりさきに消ぬへき身を

○稀戀

わふことのまをるなり

月日へたては○りもる年月○あぬ夜まれなる○稀なる中○まれのちきり○稀にあふよ○まれなるもめ○絶まかちなる○あぶよかさねぬ○うき、の魂のあふせ○あはぬまの月日のさねし○七夕のちきりよたをふ○まくらのちりつもる○とたえしこし中の日數○あはすして過る月日○思へは君のこのはらしな

壬二　手を打てかろふるもうしあふことのまれなる中につもる年月

○別戀

あかぬをかをに鳥乃音有明の月をもうらむなり

とりのね○きぬ〳〵○わかれち○又いつと○あくる夜○をき出る○なを鳥○わかすしも○しはしとて○今はとて○ねやの戸○見送る○ゝへるさ○明ぬまと○あかつき行かね○しれ、めれ空○おかふるそて

○そてのうつりか○けさの別路○そてのわかれ○あのつきのそて○いろををこのれ○あまりよふのき○きぬ〳〵れ空○見おくるのた○この朝露○別のなしき○おもかけれてる○道芝の露○よをこめて行○いろくをかれ

○うきくぬ〳〵○おきわかれ行○在明の月○ありあけの影○わかぬわかを○こと

のはの殘る○道芝の露分まよふ○別かなし枕手枕○鳥のねもまさて起行○峰にわかる、横雲

千首　きぬ〳〵にをれはあぬよも猶うしと思おかへしてをけく空哉

○後朝戀

別れて後の朝なり

わかをこし○うたりか○まき行戸○道芝○床の上○袖の露○おもものけ○名殘あれ

や○朝つも○かへるあしたの○殘るうたゝりか○またねの夢○のへるさつらき○今朝のおもひ○けさのおもひのけ○今朝は身○今朝のたもと○床乃朝露○ねての朝け○今朝の命○けさのこゝろ○わすきぬけさ○けさしをのなし○起出し道○別をしけさ○明ぬと出し○起出しとこ○ゐかてゐかれし○またねの床○道しばの露○殘ることゝ○露分る袖○あしさゐとこのおもゐけ○のきやるけさのことのは○移香もまたさゐからの○まきれ戸明ぬと出し○きぬ〳〵のわかを

續千　鳥ねに起るゐきつるきぬ〳〵は涙かゝかぬ今朝の戀哉

○增戀　日にゐゐて思ひのまさるをもいへり

おもむろふ○いと、うき○ふかくなる○數そぬうゑ○袖の露ゐふ○いやまさり行○よをへてまさる○そめます色○ゑのふゑ淺ゑ○戀しさゐはすみのか、み○日ゐろひてしける○見るたひに色はさり行○思ひますさゑ池○あかぬ歎きの數まさる○更に思ひのゐぬるゐうし○中川のみきはまされる

拾恩　さま〳〵にうゑもつらきも思ひ草茂そひぬる種とこそなれ

○切戀　切なる思むのやみゐたく今をかゑりとなるをいふ

後の世○戀しぬる○なみたせゑ○うゑ身世ゐ○わりなさ○よはるいのち○ならへて待○こゝろひとつ○おもひの露○後の世はやみのうつゝ○命はゝてとなけく○露の身の消ぬもうしや○なからふへくもおもほえぬ○袖にも身ゐをあまる思ひ○ぬしと思ひおきてわすれぬ

家集　知られしもなもえん烟乃果をさゐはさて思ひの身をこゐすとゑ

○思出切戀　もとあひ見し事を思ひ出て今さら切に思ぬなり

新續古　なけき思ひせめてゐのよをしたえとや忘れし影の月に添らん

○思　戀ゑおもひをいふ大かた思むと詞にあらハしてよめり

思ひあらは○おもひ草○思ひ川○おもむすは○おもひしらは○さま〳〵に○おもふて、ゐ○思ひよハらて○思ひしほる、○おもはんかた○うち出ぬ中は思ひ○思ふも物をとはゐりに○誰もへならぬ思ひ

壬二　これも猶さゑめなきよの果そうき下乃思ひを浮雲はそら

○片思　人は思はて我ひとりおもぬなり

うつせ貝○のさゝ貝○うしや人○思はずは○かたいと○かいなしゑ○あゐも思ハぬ○かたおもひする○心がよはぬ○我はみ淵と○よりあふことはかゝ糸の○れも

ふもも思はぬ人の我のみのなみさ

玉吟　いかよしでわか思ふほとをらすならすとはかりさにも君にしぶれん

○厭戀　先の人の我をいとふなり　又我なのらうき身としれは人のいふもことはりと思ふにつけて猶したはる、よしよめり

身をうらみ○うきをしる○うしやみは○いとふへき○いとふすのた○ほれさへいとふ○すさめぬ戀○いとふものから○なきたる朝(本歌有)　古今　雲もなをなきたる朝は我なれやいとはをてのみ世をへぬらん

○いとはるゝ人の心○我れゝのなみた○人は思ふも出し世に○露の身はおきとてろなを○さはゝ〳〵のさわりになしてとはぬ○我心にもいとはしき身

龜山七百　忘ふる、身をうき雲のありはて、なきたる空になのめ詫つゝ

○絶戀　中の絶たるなり契りしなをと絶ぬれと思ひねの夢は猶行かよふよりしなとよめり

絶よけり○音たえは○うき中○のきたゆる○たえぬるを○絶ぬへき○たえ〳〵にたえはて、○中絶て○のをにけり○いまろしる○たえて後○たえぬる後○たえぬちきり○絶ぬる中○たえはてにける○とし月たえて○わか玉乃を

○たえんかきり○らくたえはつる○逢夜さえぬる○たえて久しき○風のさより絶はてぬ○人心ゐれに去後○かたいとのさえての○一ことのうらみに絶えし○たえぬへき契り○うき人の思ひたえぬる○今ゝよそあるゝ○たえにけるうらみ○ことのも草もかきたえて○中たえて頼なきゝ○たのめをきしことは殘りて○おもかけは猶みはうひて○絶てゝ後もみにろふをもかけ○うきかすのつもれは人やうとみはてぬる　もろともに枕さゝめて見しよはの夢より後はねんのさもなし

家集

○絶後驚戀　中絶て後ふゝさゝむいひおとろかすなり

玉葉　絶果しその年月になからへて去ねてさてもといふもつれなし

○恨戀　こひ〳〵てゐりなく見ろめつる人のこゝろさしの深からぬをうらみかきりなくたのめしひとの心のこのはりゆくをうふむるなとくを〳〵あるへし

うらやよと○我うらゝ○かこあてし○うらむるも○つらしとて○うきふしを○うき數の○しるやいかよ○うち出て○うらめしや○うらみゝや○衣のうら○みをうらなみに○りらき浦波○いかにはるけん○嶌の秋風

○葛乃夕風○つもるうらゝ○ふのきうらみ○なか法うらみ○下のうらみ○うらみをこめて○猶深かふん○ゝもらんも乃を○去らすこのほなる○今のうらゝ○よそのうらみと○思ひしるへき○うらむるふし

○うきふし〳〵○うらみれて○にくからぬほとに○もらし初ぬと○猶こりすまに○のこるうらみ○衣しもうらみす○うらみかさなる○秋のこゝろ○つらきうらゝ○ゐこちやりても

○葛のはのうらみ○をしのへしうらみてもそん○心にのこるうらゝ○いくよつも

れる恨み○人傳にのこちやりても○つゝむにあまるうちゝ○こひ衣うらみても猶
○うきみくまの、うらゝ○心にあまる一こと○なほさりの恨みやきゝ○しれひあ
まりしふし〳〵○いのにしていかにはるけん
○あふことまゝのうらゝ○いろてか思ひもしらん○うらみてろ心をもみん○にく
かるましき○數しらぬつらさ○ありそれ海の深きうらみ
御集　かれて、今はうらみん風もあし秋より後乃岡の葛葉は

○老戀　老れ身のが、るをもひは有ましき事とは思へとはや色ゑ顯されぬる心又いひ出ても人のうけ引ぬに老れみをなけゑ心なとよめり
老をしる○こゝしなん○よはむのほと○老ろしらる、○いをほとの世ろ○我世ふ
くれゝ○我世ぬけぬる○年つもる身○老のいのち○老曾のもり
元祿御會　しのふ山思ひしたむる心さへあやなく老の身にゝくるゑき

○初戀　まさとしをさなき人を思ふそめおむたゝん行末はわかものに領せんとおもふなり
在五中將ねつゝにたけをくらへし事　井手の下帶の故事なとによそへてよめり
ふりゐけのゑ○またいはけなき○またむすはれぬ○春のわか水○ゐか葉のなし○
よとの若こも○まゝふしなれぬ呉竹○若草のおむ出んほと
草庵　めをりあふ程をはいつとしらねとも人にはとけし井手の下帶
元祿御會　はかなしや生さきとほき初草のはつこゐむすふ露のちきりは

百七十

○遠戀　遠方の人をこふるなり

うみ山○みちたく○ちさと○中道○たゑしのはて○さのひはるの○て、ろりゑし
○峰れ白雲○思ひおこせよ○あつまのはて○とほ山鳥○へたつる中○あまりほと
ふる○いくうみ山○て、ろの道○白雲の八重ゑれちかゝ
○行かよぬこ、ろ○人の心の海山○思ぬもとほき中道○海山をへたつる中
新移撰　尋ねても行へしるへき契りろゝもろこし船の跡のしら波

○近戀　近所の人をこぬるなり隣家あるひゝ同居なと數々もとむへし
中垣○聲かよふ○まちかき○はとなき中○軒はならぬる○たちよるねや○ちかく
て遠き○よろめゝかり○はひゐたるほと○芦垣のまちろき○ことのはゝかはすゝ
かり○逢ことはよろにへたて、
○ゐこの上をかたると聞ろ○へたてけるまかきろ島○中垣のかひまみ
六百番　いのなれゝほとなゑ中ゑ通路も逢みぬよゝ、くるしかるらん
○旅戀　故郷の妹こむしき心をも　又は旅にてあむみし人をこふる心を
もよめり
○草まくら○旅ゑ空○鳥このね○旅まくら○ふるさと○ふみかきて○旅のまろね○
かりねの枕○野へのかりふし○たむねの夢○をよの中山○あゝれ大野○今ろゐろ

百七十一

る、○たのむまくら○わらぬわかれ○旅夜このへす○野上ゝ里のかゝ枕○思ひねの草の枕○かたしく山のこゝろ枕○ぬるさと人をこふる○ふるさとのたより○ゆめのとまやにかりねして

家集　草枕ゆめよの床はみにろへるおもかけならて見るゆめをなし

○夢戀

夢の中に思ふ人にあふと見　又はあのぬ別をなけき

さめておとろく心をよめり

見し夢○あふとみし○おもひね○時のま○さよまくら○覺ぬれは○手枕○夢にて

も○おとろきて○さよころも○みる夢○あふとゝは○うた、ね○夢路○こひ衣○

おもかけ○ゆめゝ別路○ゆめやよふこの

○おもゝのけかよふ○ゆめのかよひち○ゆめの名殘○あひゝしゆめ○ゆめのまをら

○うた、ねのゆめ○もめのうきはし○よる〳〵このよふ○さむるゝかれ○夢とやい

とゝんいやかてさめぬる

○みしをわすれぬ○ゆめのはかなさ○ゝしはは○のなき○ゆめのうちなる○ゆめの

ゝかれ○思ひあはする○あたゝまゝて覺ぬるゆめ○おもゝけの殘る○うつ、ゝはい

つなしてみん○思ひねのゆめゝちきり○あはせつるゆめの行へを賴む○雲になゝ

め雨にしほをて（巫山神女ゝ故事なり）

夢戀

龜山七百　今を猶さめてうつ、にかなしきゝ心にゝてるゆめのおもゝけ

戀夢

家集　さよ衣さめてこのひなき今のみのうつ、をゆめに又かへさはや

たまつさをこのよはすて、ろなり

○通書戀

とりのあと○そしほ草○かきやる○かよゝす○むすひめ○玉ゝさ○かきかはす○

みたく紀○ひとふて○あたなる筆○あのぬ玉つさ○筆のすさひ○むら鳥の跡○み

ゝ久きの跡○かきもつくさぬ○むすひ志ま、

○ゝりをなくこのへる○うゝ紀玉ゝさ○ふゝの墨つ紀○露の玉つさ○手ぬをぬふみ○人

にさかへこのと○さ、一ことの○見るゝひもなし○思ひしるいらへ○たゝ一筆の玉

はを○しのふの浦のもしほ草○一筆をつたへん人○水くきのかよふ○た、一ふて

もかきそへは

柏玉　もしほ草かたやる波の返るまもまさる、はとはみをうゝみつ、

○戀命

命にかけて人をこふる心なり

いけちにかふる○命にむかふ○よゝるいけち○命のをて○いのちひをた○このけし

命○あふことにかへんとおもふ命

玉葉　有とてもあふせをしらぬ命をは何れたのみに猶をしむらん

○詩に此興の體あり歌をまゝ物になそらへ事によせてよむへ紀ことあり離別懷舊

まゝ詠史詠物等のさくひゝなしかり中にも戀歌は花鳥風月によせてよむかたいとをかしさては寄戀乃昔より多かるもさることなれはこゝに寄戀の類をもあゝへ記なをと所せけれゝ他ゆつりてあふ記せ

雜部

○天

あめ　そら　天つ御ゐら

天は天つ國をいへをと歌には多をゐらをそよめりゐらのうみ○鳥れ道○あまのと○天津そら○ひさかた○天のはら○大そら○天てらす○天の川○天つたふ○すめるはゐら○むなしきそら○岩戸の關○天つみそら○水色れそら○みとり徒そら○なかき天路○天れうきはし○ゐまのいはくら○天のやちまた○天ゆくや○あめたちのいや遠なか記○大空れいつゝをはて

拾明應百首　空のうゝ雲の波たつ月の舟星の林にこきかへるみゆ

こゝろからなのめてけりな天の原むなしき色と春秋をゐも

○日

あまつ日　てる日　朝日　夕日

天照す日大神乃しろしめすてふ日徒御國をいへり

日乃ゝかけ○日さかり○あさひこ○くもり日○てる日うすき○日あたり○朝ひゝ

ひ○夕つを日○うち日さす(日影と物徒間よりさし入るゆえにいふ)○日さかり○天つたむ(むかふ朝日云々)○天の岩戸○岩戸出し○日のうら〳〵○明る日のけ○

朝日まつま○あさひかくを○日影たけ行○日影いさよふ○たのてらす日（高くてらすなり　天子の御事）○ひのけかけろふ○夕日のくさち○とよさかれほる○うすき日影（秋の日なり）○朝日影にはへる（匂ひは蒸香にあらず餘光なり）○土さへさけて照（炎天なり）○あのねさしいたる光

明應百首　あふけなほ岩戸をあけしその日より今よさねせすてらす惠みを

鰒玉　日の光り至らぬくまもなきものをうとしとうらむ人もありけり

○星　ほし

星つくよ○西にめくる○よわ星○あまた星○かゝせを（惡星なり）○あのほし（曉れ明星なり）　○夕つゝ（夕に出るほしなり）　○ほしまたる（七夕なり）

○ほし法はやし○ほしのやとり○雨夜のほし○つふなるほし○ほしをいたゝく○ほたをつらぬる○ほし出る空○ほしのきらめき○ほしみえ初る○ほしのやらね○ほしのひかりこくる、まに出そふほし○わをまもることしはほ去

○月れすむ空にまきる○久かたのほし○南にはきに見ゆるほし○南にすめるひるほし（熒惑ほしなり）

六代　君にのみあわまくほしの夕されゝ空にみちぬる我こゝろかな

日くるれは山のそにねる夕ほゝのほしとはされとはるけきやなう

○風

天つ風　時つ風　朝風　夕風　おひ風　おひて　はやち　あらし　おろし

季によりて其名れかそをるいこゝにもあけす

天りかせ○くもかせ○島かせ○山のせ○家のこのせ○あすゝ風○佐保風○はつせかせ○なには風○いのほ風○うしほゝせ○みなと風○朝こち○きたこち○まこちふゝ○かさまつり○ふる紀風○世々のかせ○風ほたる○風もやゝ○島おろし○谷おるし○川おろし○山おろし○横かせ○ありろこのせ

○あらしたつ○風かはる○吹おろす○あなしけ（戌亥の風なり）○關ゝせ（逢坂れ）

ひゝたふく（日方は未申の風なり）○浦わのかせ○しれ、葉分○風のしらへ○風のかよひち○下ふくかせ○山下のせ○風のたよりのねやの戸風○かさまをまつ○千五百秋風○こちれ山風○根こしれゝせ

○こゝろのこのせ○風のすゝた○すゝ紀まの風○谷の辻風○うきよれ風○こゝとゝれ風

○あらいゝ風○こひのはつかせ○袖れ追風○たかねおろし○夕山おろし○伊吹おろし○あらしの北○みとりのあらし○よもきふれ風○あらしのまくら

○嵐ろろこ○嵐のまこ○嵐のこのせ○嵐まのせ○杉の嵐○こしろねわたし○ひらろねわたし○松のあらし○宿とぬ風○木れ下風○そらすむ風○むかしろ風○もりのしたこのせ○をきのはやち○ふきのまに〳〵○しなとの風○あらしゝ落る○こす吹

かへす○枝吹しをる風○呉竹の葉分のゝせ○ぬまの山おろし○足引の山ゝせ○このゝいほのはまとぶ風○かひかねのねわたし○吹れほる谷風○あらしもあらき草かき○吹おろすあらし○玉ほころ道の山風○いくさとかけてかよふらん風

風

代六玉葉續撰

ねられねは月をみるたよ有ものを身にもしみつるよいの風のな
追風のふきぬるときいてく舟をほに出てころうれしかりけれ
ひゝきくる松をうれより吹落て草に聲やむ山の下風
草木まておちてもみえぬ天津風雪のゆきゝや宿りなるらん

嵐

壬二家集

吹しをる峰の木草のいかならん袖たにたえぬ秋はあらしに
山ふかみあらしの軒は松ふりて春の日影もうとき下庵

○雲

うぎくを　あまくも　豊ゝたにも

雲はやを○青くも○雲の波○山くも○かせをも○雲のはる○雲つゝく○雲は袖○八重たつ○久もみつ（雲と水となれり）○山ゝつら（よこくもなり）○八雲（神詠より出）○立のほる○立り、を○一むら○あしはやみ○雲をらき○雲しをむ○薄雲○朝ゐる雲○朝たつを○夕ゐる雲○雲のたより○くものまらき○よもの天雲○朝ゆを久を○零の夕くれ○夕をものそら○雲とつる軒○をねたちのほる○雲のはつれ○うれへは雲○よろこふくも○うかへる雲○をものまろて○心なをくも○よこをる雲○八重のをもゐ○くものとゝり○くもれとさし○くもとふをねゐあまとふくを○八重くをかゝる

○五百重山くも○くものかけはし○雲のいつこ○むらちるくも○こゝろの雲○みねたを雲○くもこすをね○いさよふくも○雲はうさ波○雲の一むら○雲はみなと○おりいるくも○雲しく谷○雲いる谷○天の白くも○ざわたるを○くものころも○尾上のくも○こりゐるくも○遠山かつら○波の横くも○尾上をうつむ○空行久も○夕はを久も○をはあしとき○明ゆ久くも○かへさのくも（あしたに山より出て夕ゝかへるなり）○あしたのくも○久ものあるし○くものをやこ（蓬萊山なり）

○かせにき行○くもをのたしく○久をのはたて（はたに、たゞ夕乃くもにて月の明かなる故事）○峰のうきくも○わのる、をね○わゝる、くも○風にまかせて行くを○天さのるくもね○雨はれをも○白妙のくを○山たちはなを行くも○山わかれを行久も○くちなし色ゝたなひ久（雪けはくもは黄なり）○あしたもふ夕乃くも○大空にあやしきくも（夏のをも峰はことくあつまるなり）

詩句有　○ほを〳〵しらむよこをも○くれぬとてかへるくも○谷の戸に出入る○山のはに夕をゝへる○さま〳〵のすゝた○山ををとをみえをるをも

風雅　山あひにおりしつまをる白くものしゝしをみををはや消にけり

延寶御會　明わたる高ねゝはをて薄をこく山のすゝたにかゝるしらゆき

○雨

あめ　こさぬ　むらさめ

四季に名れられるもこゝにあけす

雨のいと○日てりあめ○横あめ○雨のあし○あまやとり○あめのこゑ○こさめふる○にわたつみ○雨をもる○あめさそぬ○雨そゝを○雨夜○雨間○うちしめる○そほぬる○雨もよ○なかあめ○なかめ○あまつゝみ(あめおほひをいふ)○あまそゝ、ぬ(雨たれなり)○まとうつ雨○めゝみの雨○あしときあめ○雨になる○雨のくれの○軒のいとみは○した、る雨○軒もる雨○とまもる雨○夕くれの雨○雨夜の空○身をしる雨○(涙なり)

○もりくる雨○雨にもゝむと○たゝおく雨(かすみてふるあめなり)

○むらさめ○空○行つもりぬるあま雲○あまけよつたふ浮雲○軒はとめもく雨水

○むさかたの雨○あけまきのおちかさ雨○つれ〳〵のなかめ

六　雨にふる道はまとむぬ山しなのかさとり山はいつこなるらん

風雅　ゝゝもしつむ谷の、きはの雨乃くれ間なれぬとりの聲も淋しき

○火　ともしび

石れ火○松の火○むねれ火○あし火○ともす火○光うす火○いさり火○すくも火○わらひ○きり火○いけ火○もゆる○こかる、○か、けそふ○ゝ、くるゝうむく

る○とふ火(烽火なり)　○にゝ火(神樂)　○をき(埋火)　○ゐまのすくも火○もゆるほのほ○釣のいさり火○むねれ埋火○ゐまのともし火○風のまた、ゝ○さむ

きともゝむ○なみたに、ほふ○しめるともし○ひ○ほのほみしかき○海士のたく火○宵のともしひ○まとのともしひ○てらすともしひ○まなひろまと○まゝはぬまと○むかふともしひ○かけうすゝなる○ゝけさへしめる○光をのこす○ともなふかけ○宿のともしひ○心にくらき○影さたゝらぬ○殘るともしゝ○しはしなきえろ○よひのともゝ○ひのゝむまもる○光さひしき○法けともしゝ○や、かすかなる○か、けつくさぬ

○のへよそむける○とをしひのゝけ○岩木のなかれ思ひ○しらぬ火れつくし○ともしゝのあかし○灯に入なつれむし○とともしひ○よをのこす○つく〳〵とまもるともしひ○ともしむれ花○たと〳〵し○螢よりけにたくほゝけ○燈ゝ火の影ほのかなる○このへにみる我かけ

○殘るもうすきひかり○草の庵のあれまほのめく○そむけぬ閨に殘る○ともしむれけぬへきかけ

六　火

風雅　人を思ふ心れおきは身をそやくけふりたつとゝをえぬものから

燈

天和御會　思ひつくす心にときけうりをとも同しゝけなるねやのともしひ

この、けてもかゝこそなけれみるふゝの心にくらき窓乃ともしひ

○烟　けふり

朝けふり○薄けふり○夕けぬり○水のけふり○しほけぬり○たつけふり○けふり
にきはふ○烟のなみ○あさけれ烟○雪けのけふり○むねのけぬり○けふる汐瀬○
ほふけぬり○なひ久けふり○けぬりくらへ○下れけふり○けたぬけふり○芦火
乃けふり○野やくけふり

○烟のやみ○もぬけの烟○ほしはの烟○つねのけふり○野邊れけふり○よはれけ
ふり（各無常なり）　○烟立ろふ○烟ろほそき○烟けぬたき（蚊遣火なり）
○山もとくる、○世々のけふり○（戀によめり）　○けぬりの末○むねの夕けぬり
○さきもろ、けふり○人を思ふの初けふり○下むせふ松のけふり○下もえの思ふ
れけぬり○室のやしまのけふり（下野國）　○賤のたくましはのけふり○一むら
のけふり○あさけもふけのけふり○末うすき宿のけふり○朝夕にけふりたてろふ
○たつるけふりの末あひて
○やと〳〵にたつるけぬり○かわらやの下にかる、夕けぬり○民のかまとのけ
ふり

續撰　山かけやひとが折しを〳〵しはく〳〵もよろの人目にたつけふりかな

○塵　ちり

ねるちり○ちりのみ○塵の世○みのちり○くもろ塵○ちりひち（塵泥なり）
○床のちり○浮よのちり○をれなるねの塵○ちりれへたて○塵をさまる○いくよ法
ちり○あをたつちり○御法れちり○枕れちり○はらはぬちり○光にをゆるちり○
塵にましはる光

古　風殘上にありかさためぬちりのをい行へもしらすなりぬへらなり

○曉　あかつき　あかと兒

曉ハ曙の前にて東のそらのいさゝらしらむうちをいへり

あけくれ○いなのめ○しの、め○山かつら○あかほし○よこくも○ろねれ聲○ね
さめ○鳥かね○夜を殘す○殘る夜○ありあけ○かねのおと○なくとり○あかつき
おき○あかつきやみ○あかりきかけて○あのつき露○たかあかりき
○殘れる月○鳥の八てゑ○曉ちかき○曉ふかき○あかはきのた○あゝりきしらぬ
○あかはきやゝ○しはなくかけ（しはし鳴家鷄なり）　○てよひもあけぬ○有明れ山○うは玉の
○在あけれ月○ゝはたれ時（異名なり）　○てよひもあけぬ○有明れ山○うは玉の
あかはき○さしくしのあのつき○君にはのふる曉○ともし火の、てる○在明れか
けふむ道○玉々しけ曉こめて○よふのきのねのこゑ○みの行へ思ふねさめ○とり
ゝねにおき出る○ゆゝはしの空にか、やく○鳴はゝきたるとり

新勅　まとろはて物思ふやとのをかゝ答よゝ鳥のねはかゝ嬉しきゝなし